

景況などに関する会員アンケート

調査結果

2020年4月

北陸経済連合会

目次

1. アンケート調査実施概要	1
2. アンケート調査結果概要	2
総括	2
I. 景気動向	4
II. 業績	7
III. 設備投資	9
IV. その他	
1. 新型コロナウイルス肺炎の影響について	11
2. 採用活動について	13
3. 多様な人材の活躍について	15
参考（アンケート調査結果）	22
I. 景気動向	22
II. 業績	26
III. 設備投資	29
IV. その他	
1. 新型コロナウイルス肺炎の影響について	32
2. 採用活動について	36
3. 多様な人材の活躍について	40

1. アンケート調査実施概要

○実施概要

北陸の景気動向や業況その他について、会員の意見、要望を迅速かつ的確に把握し、各方面への要望活動に活かすため、北陸地域の景況などに関するアンケート調査を実施した。[今回で43回目]

以下、その結果を報告する。

○調査時期

2020年2月28日～3月13日

○調査対象

北陸経済連合会会員企業

○回収率

回答率47.9% (送付企業307社、回収数147社)

○調査企業概要

本社の所在地	回収数	割合
富山県	52	35.4%
石川県	51	34.7%
福井県	19	12.9%
北陸三県以外	25	17.0%
計	147	100.0%

資本金	回収数	割合
1億円未満	51	34.7%
1億円～10億円未満	45	30.6%
10億円以上	51	34.7%
計	147	100.0%

調査結果の取りまとめにおいては、規模別を以下の基準で分類することとする。

【規模別】

- 大企業：資本金10億円以上
- 中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
- 中小企業：資本金1億円未満

	業種	回収数	割合
製 造 業	食料品製造業	5	3.4%
	繊維工業	2	1.4%
	木材・紙・パルプ製造業	0	0.0%
	出版・印刷・同関連業	4	2.7%
	化学工業	2	1.4%
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	3	2.0%
	金属製品製造業	11	7.5%
	機械工業	5	3.4%
	その他製造業	20	13.6%
	小計	52	35.4%
非 製 造 業	卸売業	13	8.8%
	小売業	2	1.4%
	建設業	20	13.6%
	電気・ガス・水道業	3	2.0%
	運輸業	8	5.4%
	農・林・漁業	0	0.0%
	鉱業	0	0.0%
	金融業・保険業	18	12.2%
	不動産	3	2.0%
	サービス業	21	14.3%
	その他の非製造業	7	4.8%
小計	95	64.6%	
計	147	100.0%	

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

北陸の景気動向

悪くなったという回答が7割を占め、景況感は悪化している。
来期も引き続き悪化を見込み、悪化傾向はしばらく続く見通し。
悪化の理由としては新型コロナウイルスの影響という回答が最も多い。

- ・ 2019年度下期の景気動向については、前期（2019年度上期）と比べて「良くなった」「やや良くなった」と答えた企業が7.4%で、「やや悪くなった」「悪くなった」の73.5%の方が大幅に上回っている。「変わらない」と答えた企業が19.0%となっている。
- ・ 2019年度下期の景気について、景気判断BSI（「良くなった」と答えた割合から「悪くなった」を引いた値）でみると▲66.1となり、前回調査（2019年度上期）の▲28.7から更に悪化し、2008年下期（▲97.7）のリーマンショック以来の低い水準となっている。
- ・ 来期（2020年度上期）の見通しの景気判断BSIは▲69.4（今期▲67.4）と引き続き悪化を見込む企業が多くなっている。
- ・ 現在の景気が「底這い」「下降」とした企業について、景気が悪い理由を尋ねたところ、「新型コロナウイルスの影響」が81.6%と最も多く、「米中貿易摩擦の影響」が44.8%、「消費税増税の影響」が42.4%で続いている。

業績

業績が悪化したという回答が増え、悪化傾向である。
来期は更なる悪化を見込んでいる。

- ・ 現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が23.8%（前回41.2%）、「どちらともいえない」とみている企業が45.6%（前回42.5%）、「悪い」「大変悪い」とみている企業が30.0%（前回15.0%）となっており、悪化傾向である。
- ・ 2019年度下期の業績の前期（2019年度上期）との比較では、業績判断BSI（「改善」と答えた割合から「悪化」を引いた値）でみると、今期は▲25.9と、前回調査（▲9.6）から更に悪化し、2009年上期（▲37.8）以来の低い水準となっている。
- ・ 来期（2020年上期）見通しの業績判断BSIは▲37.4（今期▲25.9）とさらに悪化を見込む企業が多くなっている。

設備投資

現状の設備水準は適正とする企業が多数で、2020年度の設備投資見通しは引き続き増加傾向だが、2019年度より増加幅は減少。

- ・ 現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が74.1%で、前回調査（72.5%）同様、大半を占めた。また、「不足」「非常に不足」とする企業（18.4%）が「非常に過剰」「過剰」とする企業（5.5%）を上回った。
- ・ 設備投資の前年対比については、2019年度は「増加した」と答えた企業（33.3%）が「減少した」と答えた企業（15.6%）を上回った。2020年度の見込みについても、「増加する」と答えた企業（21.8%）が「減少する」と答えた企業（16.3%）を上回っているものの、増加幅は減少している。

その他

1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響について

- ・ 現在、新型コロナウイルス肺炎による企業活動への影響が「大いにある」「ある」「ややある」と回答した企業は71.4%となっており、「今後懸念される」が22.4%、「あまりない」「全くない」が6.1%となっている。
- ・ 新型コロナウイルス肺炎による影響があると回答した方に、具体的な影響を聞いたところ、「出張など人の動きの制限」（81.0%）と最も多く、「国内消費低迷による売上減少」（43.8%）、「製品・部品の不足」（23.8%）と続いている。

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

その他

2. 採用活動について

- ・ 2019年度採用活動（2020年4月新卒者等）では74.8%の企業が採用を行っており、前回調査（2019年4月新卒者）の82.4%より減少している。採用者の構成としては、製造業では高校卒、非製造業では学部卒が多く採用されている。
- ・ 採用活動の充足率については、全産業で51.5%（前回調査55.8%）の企業が90%以上と答えており、前回調査より減少している。規模別に見ると大企業（67.9%）に比べ、中堅企業（48.6%）、中小企業（41.2%）と低下する。

3. 多様な人材の活躍について

【女性正社員】

- ・ 女性正社員の正社員全体に占める割合は全産業で平均27.2%で、製造業（平均24.5%）よりも非製造業（平均28.7%）の方が高い傾向にある。過去5年程度における変化では全体的に増加傾向であり、非製造業より製造業の方が増加傾向である。

【女性管理職】

- ・ 女性管理職の管理職全体に占める割合は全産業で平均6.8%で、製造業（平均4.7%）よりも非製造業（平均8.2%）の方が高い傾向にある。過去5年程度における変化では全体的に増加傾向であり、非製造業より製造業の方が増加傾向である。

【女性の活躍】

- ・ 貴社において女性の活躍が進んでいるかは、全体で42.9%が進んでいると回答し、38.1%が進んでいないと回答している。業種別では、製造業（32.7%）より非製造業（48.4%）の方が女性の活躍が進んでいる傾向にある。規模別では大企業の方が中堅・中小企業より女性の活躍が進んでいる傾向にある。
- ・ 女性の活躍のために実施している取り組みとしては「育児休暇・休業の取得奨励」（59.9%）と最も多く、「女性リーダーの育成」（43.5%）、「柔軟な勤務制度の整備」（42.9%）と続いている。規模別でみると大企業の方が、中堅・中小企業より、女性活躍のための取り組みを実施している傾向にある。

【高齢者】

- ・ 60歳以上の雇用者の雇用者全体に占める割合は全産業で平均9.8%で、製造業（平均7.4%）よりも非製造業（平均11.3%）の方が高い傾向にある。過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が49.0%で全体的に増加傾向である。

【外国人材】

- ・ 外国人材の雇用者全体に占める割合は全産業で平均0.8%で、製造業（平均1.4%）の方が非製造業（平均0.5%）よりも多い傾向にある。過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が15.0%と「減少」「非常に減少」の4.0%を上回り増加傾向ではあるが、「該当なし」は48.3%を占めている。

【中途採用者】

- ・ 中途採用者の正社員全体に占める割合は全産業で平均26.8%で、製造業（平均31.3%）の方が非製造業（平均24.6%）よりも多い傾向にある。過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が48.9%と増加傾向である。

【障害者雇用者】

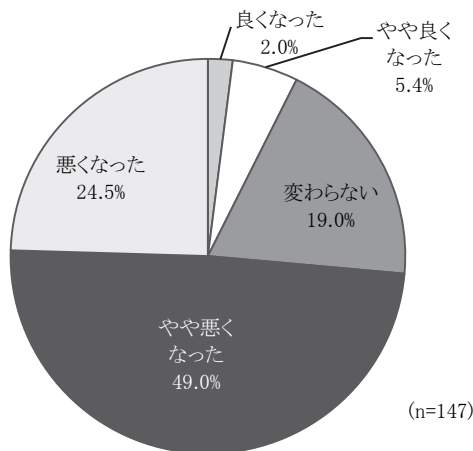
- ・ 障害者雇用者の雇用者全体に占める割合は全産業で平均2.0%で、製造業（平均3.1%）の方が非製造業（平均1.3%）よりも多い傾向にある。

I. 景気動向

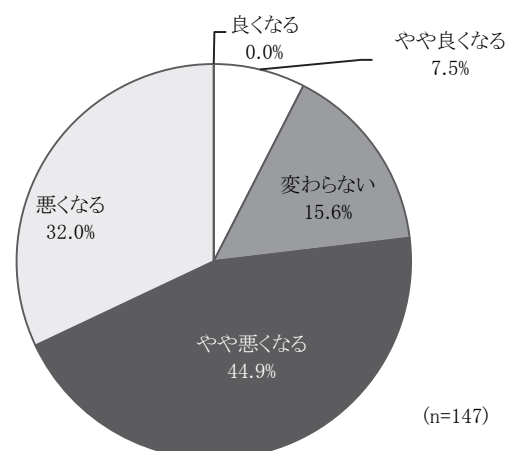
悪くなったという回答が7割を占め、景況感は悪化している。
来期も引き続き悪化を見込み、悪化傾向はしばらく続く見通し。
悪化の理由としては新型肺炎の影響という回答が最も多い。

- 2019年度下期の景気動向については、前期（2019年度上期）と比べて「良くなった」「やや良くなった」と答えた企業が7.4%で、「やや悪くなった」「悪くなった」の73.5%の方が大幅に上回っている。「変わらない」と答えた企業が19.0%となっている。（図表1）
- 2019年度下期の景気について、景気判断BSI（図表3、※）では▲66.1となり、前回調査（2019年度上期）の▲28.7から更に悪化している。業種別にみると、製造業が▲63.5（前回▲42.2）、非製造業が▲67.4（前回▲21.0）と、どちらも悪化している。
- 来期（2020年度上期）の見通しについては▲69.4と今期（▲66.1）と同様に引き続き悪化を見込む企業が上回っており、製造業の▲63.5（今期▲63.5）よりも、非製造業の方が▲72.6（今期▲67.4）と悪化を見込む企業が多くなっている。（図表3）
- 景気判断BSIの推移をみると、2019年下期の景気判断BSIは▲66.1となり、2008年下期（▲97.7）のリーマンショック以来の低い水準となっている。（図表4）
- 現在の景気が「すでに回復」「回復基調」とした企業について、回復した理由を尋ねたところ、「公共投資の効果」が40.0%と最も多く、「設備投資の回復」が33.3%、「企業収益の回復」が33.3%で続いている。（図表6）
- 現在の景気が「底這い」「下降」とした企業について、景気が悪い理由を尋ねたところ、「新型肺炎の影響」が81.6%と最も多く、「米中貿易摩擦の影響」が44.8%、「消費税増税の影響」が42.4%で続いている。（図表7）
- 一方、現在の景気が「底這い」「下降」とした企業に対し、今後回復に転じると予想される時期について尋ねたところ、2020年度上期が4.0%、2020年度下期が25.6%、2021年度上期が33.6%、2021年度下期以降とみる企業が17.6%となっている。（図表8）

図表1. 2019年度下期の景気（前期比）



図表2. 2020年度上期の景気見通し（今期比）



図表3. 2019年度下期の景気判断と見通し

※景気判断BSI

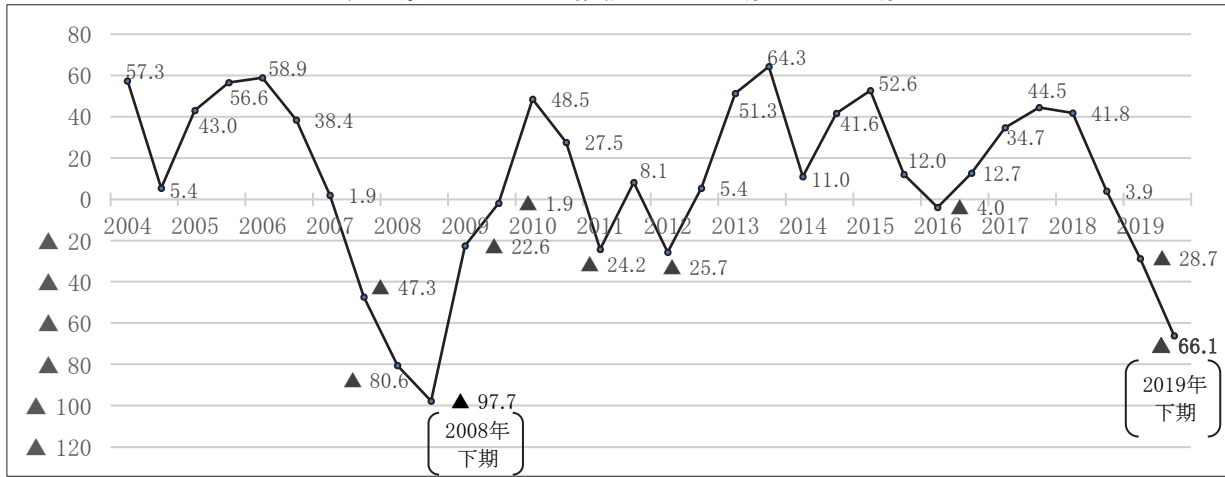
(「良くなった」「やや良くなった」) - (「悪くなった」「やや悪くなった」) 社数構成比

単位:%ポイント

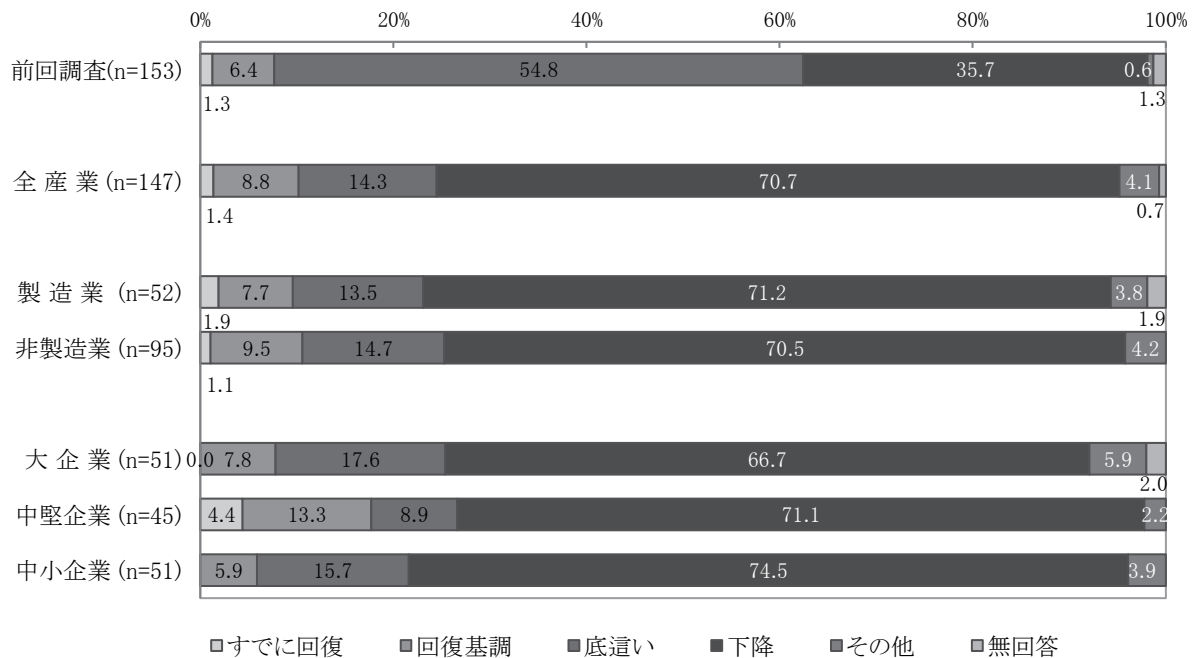
		前回調査		今回調査			
		2019年4~9月(前期)		2019年10~3月(今期)		2020年4~9月(見通し)	
		景気判断BSI		景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI	変化幅
全産業		▲ 28.7		▲ 66.1	▲ 37.4	▲ 69.4	▲ 3.3
業種	製造業	▲ 42.2		▲ 63.5	▲ 21.3	▲ 63.5	0.0
	非製造業	▲ 21.0		▲ 67.4	▲ 46.4	▲ 72.6	▲ 5.2
規模	大企業	▲ 36.0		▲ 80.3	▲ 44.3	▲ 82.4	▲ 2.1
	中堅企業	▲ 21.7		▲ 51.1	▲ 29.4	▲ 55.6	▲ 4.5
	中小企業	▲ 25.5		▲ 64.7	▲ 39.2	▲ 68.6	▲ 3.9

注) 2019年10~3月(今期)の変化幅は2019年4~9月(前期)との対比、2020年4~9月(見通し)の変化幅は2019年10~3月(今期)との対比。

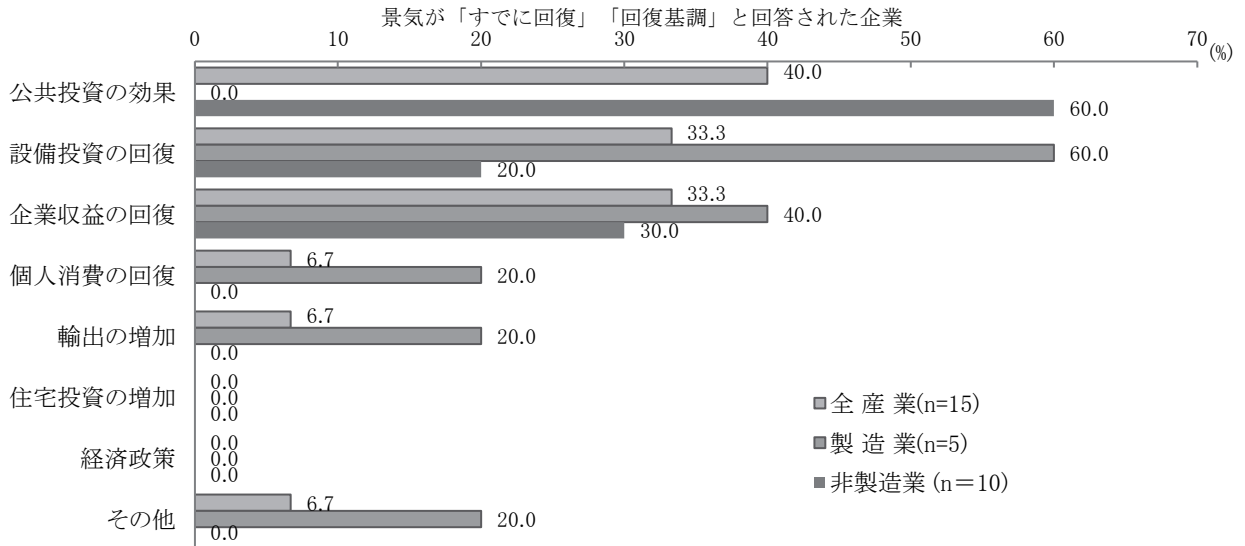
図表4. 景気判断BSIの推移 (2004上期~2019下期)



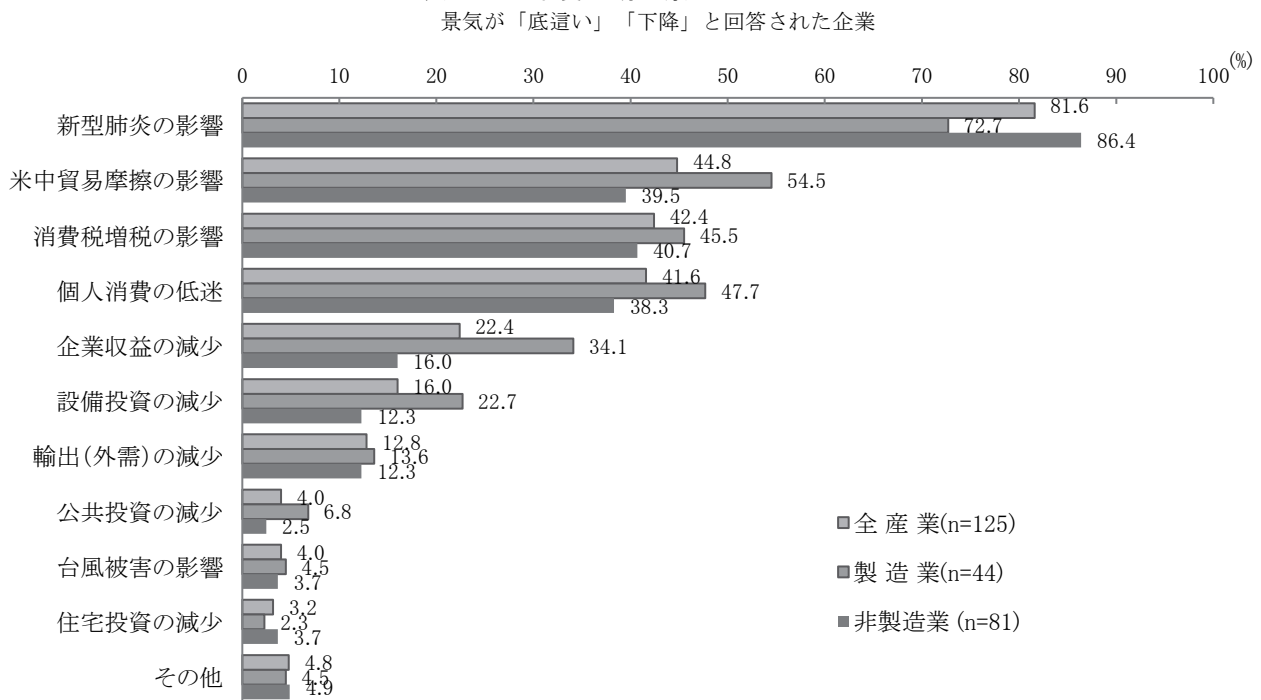
図表5. 2019年度下期の景気基調



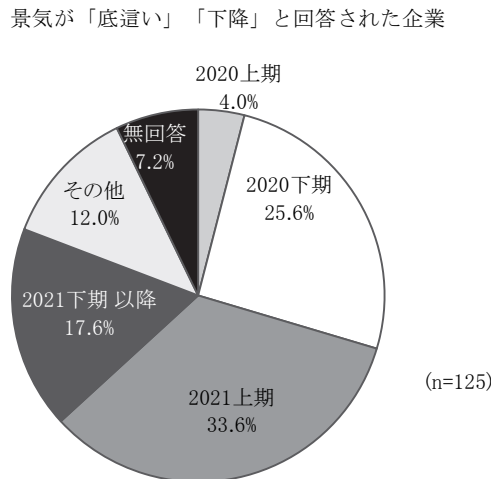
図表6. 2019年度下期の景気が良い理由（複数回答）



図表7. 2019年度下期の景気の悪い理由



図表8. 北陸地域の景気が回復に転じる時期

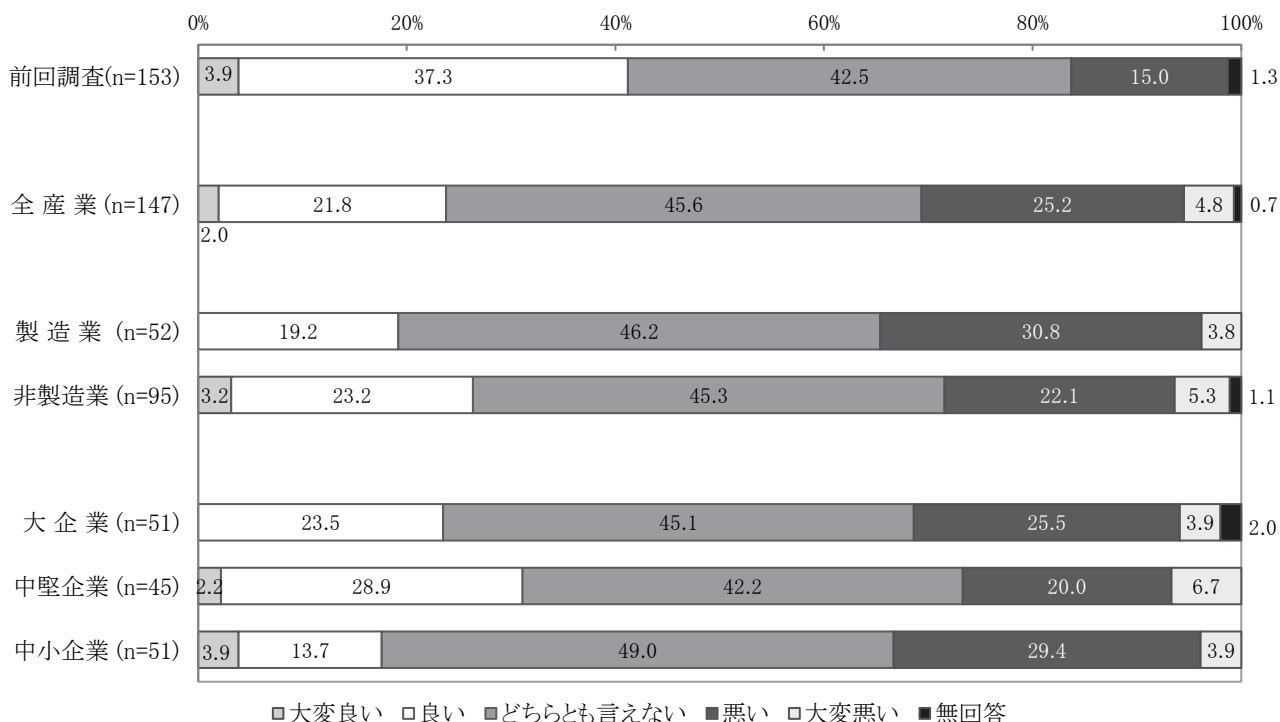


Ⅱ. 業績

業績が悪化したという回答が増え、悪化傾向である。
来期は更なる悪化を見込んでいる。

- ・現在の業績水準については、「大変良い」「良い」とみている企業が23.8%(前回41.2%)、「どちらともいえない」とみている企業が45.6%(前回42.5%)、「悪い」「大変悪い」とみている企業が30.0%(前回15.0%)となっており、悪化傾向である。(図表9)
- ・2019年度下期の業績について、業績判断BSI(図表10 ※)の現状判断は、▲25.9となり、前回調査(2019年度上期)の▲9.6から更に悪化している。
- ・業種別でみると、製造業が▲36.5(前回▲17.5)、非製造業が▲19.9(前回▲5.0)とどちらも悪化し製造業の方が悪化傾向にある。(図表10)
- ・規模別では、大企業が▲31.4(前回▲12.6)、中堅企業が▲11.0(前回▲10.9)、中小企業が▲33.2(前回▲0.4)となり、いずれも前回調査(2019年度上期)と比べ悪化している。(図表10)
- ・来期(2020年度上期)の見通しについては▲37.4(今期▲25.9)とさらに悪化を見込む企業が多くなっている。業種別では製造業が▲30.8(今期▲36.5)、非製造業▲41.0(今期▲19.9)と、非製造業の方がより悪化を見込んでいる。(図表10)
- ・業績判断BSIの推移をみると、2019年下期の業績判断BSIは、▲25.9となり、2009年上期(▲37.8)以来の低い水準となっている。(図表11)
- ・経営上の課題では、「人材養成・確保」(70.1%)が最も多く、次いで「国内販売力の強化」(52.4%)となり、「新分野への進出」(30.6%)がこれに続いている。(図表12)

図表9. 現在の業績水準



図表10. 2019年度下期の業績判断と見通し

※業績判断BSI

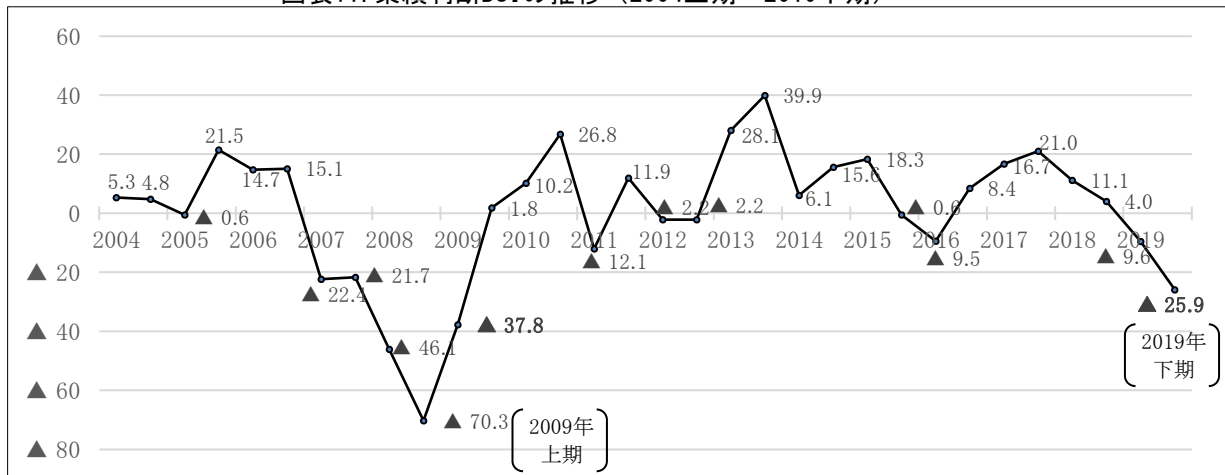
(「改善」「やや改善」) - (「悪化」「やや悪化」) 社数構成比

単位:%ポイント

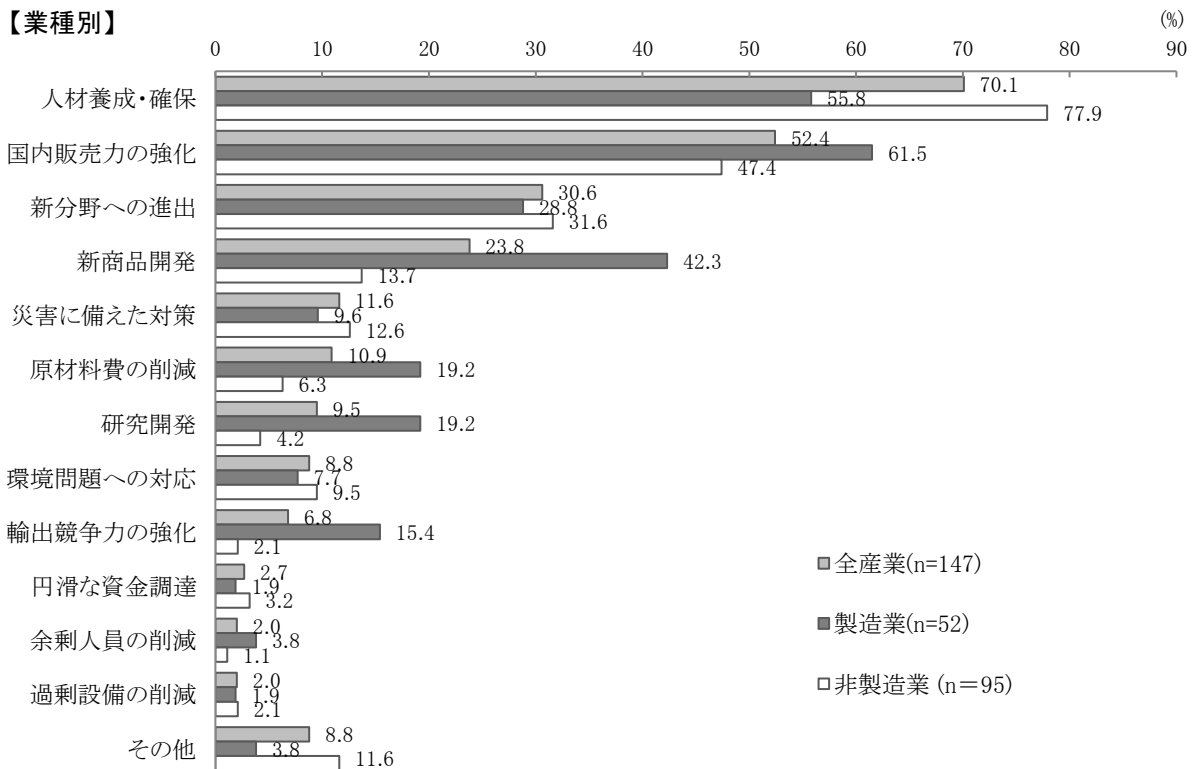
		前回調査		今回調査			
		2019年4~9月(前期)		2019年10~3月(今期)		2020年4~9月(見通し)	
		業績判断BSI		業績判断BSI	変化幅	業績判断BSI	変化幅
全産業		▲ 9.6		▲ 25.9	▲ 16.3	▲ 37.4	▲ 11.5
業種	製造業	▲ 17.5		▲ 36.5	▲ 19.0	▲ 30.8	▲ 5.7
	非製造業	▲ 5.0		▲ 19.9	▲ 14.9	▲ 41.0	▲ 21.1
規模	大企業	▲ 12.6		▲ 31.4	▲ 18.8	▲ 33.3	▲ 1.9
	中堅企業	▲ 10.9		▲ 11.0	▲ 0.1	▲ 42.3	▲ 31.3
	中小企業	▲ 0.4		▲ 33.2	▲ 32.8	▲ 37.3	▲ 4.1

注) 2019年10~3月(今期)の変化幅は2019年4~9月(前期)との対比、2020年4~9月(見通し)の変化幅は2019年10~3月(今期)との対比。

図表11. 業績判断BSIの推移 (2004上期~2019下期)



図表12. 経営上の課題 (3つまで回答)

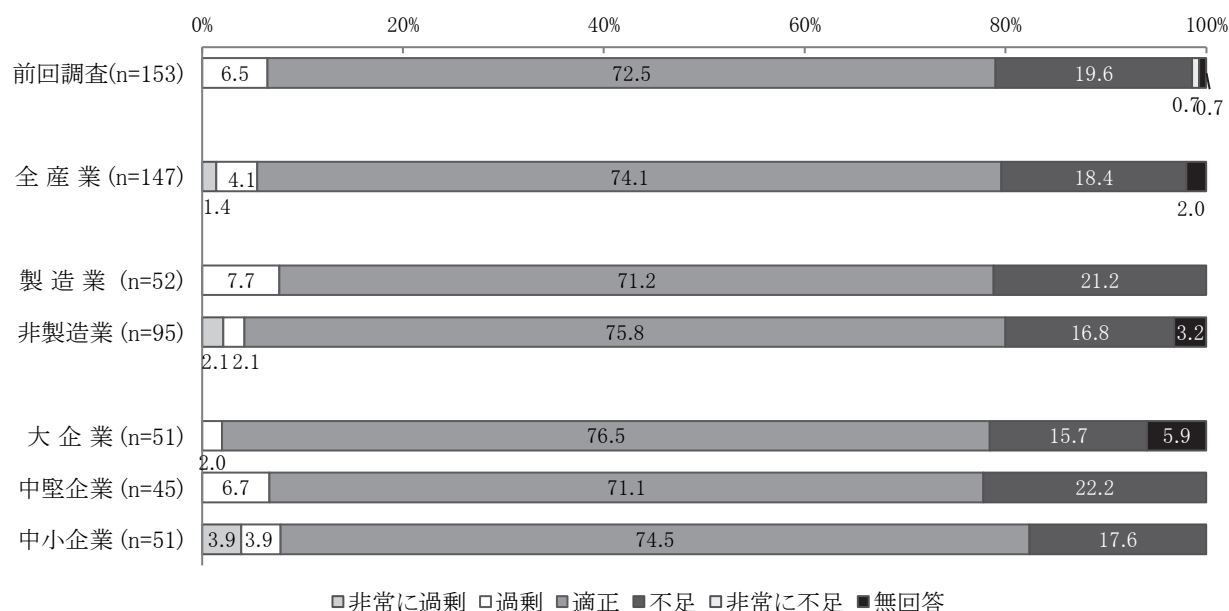


Ⅲ. 設備投資

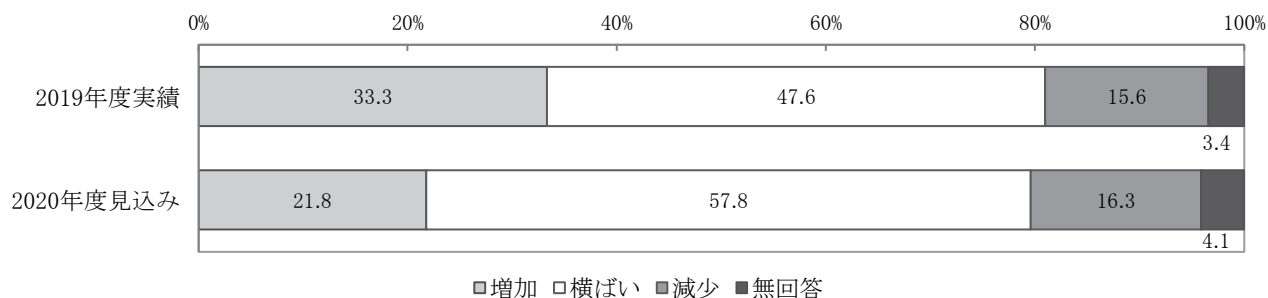
現状の設備水準は適正とする企業が多数で、2020年度の設備投資見通しは引き続き増加傾向だが、2019年度より増加幅は減少。

- ・ 現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が74.1%で、前回調査(72.5%)同様、大半を占めた。また、「不足」「非常に不足」とする企業(18.4%)が「非常に過剰」「過剰」とする企業(5.5%)を上回った。(図表13)
- ・ 設備投資の前年対比については、2019年度は「増加した」と答えた企業(33.3%)が「減少した」と答えた企業(15.6%)を上回った。2020年度の見込みについても、「増加する」と答えた企業(21.8%)が「減少する」と答えた企業(16.3%)を上回っているものの、増加幅は減少している。(図表14)
- ・ 2020年度の設備投資が増加するとした理由を尋ねたところ、「設備の維持・更新が必要」(75.0%)が最も多く、「情報技術(IT)投資が必要」(21.9%)、「国内需要が増加する見通し」(12.5%)、「新規事業への進出」(12.5%)が続いている。(図表15)
- ・ 一方、2020年度の設備投資が減少するとした理由は、「前年度が高水準(反動減)」(45.8%)最も多く、「国内需要回復見通しが立たず」(29.2%)、「業績改善の見通し立たず」(20.8%)が続いている。(図表16)

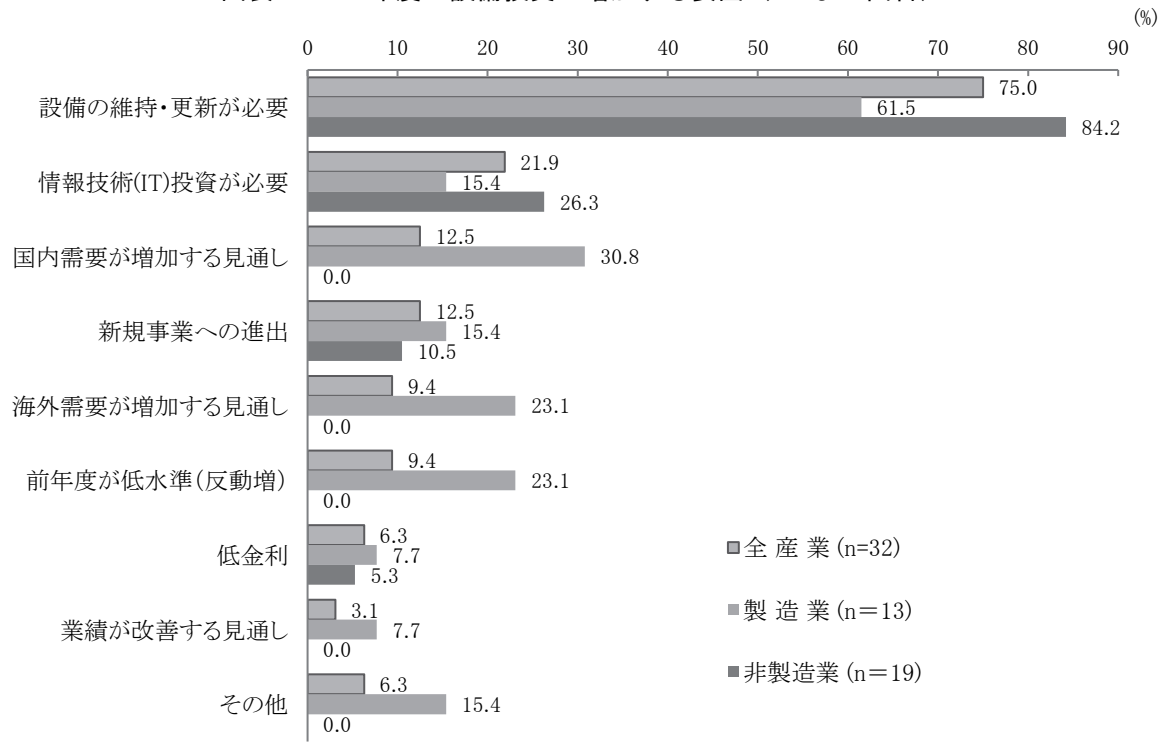
図表13. 現在の設備水準



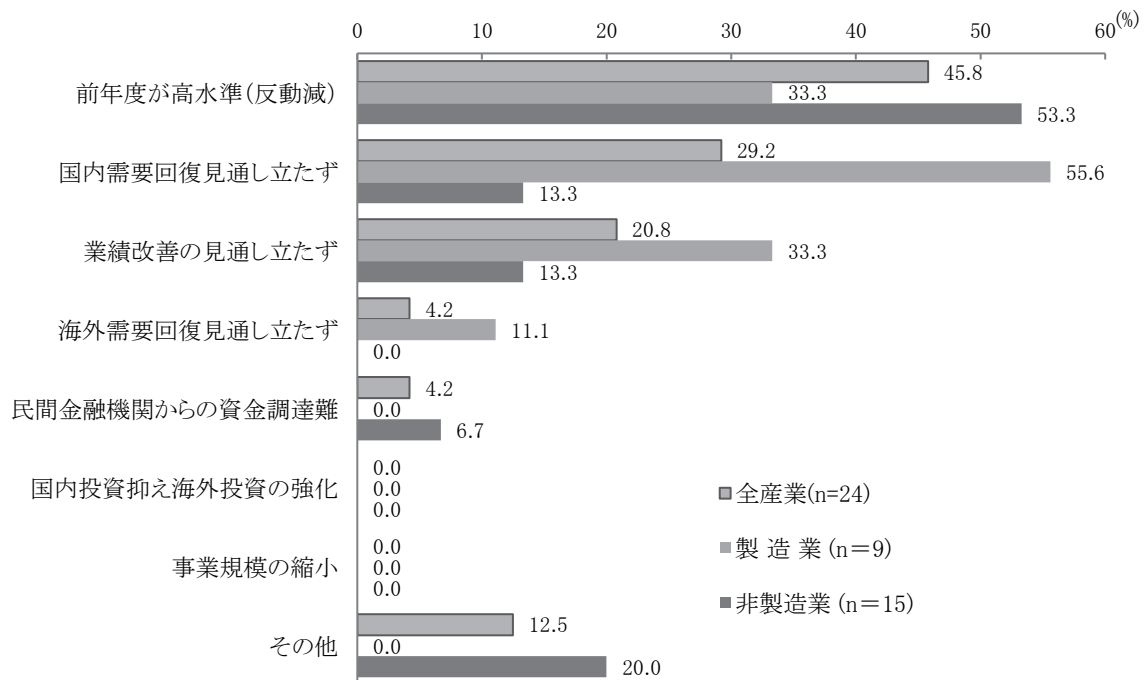
図表14. 設備投資（前年度比）



図表15. 2020年度の設備投資が増加する要因（3つまで回答）



図表16. 2020年度の設備投資が減少する要因（3つまで回答）

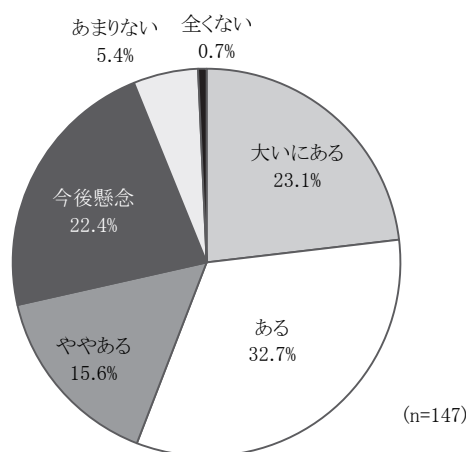


IV. その他

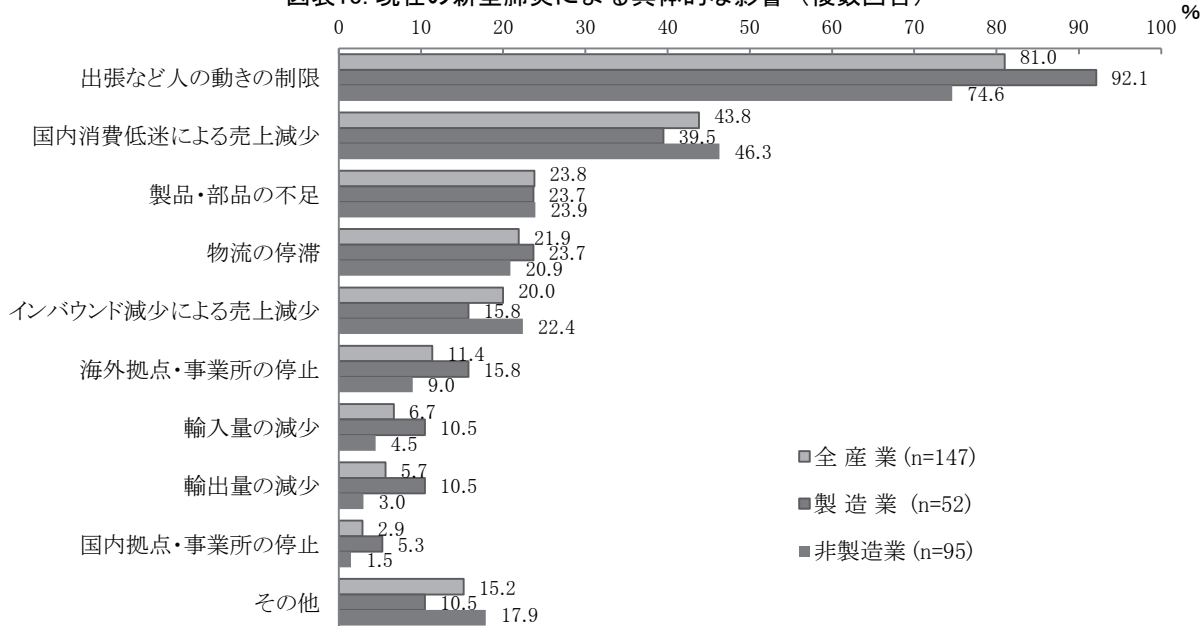
1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響について

- ・ 現在、新型肺炎による企業活動への影響が「大いにある」「ある」「ややある」と回答した企業は71.4%となっており、「今後懸念される」が22.4%、「あまりない」「全くない」が6.1%となっている。（図表17）
- ・ 新型肺炎による影響があると回答した方に、具体的な影響を聞いたところ、「出張など人の動きの制限」（81.0%）と最も多く、「国内消費低迷による売上減少」（43.8%）、「製品・部品の不足」（23.8%）と続いている。（図表18）
- ・ 今後、感染が継続・拡大した場合に想定される事態としては、「出張など人の動きの制限」（72.1%）が最も多く、「国内消費低迷による売上減少」（57.8%）、「製品・部品の不足」（43.5%）と続いている。（図表19）
- ・ 今後、感染が拡大した場合に備えた対策としては、「人が集まるイベントや行事の自粛」（73.5%）が最も多く、「出張など人の動きの制限」（70.1%）、「時差出勤の実施」（36.1%）、「テレワークによる在宅勤務実施」（29.3%）と続いている。（図表20）

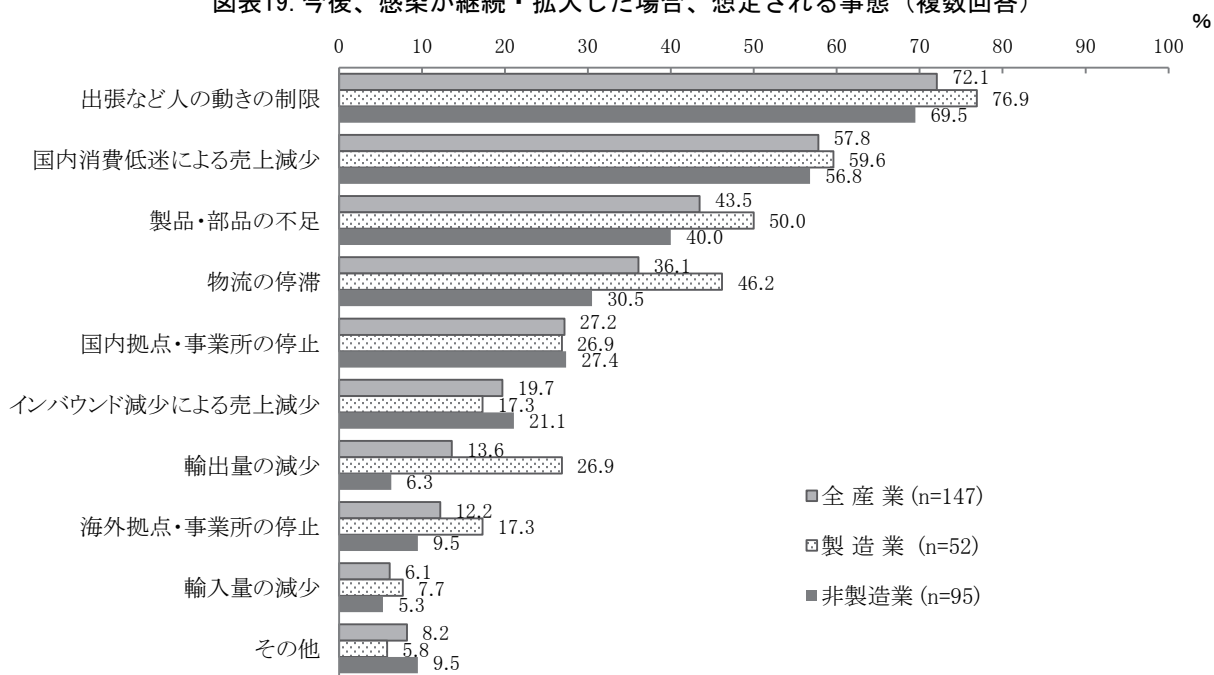
図表17. 現在の新型肺炎による企業活動への影響



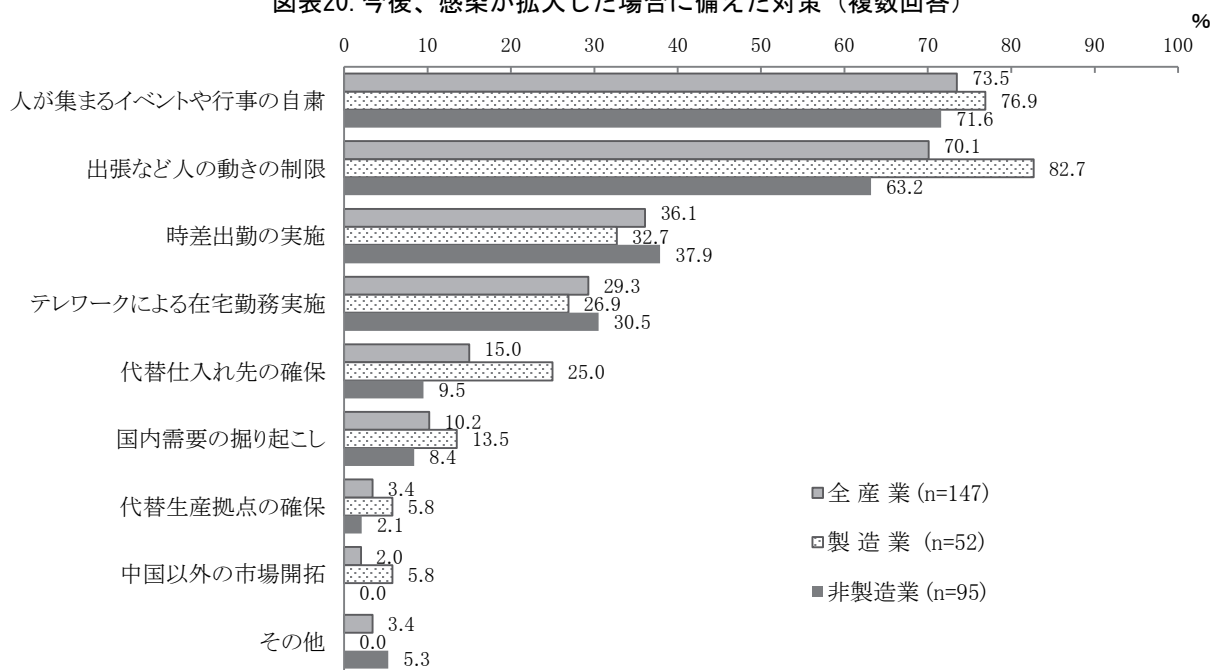
図表18. 現在の新型肺炎による具体的な影響（複数回答）



図表19. 今後、感染が継続・拡大した場合、想定される事態（複数回答）



図表20. 今後、感染が拡大した場合に備えた対策（複数回答）

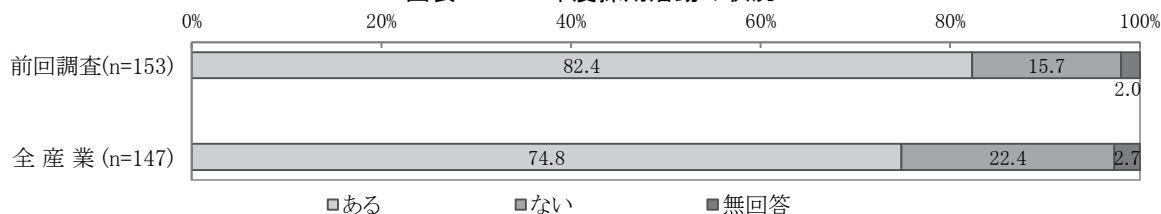


IV. その他

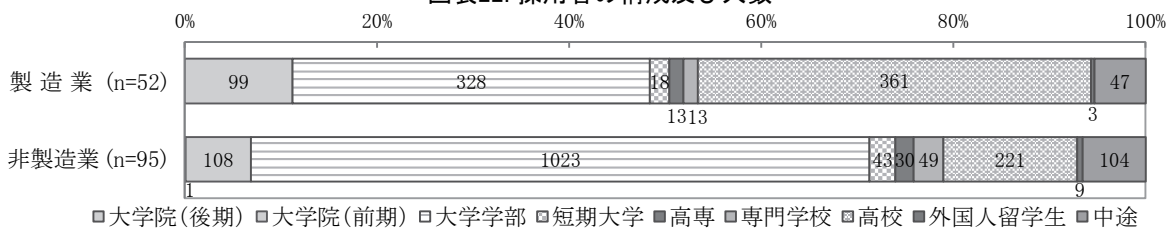
2. 採用活動について

- ・ 2019年度採用活動（2020年4月新卒者等）では74.8%の企業が採用を行っており、前回調査（2019年4月新卒者）の82.4%より減少している。採用者の構成としては製造業では高校卒、非製造業では学部卒が多く採用されている。（図表21.22）
- ・ 採用活動の充足率については、全産業で51.5%（前回調査55.8%）の企業が90%以上と答えており、前回調査より減少している。規模別に見ると大企業（67.9%）に比べ、中堅企業（48.6%）、中小企業（41.2%）と低下する。（図表23）
- ・ 2020年4月採用予定者（大学院卒・学部卒）における北陸地域出身者比率については、全産業では60.9%（前回調査46.2%）の企業が90%以上と答えており、前回調査より増加している。（図表24）
- ・ 2020年4月採用予定者（大学院卒・学部卒）における北陸地域大学出身者比率は、90%以上と答えた企業は全産業では18.4%（前回調査19.8%）で前回調査とほぼ同様となっている。（図表25）

図表21. 2019年度採用活動の状況



図表22. 採用者の構成及び人数



□大学院(後期) □大学院(前期) □大学学部 □短期大学 □高専 □専門学校 □高校 □外国人留学生 □中途

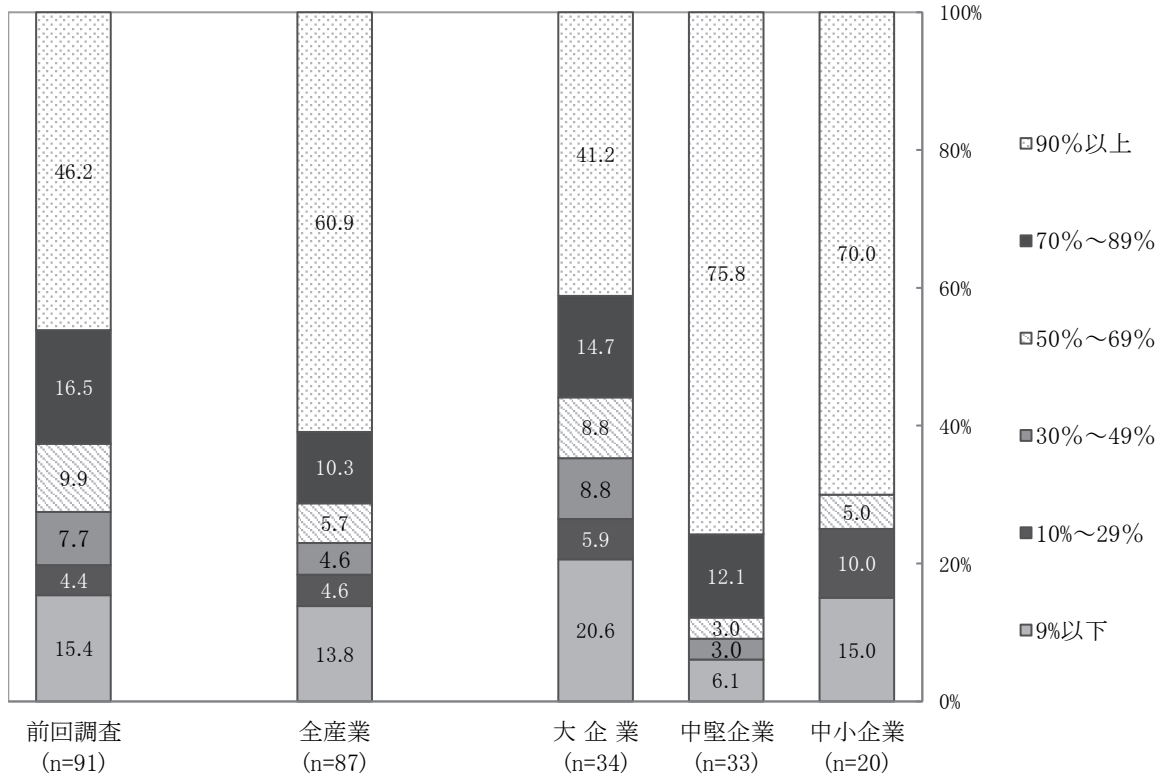
(注)グラフ内数字は採用実数(人)

図表23. 充足率

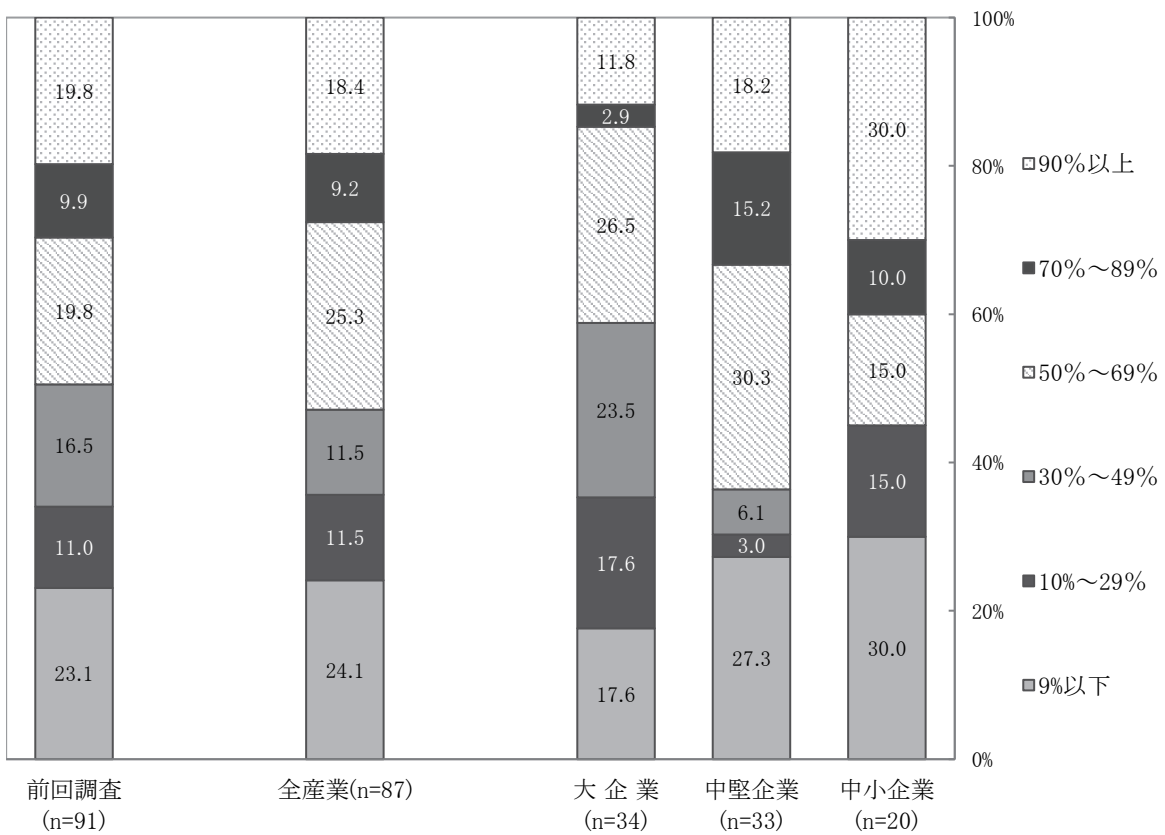
	9%以下	10%台	20%台	30%台	40%台	50%台	60%台	70%台	80%台	90%超
前回調査(n=113)	5.3	0.0	1.8	3.5	1.8	8.8	6.2	8.8	8.0	55.8
全産業(n=99)	5.1	0.0	2.0	2.0	6.1	5.1	3.0	9.1	16.2	51.5
製造業(n=37)	8.1	0.0	2.7	0.0	0.0	5.4	2.7	8.1	16.2	56.8
非製造業(n=62)	3.2	0.0	1.6	3.2	9.7	4.8	3.2	9.7	16.1	48.4
大企業(n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	10.7	17.9	67.9
中堅企業(n=37)	5.4	0.0	2.7	5.4	8.1	2.7	0.0	10.8	16.2	48.6
中小企業(n=34)	8.8	0.0	2.9	0.0	8.8	11.8	5.9	5.9	14.7	41.2

単位:%

図表24. 北陸出身者比率



図表25. 北陸地域大学出身者比率



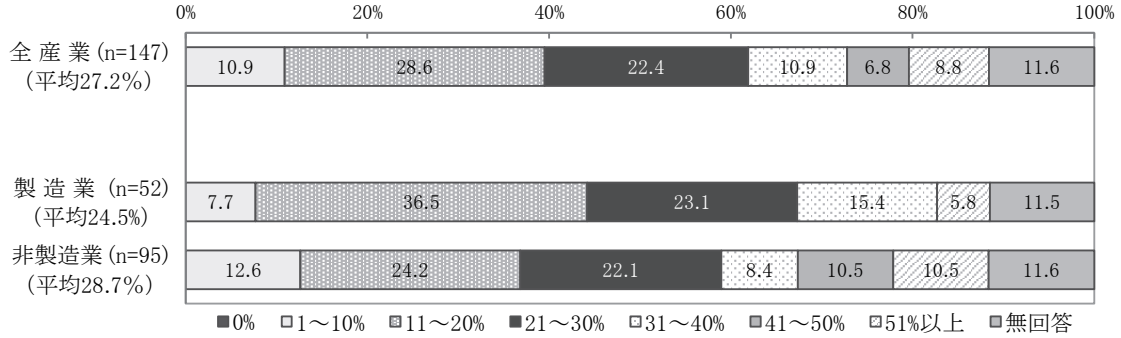
IV. その他

3. 多様な人材の活躍について

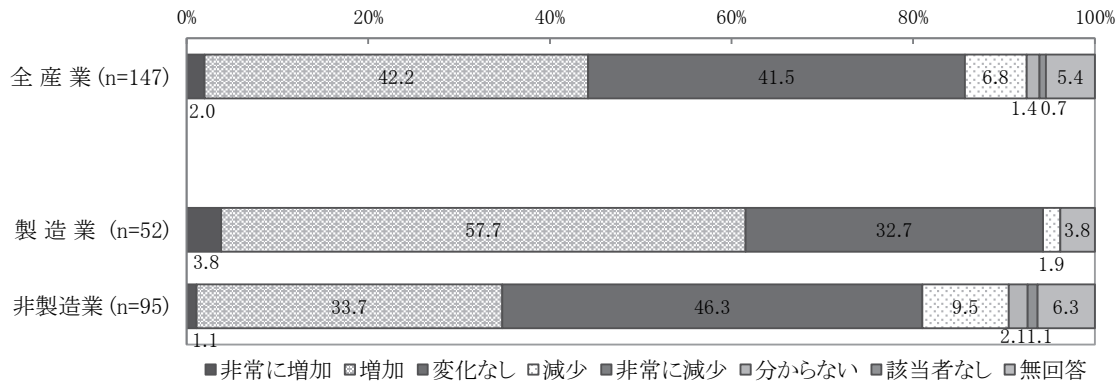
【女性正社員】

- 女性正社員の正社員全体に占める割合は全産業で平均27.2%で、製造業(平均24.5%)よりも非製造業(平均28.7%)の方が高い傾向にある。(図表26)
過去5年程度における変化では全体的に増加傾向であり、非製造業より製造業の方が増加傾向である。(図表27)

図表26. 女性正社員の正社員全体に占める割合



図表27. 女性正社員の過去5年程度における変化の方向性



IV. その他

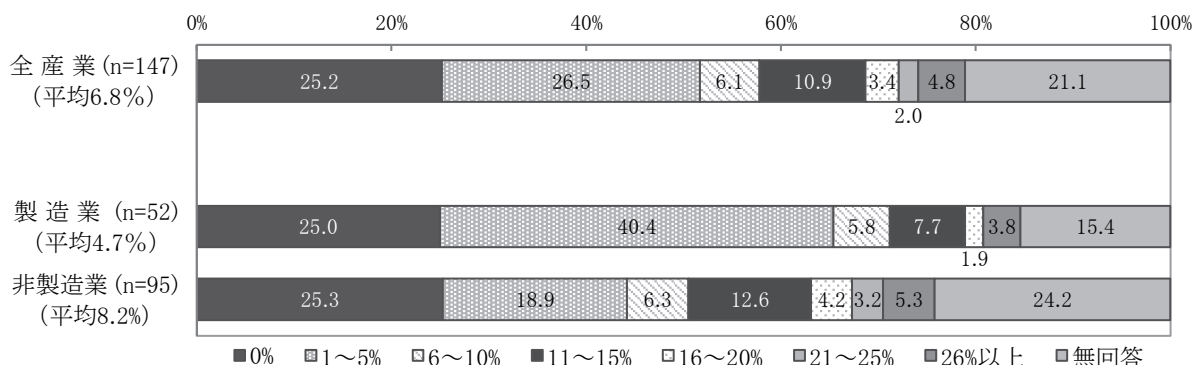
3. 多様な人材の活躍について

【女性管理職】

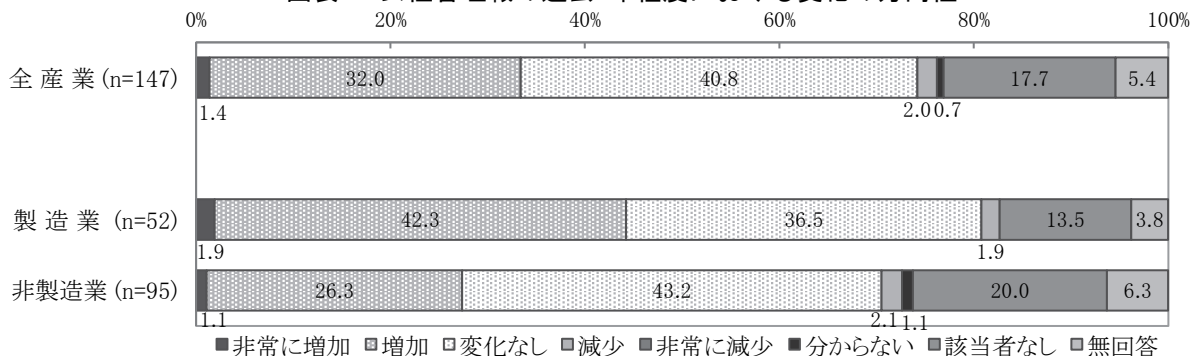
- 女性管理職の管理職全体に占める割合は全産業で平均6.8%で、製造業(平均4.7%)よりも非製造業(平均8.2%)の方が高い傾向にある。(図表28)

過去5年程度における変化では全体的に増加傾向であり、非製造業より製造業の方が増加傾向である。(図表29)

図表28. 女性管理職の管理職全体に占める割合



図表29. 女性管理職の過去5年程度における変化の方向性

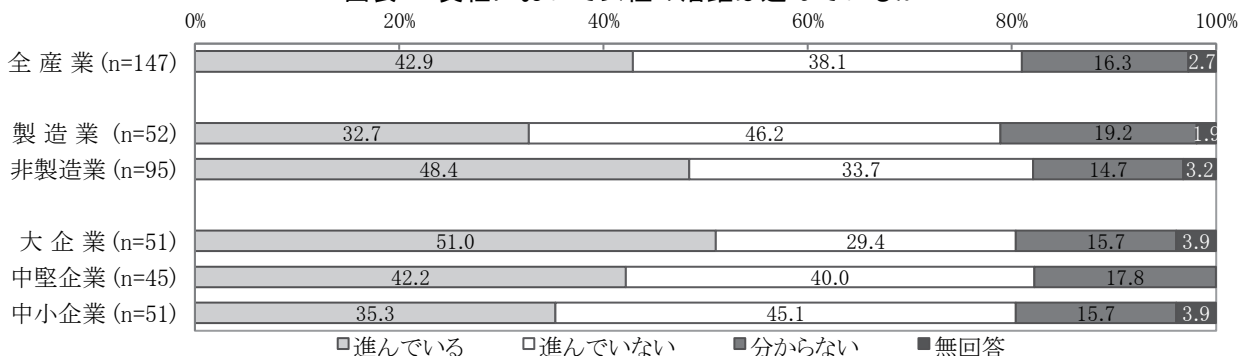


【女性の活躍】

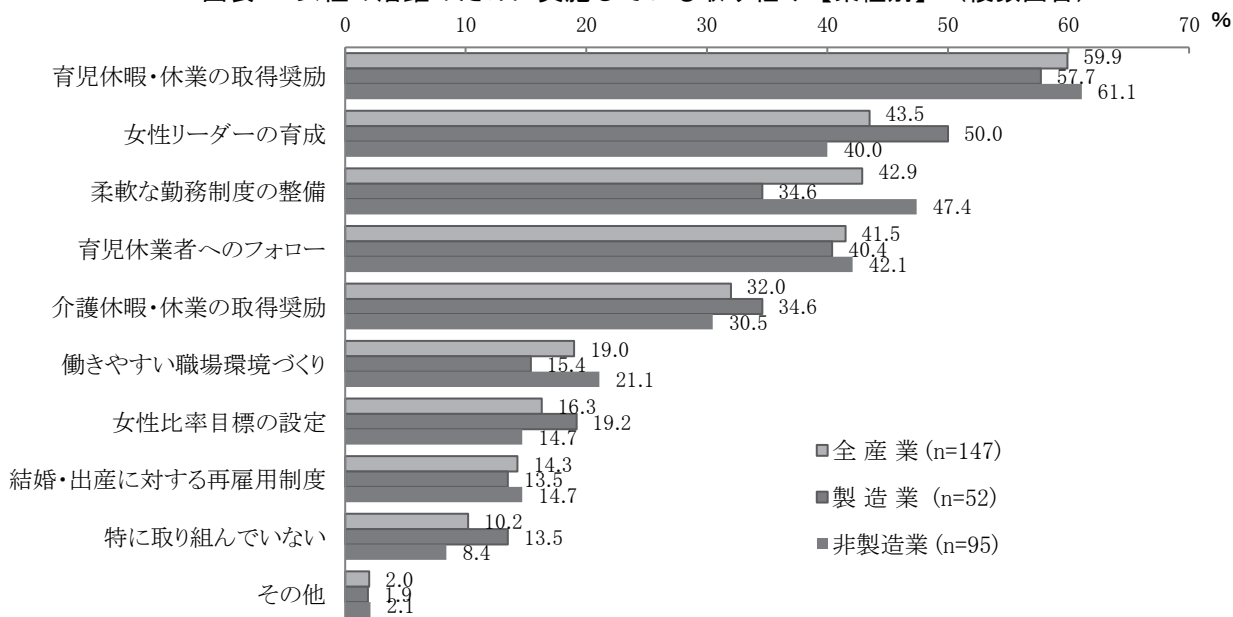
- 貴社において女性の活躍が進んでいるかは、全体で42.9%が進んでいると回答し、38.1%が進んでいないと回答している。業種別では、製造業(32.7%)より非製造業(48.4%)の方が女性の活躍が進んでいる傾向にある。規模別では大企業の方が中堅・中小企業より女性の活躍が進んでいる傾向にある。(図表30)
- 女性の活躍のために実施している取り組みとしては「育児休暇・休業の取得奨励」(59.9%)と最も多く、「女性リーダーの育成」(43.5%)、「柔軟な勤務制度の整備」(42.9%)と続いている。(図表31)
規模別でみると大企業の方が、中堅・中小企業より、女性活躍のための取り組みを実施している傾向にある。(図表32)
- 女性の活躍が進んでいると回答した企業に、女性の活躍が進んでいると思う理由を聞いたところ、「女性の活躍ができる職種が多い」(47.6%)、「女性活躍に対する意識改革が進んでいる」(47.6%)が最も多くなっている。(図表33)
- 女性の活躍が進んでいないと回答した企業に、女性の活躍が進んでいないと思う理由を聞いたところ、「女性管理職が少ない」(57.1%)が最も多く、「女性活躍に対する意識が低い」(42.9%)と続いている。(図表34)

【女性の活躍】

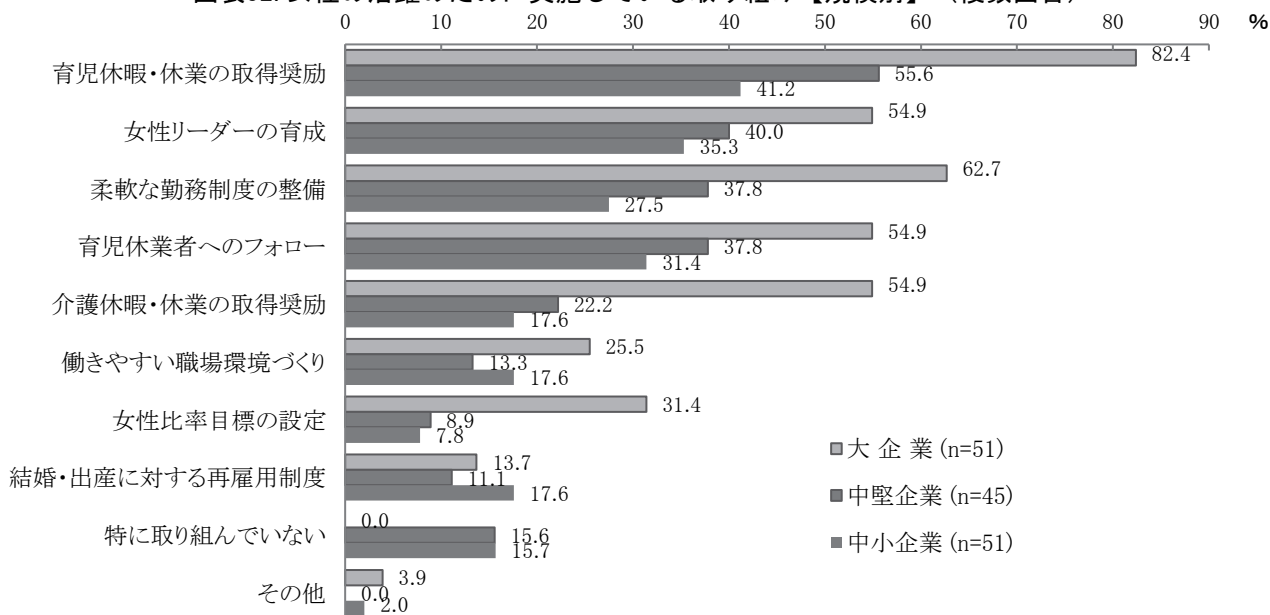
図表30. 貴社において女性の活躍は進んでいるか



図表31. 女性の活躍のために実施している取り組み【業種別】（複数回答）

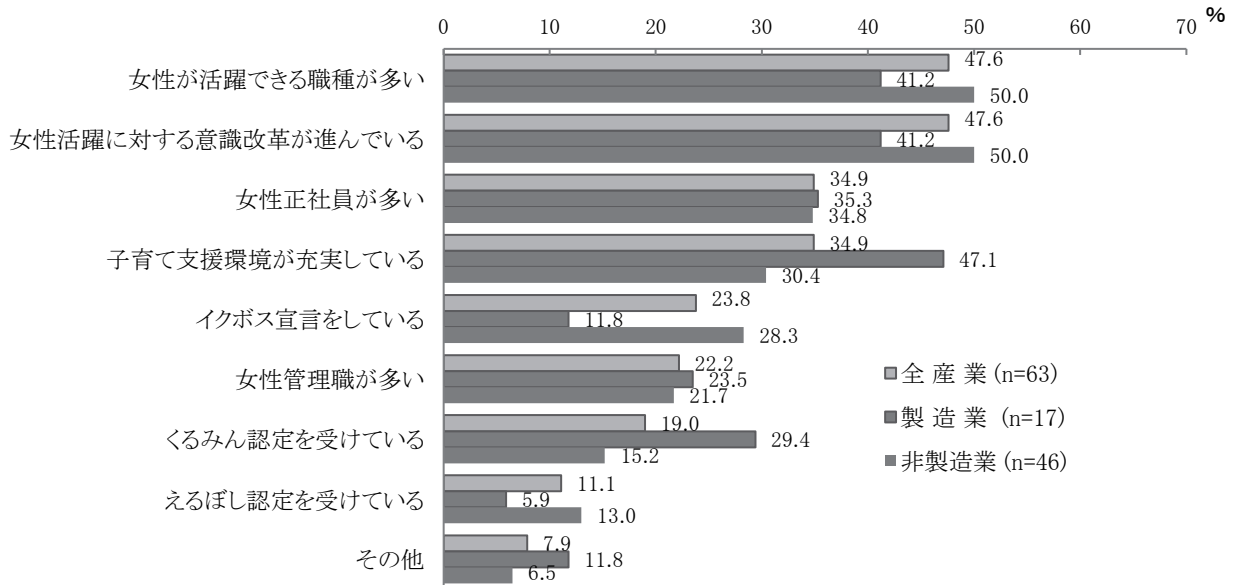


図表32. 女性の活躍のために実施している取り組み【規模別】（複数回答）

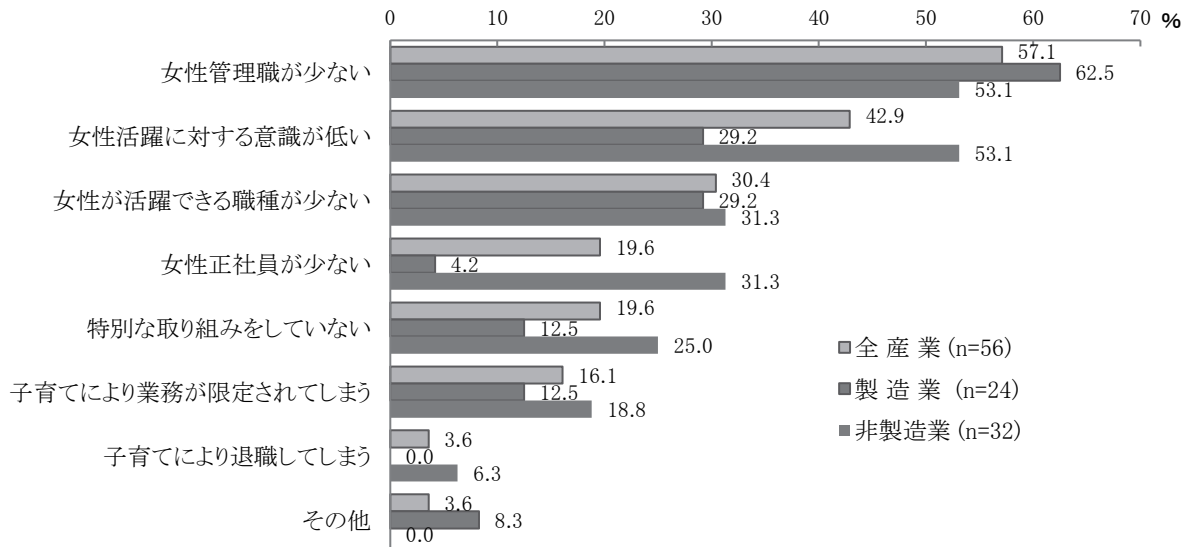


【女性の活躍】

図表33. 女性の活躍が進んでいると思う理由（複数回答）



図表34. 女性の活躍が進んでいないと思う理由（複数回答）



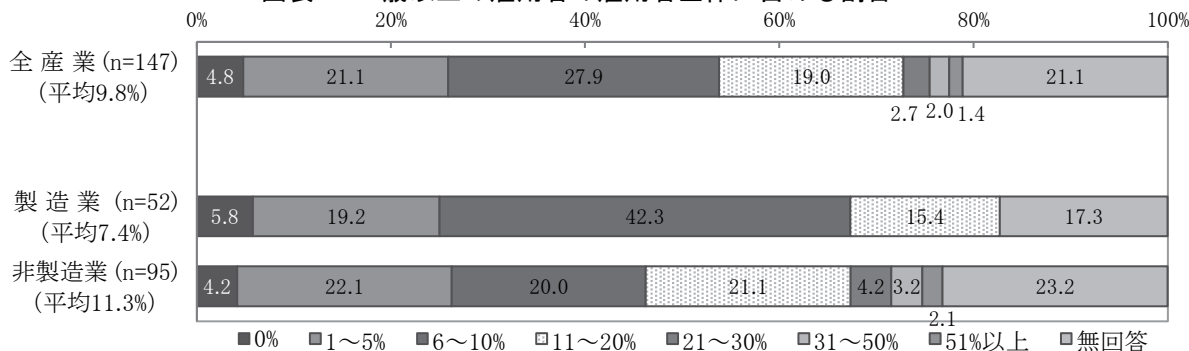
IV. その他

3. 多様な人材の活躍について

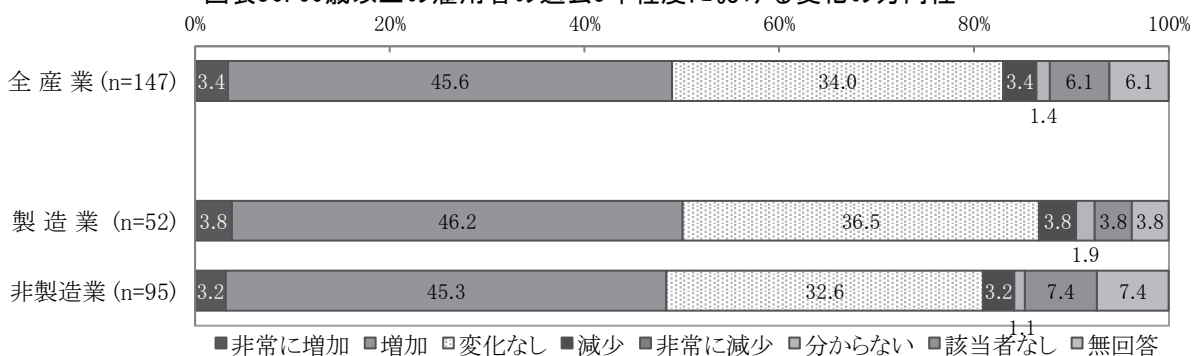
【高齢者】

- 60歳以上の雇用者の雇用者全体に占める割合は全産業で平均9.8%で、製造業(平均7.4%)よりも非製造業(平均11.3%)の方が高い傾向にある。(図表35)
過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が49.0%で全体的に増加傾向である。(図表36)
- 高齢者の活躍のために実施している取り組みとしては「業務内容の変更」が44.9%と最も多く、「人事制度の変更(定年延長等)」(42.9%)、「柔軟な勤務制度の整備」(36.7%)と続いている。(図表37)

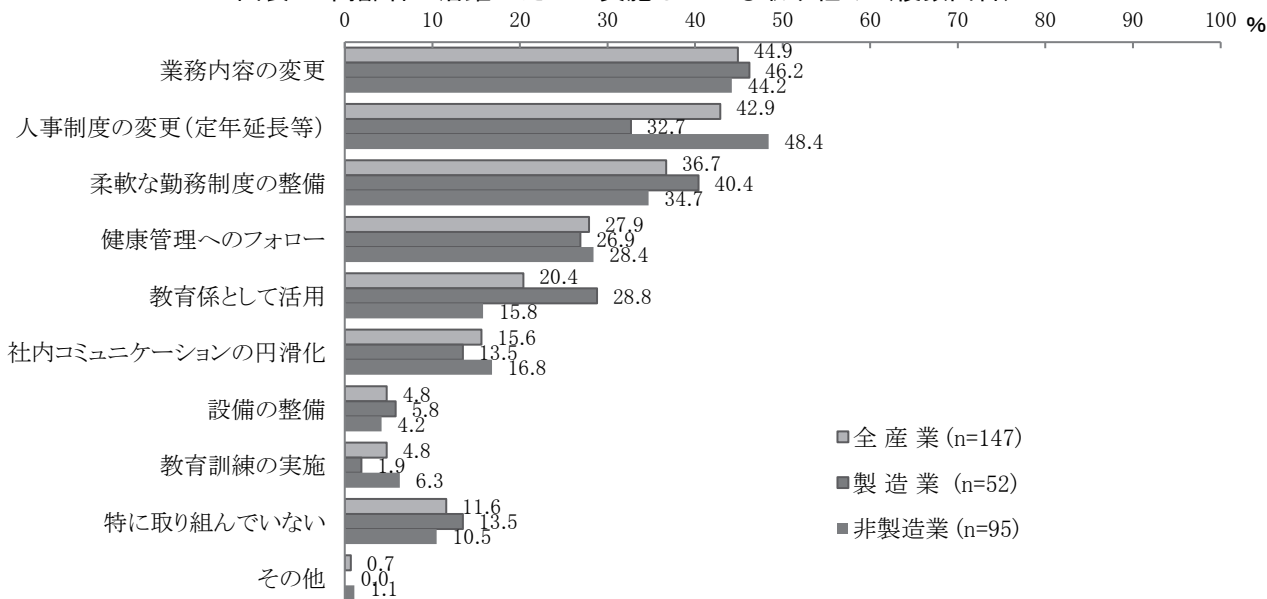
図表35. 60歳以上の雇用者の雇用者全体に占める割合



図表36. 60歳以上の雇用者の過去5年程度における変化の方向性



図表37. 高齢者の活躍のために実施している取り組み (複数回答)



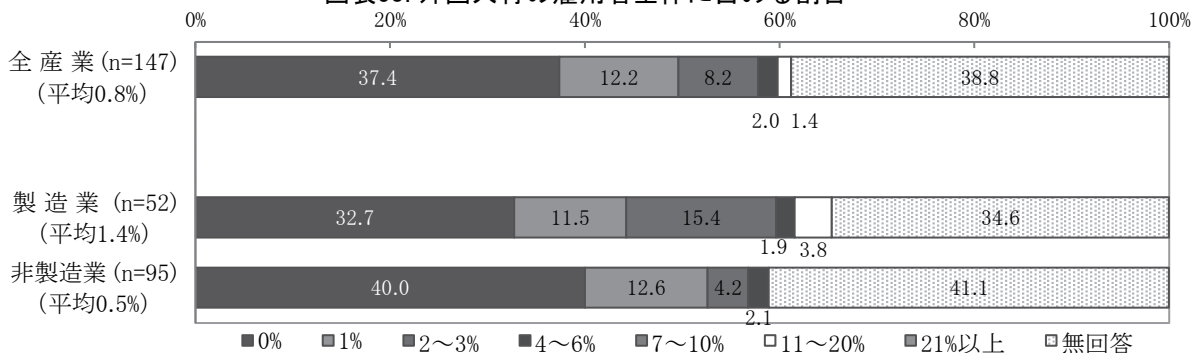
IV. その他

3. 多様な人材の活躍について

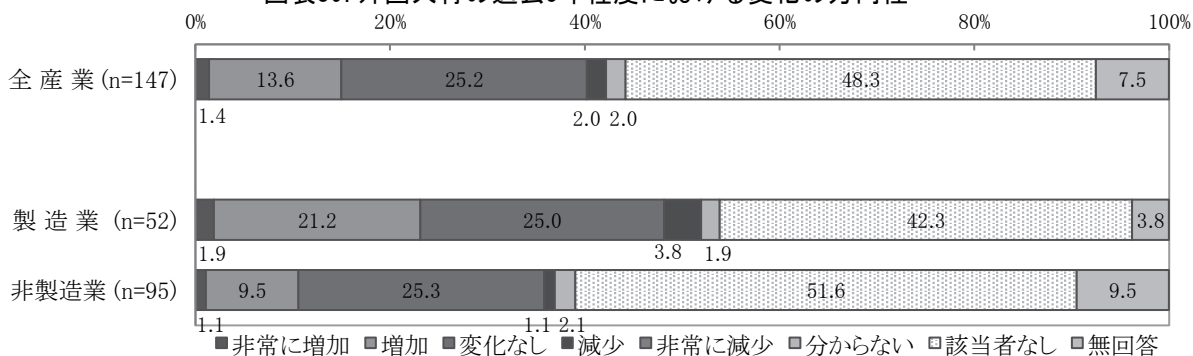
【外国人材】

- 外国人材の雇用者全体に占める割合は全産業で平均0.8%で、製造業(平均1.4%)の方が非製造業(平均0.5%)よりも多い傾向にある。(図表38)
過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が15.0%と「減少」「非常に減少」の4.0%を上回り増加傾向ではあるが、「該当なし」は48.3%を占めている。(図表39)
- 外国人材の活躍のために実施している取り組みとしては「特に取り組んでいない」が63.9%と最も多くなっている。(図表40)

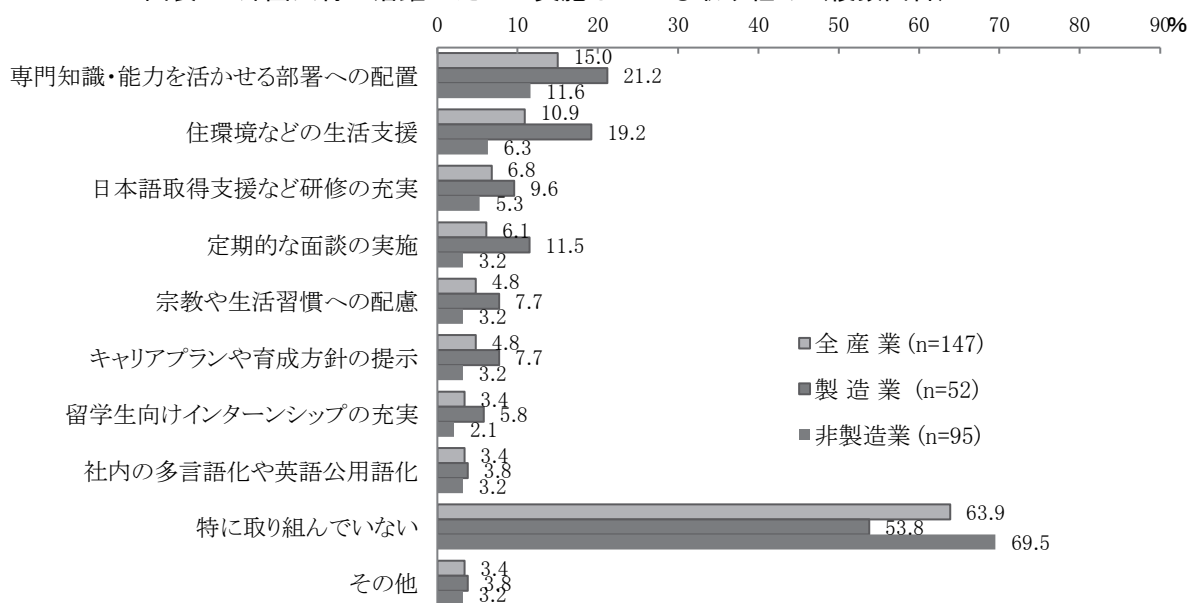
図表38. 外国人材の雇用者全体に占める割合



図表39. 外国人材の過去5年程度における変化の方向性



図表40. 外国人材の活躍のために実施している取り組み (複数回答)



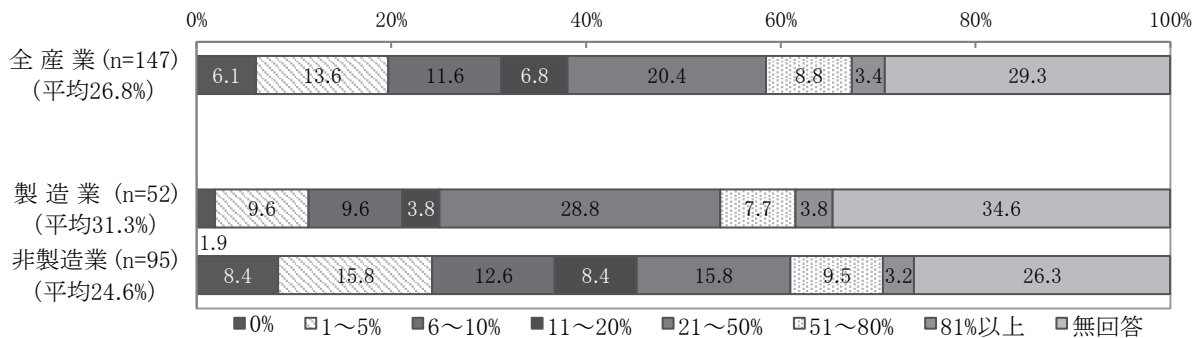
IV. その他

3. 多様な人材の活躍について

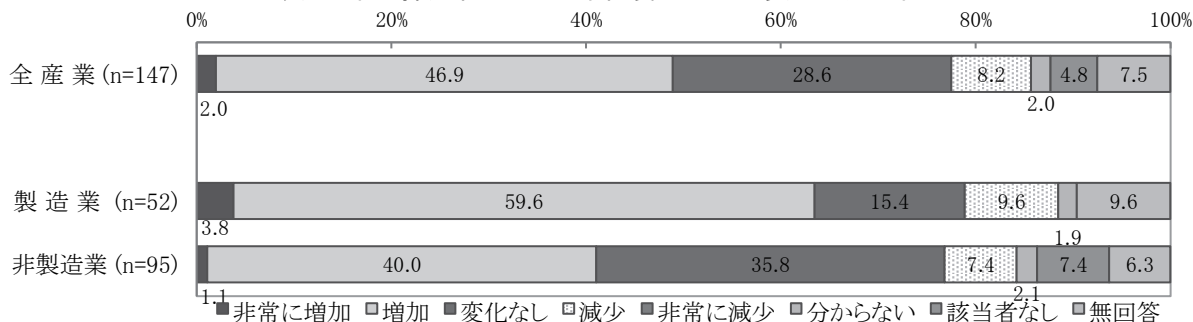
【中途採用者】

- ・ 中途採用者の正社員全体に占める割合は全産業で平均26.8%で、製造業(平均31.3%)の方が非製造業(平均24.6%)よりも多い傾向にある。(図表41)
- 過去5年程度における変化では「非常に増加」「増加」が48.9%と増加傾向である。(図表42)

図表41. 中途採用者の正社員全体に占める割合



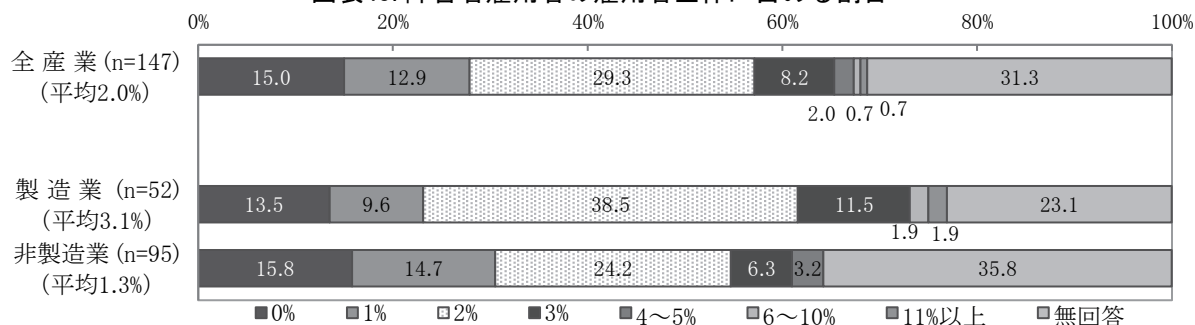
図表42. 中途採用者の過去5年程度における変化の方向性



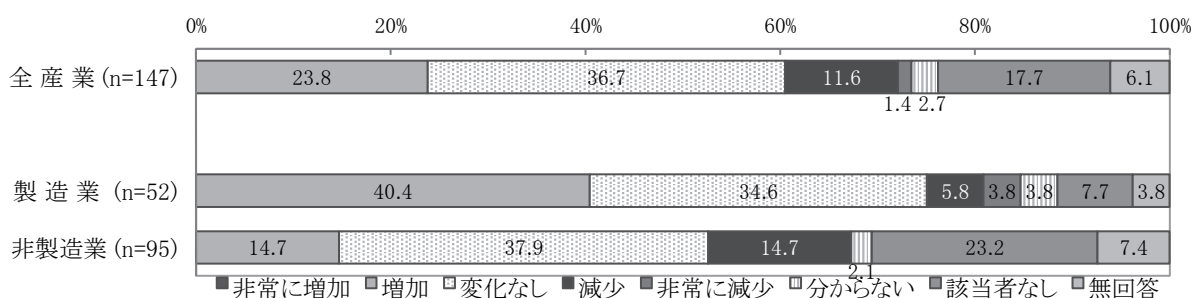
【障害者雇用者】

- ・ 障害者雇用者の雇用者全体に占める割合は全産業で平均2.0%で、製造業(平均3.1%)の方が非製造業(平均1.3%)よりも多い傾向にある。(図表43)

図表43. 障害者雇用者の雇用者全体に占める割合



図表44. 障害者雇用者の過去5年程度における変化の方向性



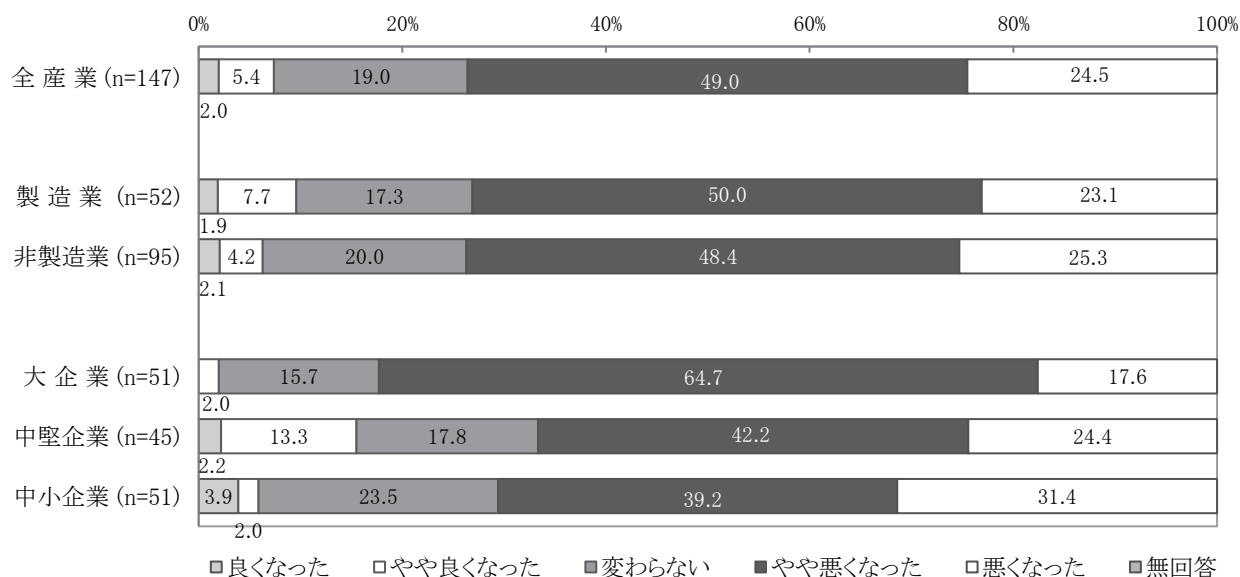
参考(アンケート調査結果)

I 景気動向

Q.1

北陸地域の2019年度下期(10月～3月)の景気は2019年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化したと思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)

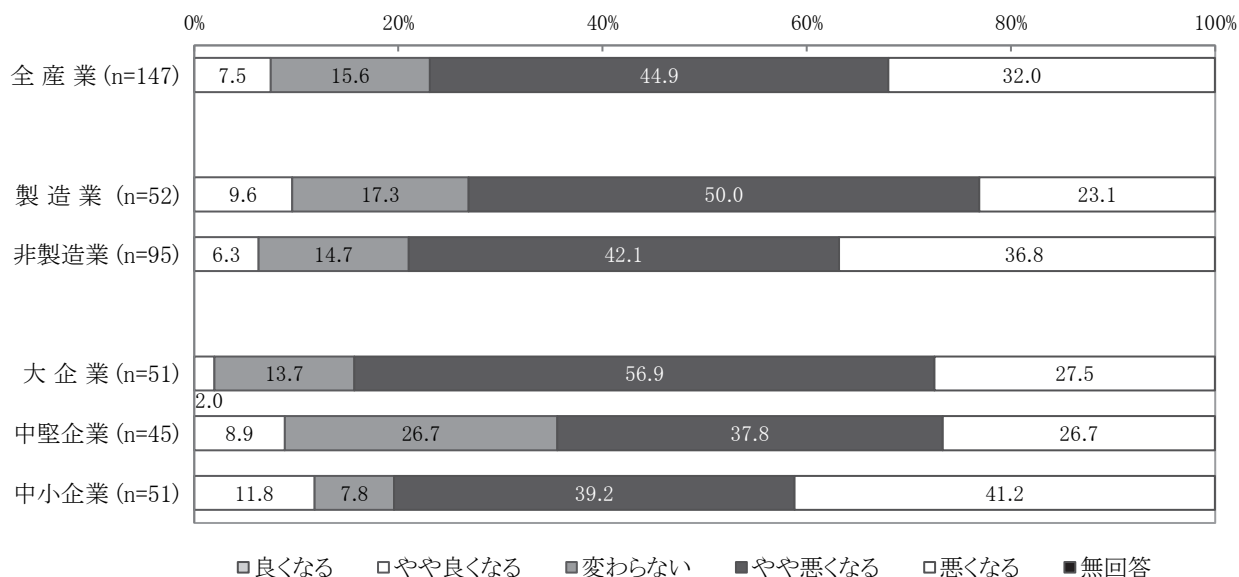
2019年度下期の景気(前期比)



Q.2

北陸地域の2020年度上期(4月～9月)の景気は2019年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)

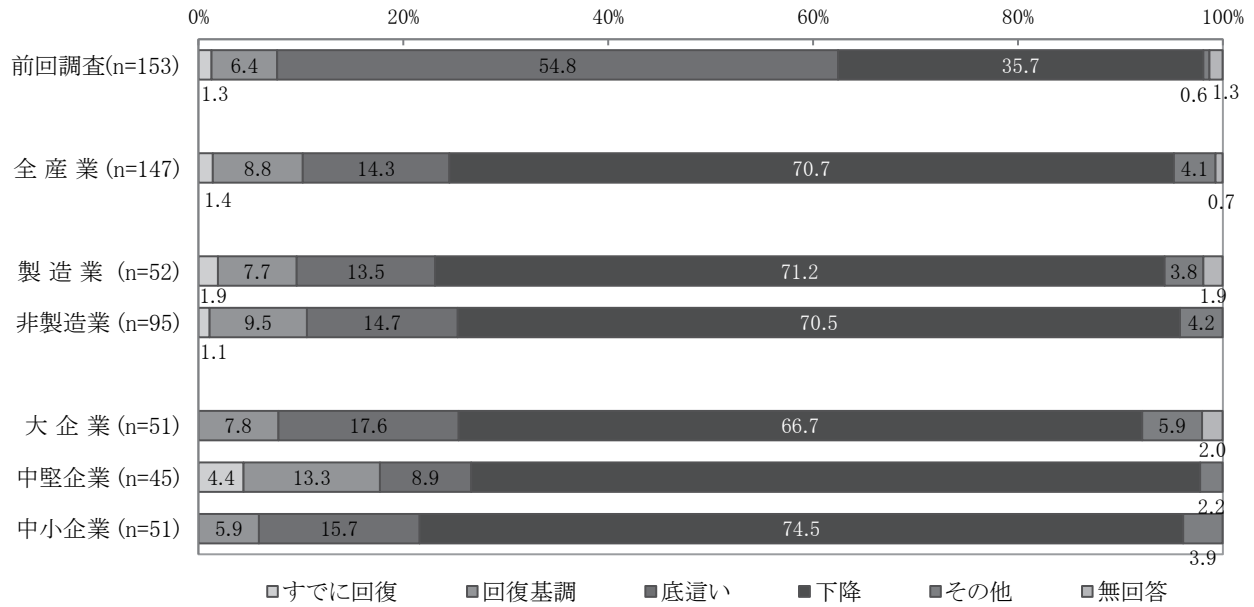
2020年度上期の景気(見通し)



Q.3

2019年度下期(10月～3月)の北陸地域の景気は基調として以下のどの局面にあると判断されていますか。

2019年度下期の景気基調



◎その他の具体的な回答

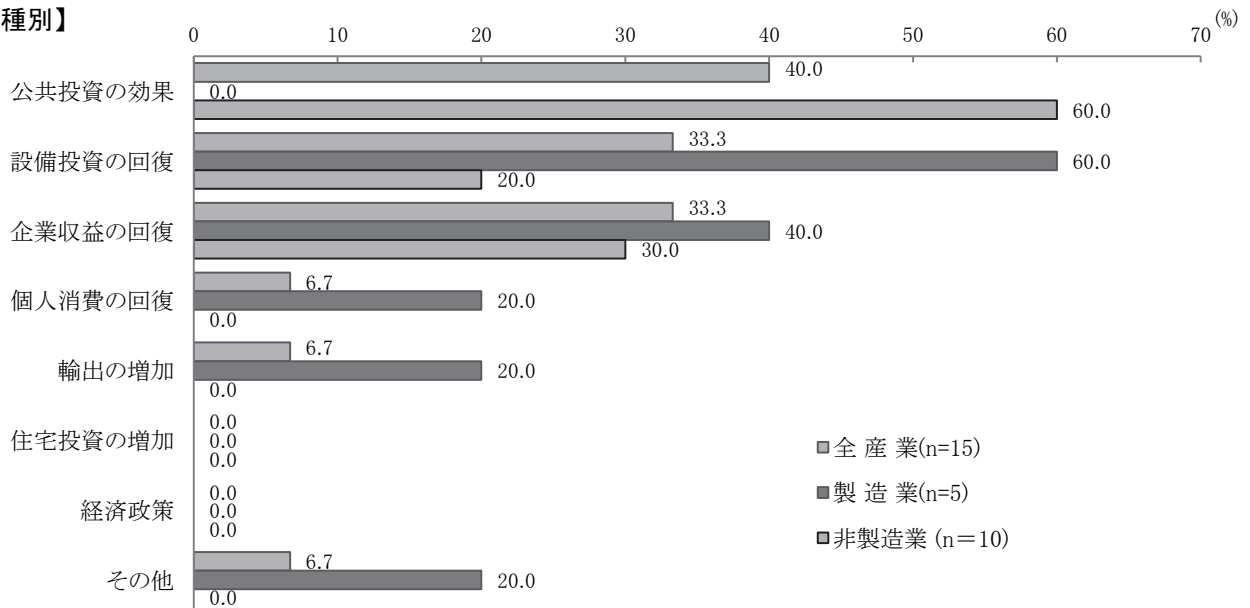
- ・ コロナウィルスの影響で読めない
- ・ 大きく下降局面にある
- ・ 横這い

Q.4

Q.3で「回復」「回復基調」と回答された方へ
2019年度下期(10月～3月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)

2019年度下期の景気が良い理由(複数回答)

【業種別】



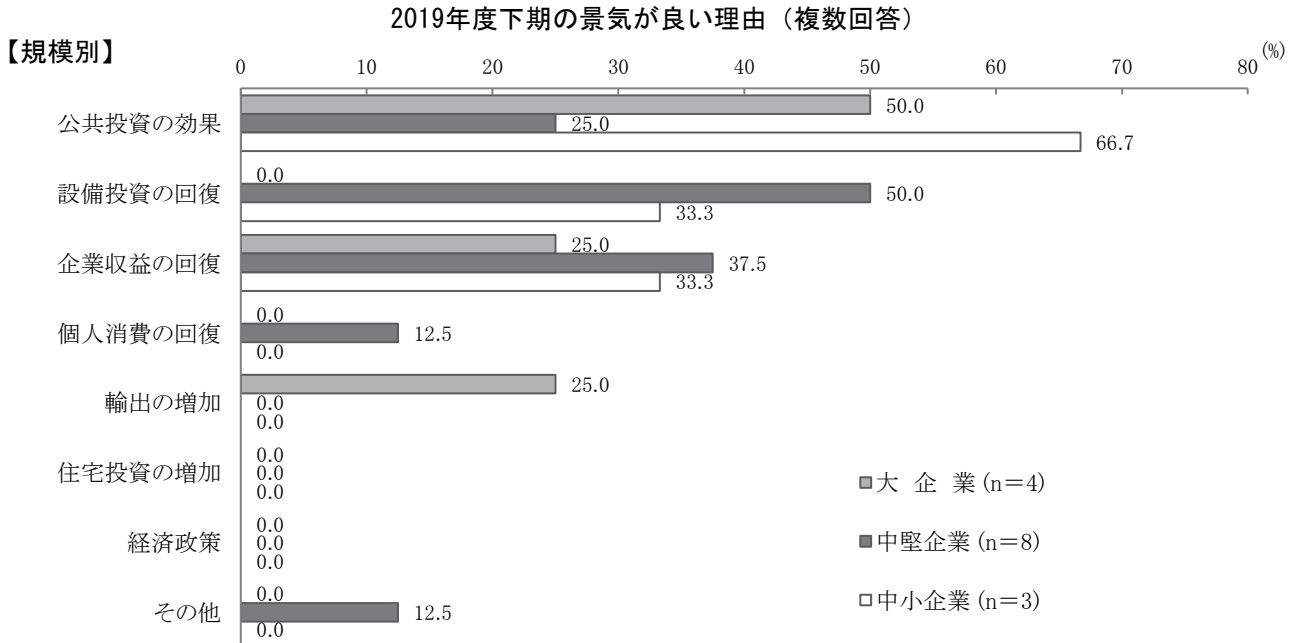
◎その他の具体的な回答

- ・ 観光需要

I 景気動向

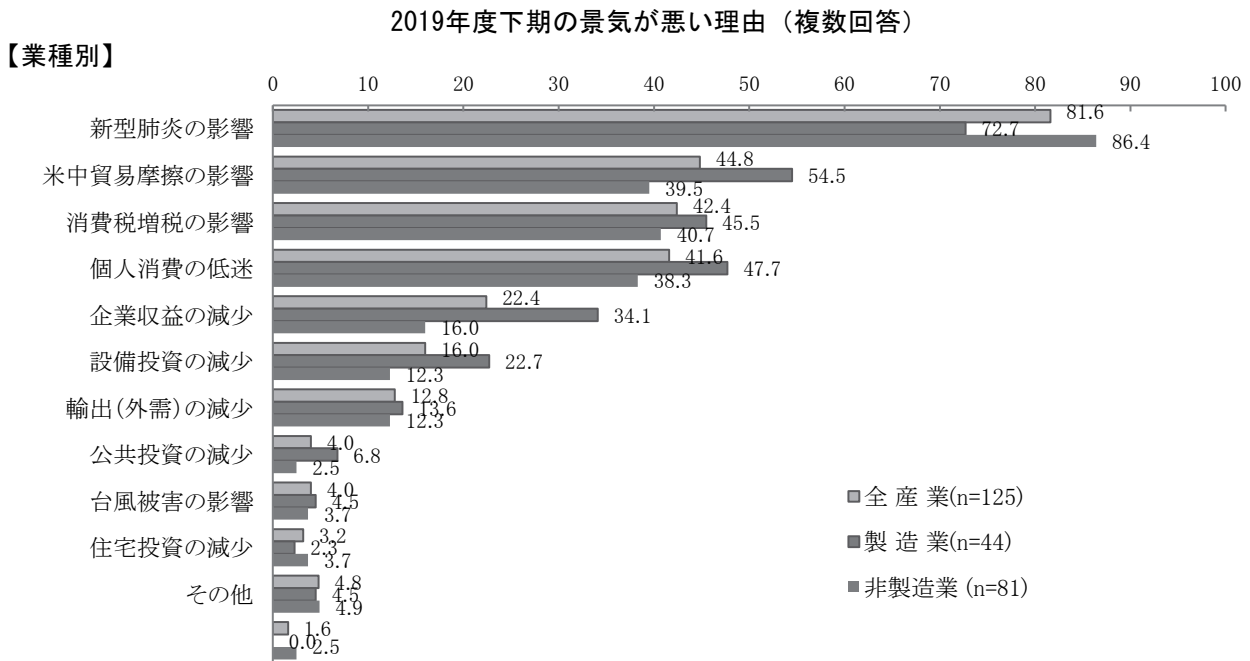
Q.4

Q.3で「すでに回復」「回復基調」と回答された方へ
2019年度下期(10月～3月)の景気が良いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



Q.5

Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
2019年度下期(10月～3月)の景気が悪いのは何によるものだと思いますか。(複数回答可)



◎その他の具体的な回答

・暖冬による影響

・日韓関係の悪化

・中国経済の減速

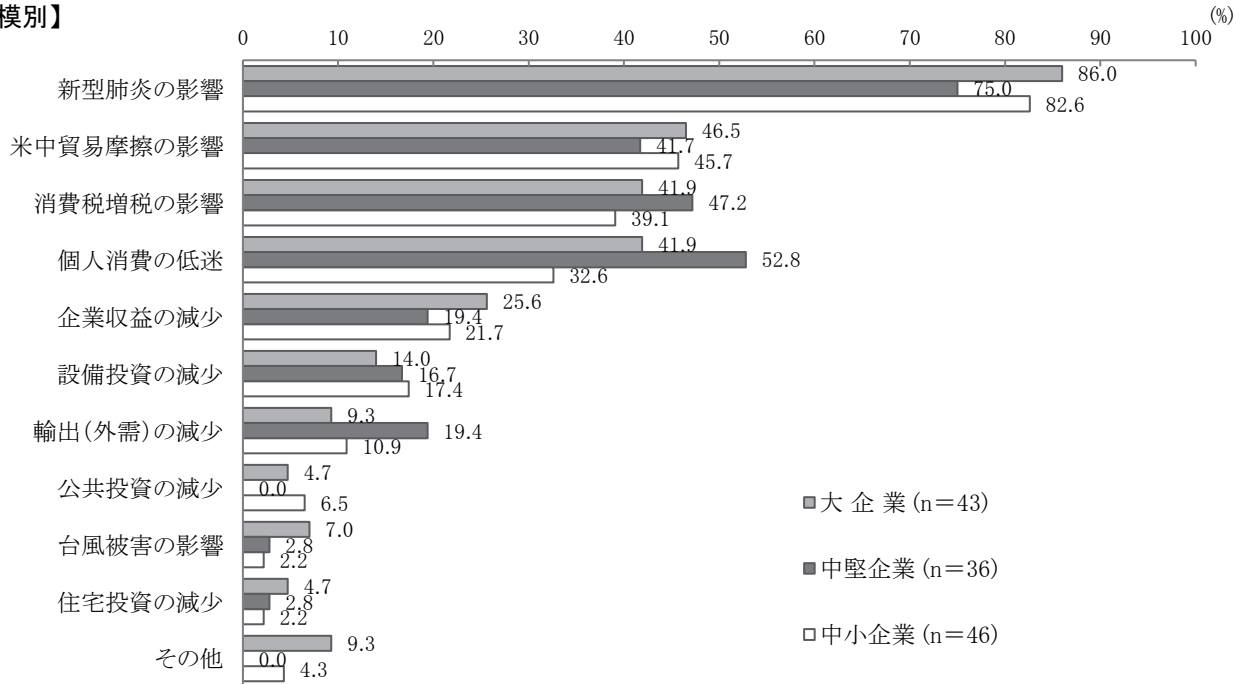
I 景気動向

Q.5

Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
2019年度下期（10月～3月）の景気が悪いのは何によるものだと思いますか。（複数回答可）

【規模別】

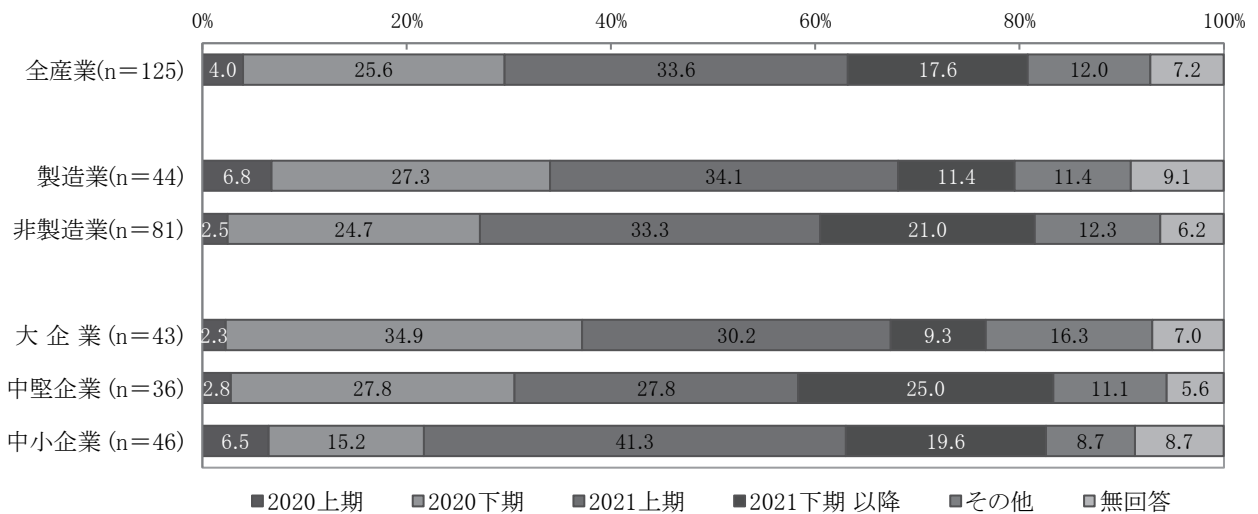
2019年度下期の景気が悪い理由（複数回答）



Q.6

Q.3で「底這い」「下降」と回答された方へ
北陸地域の景気が今後回復に転じると予想される時期はいつ頃と思われますか。

景気が回復に転じる時期



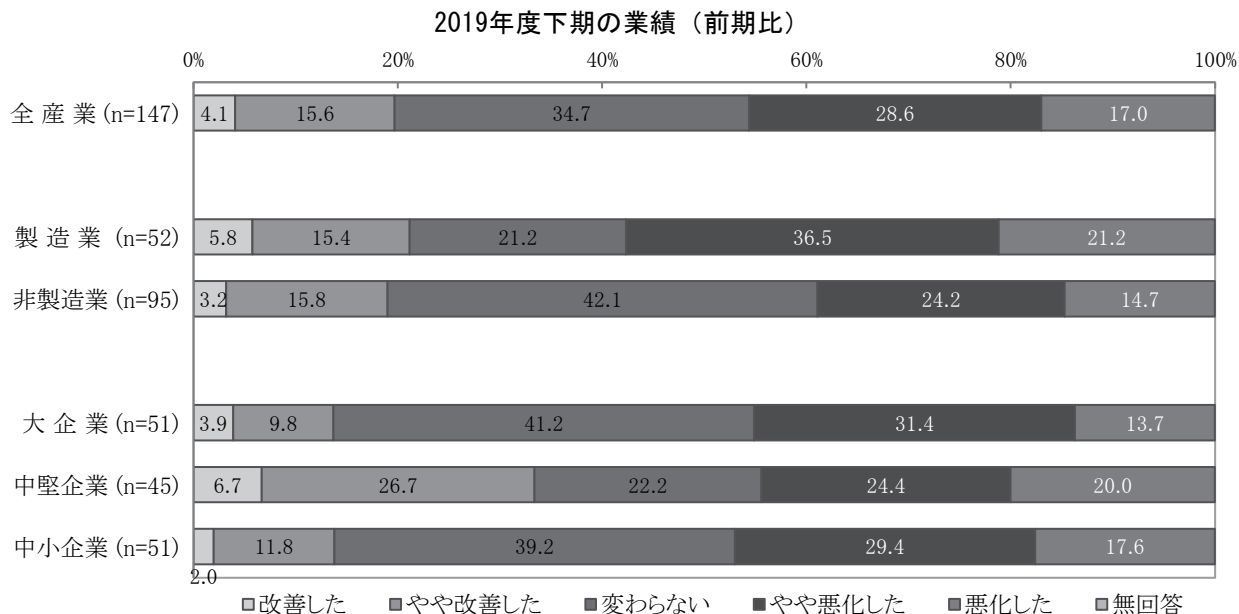
◎その他の具体的な回答

- ・ コロナウィルスの終息次第
- ・ 2022年度下期
- ・ 予想がつかない
- ・ 当面下降する

II 業績

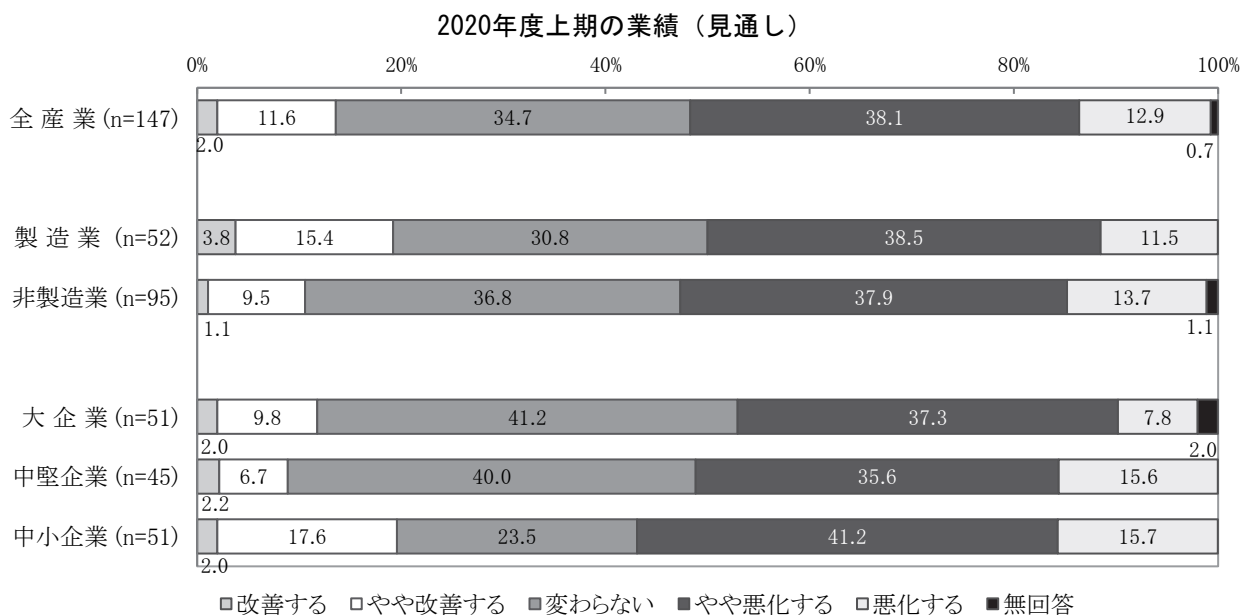
Q.1

貴社の2019年度下期(10月～3月)の業績は、2019年度上期(4月～9月)に比べてどのように変化しましたか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



Q.2

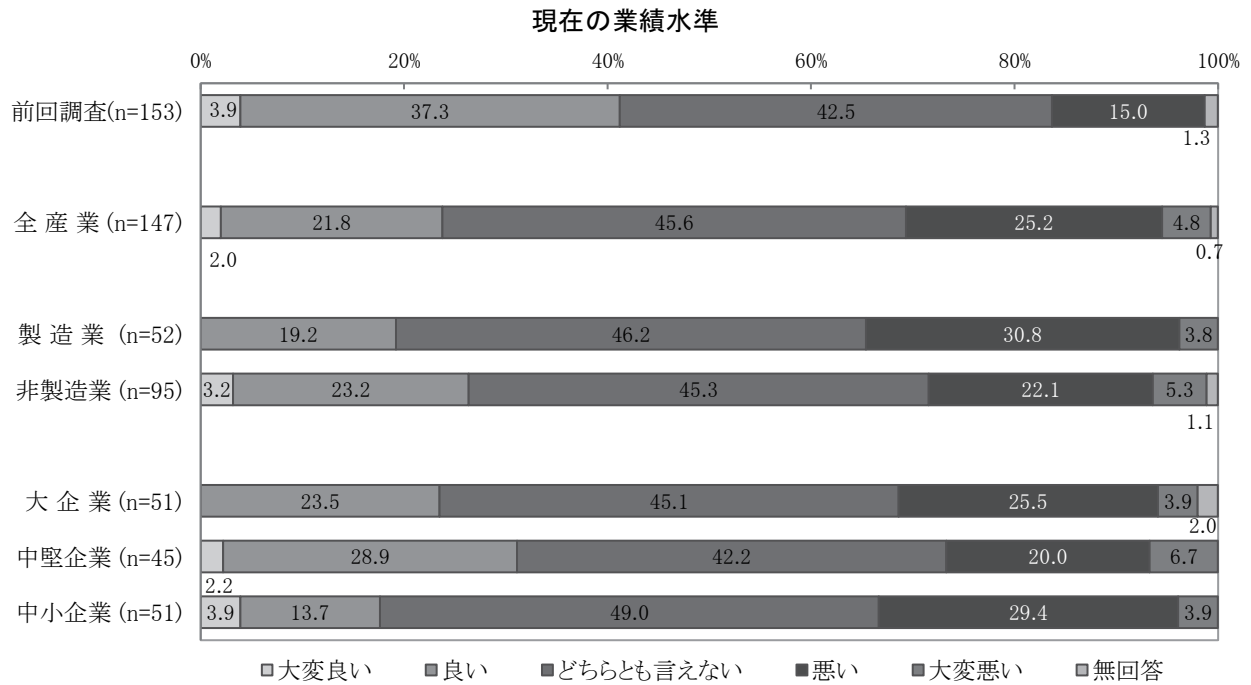
貴社の2020年度上期(4月～9月)の業績は、2019年度下期(10月～3月)に比べてどのように変化すると思われますか。(季節的要因を除外してお答え下さい。)



II 業績

Q.3

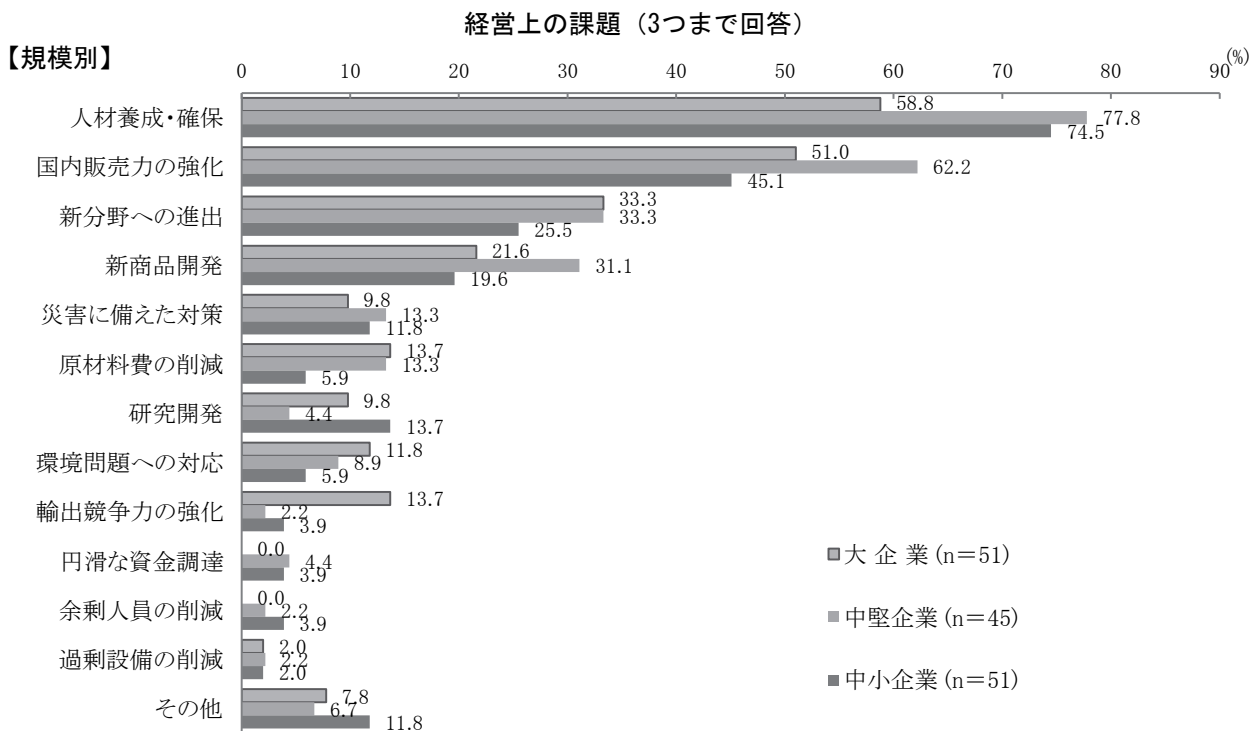
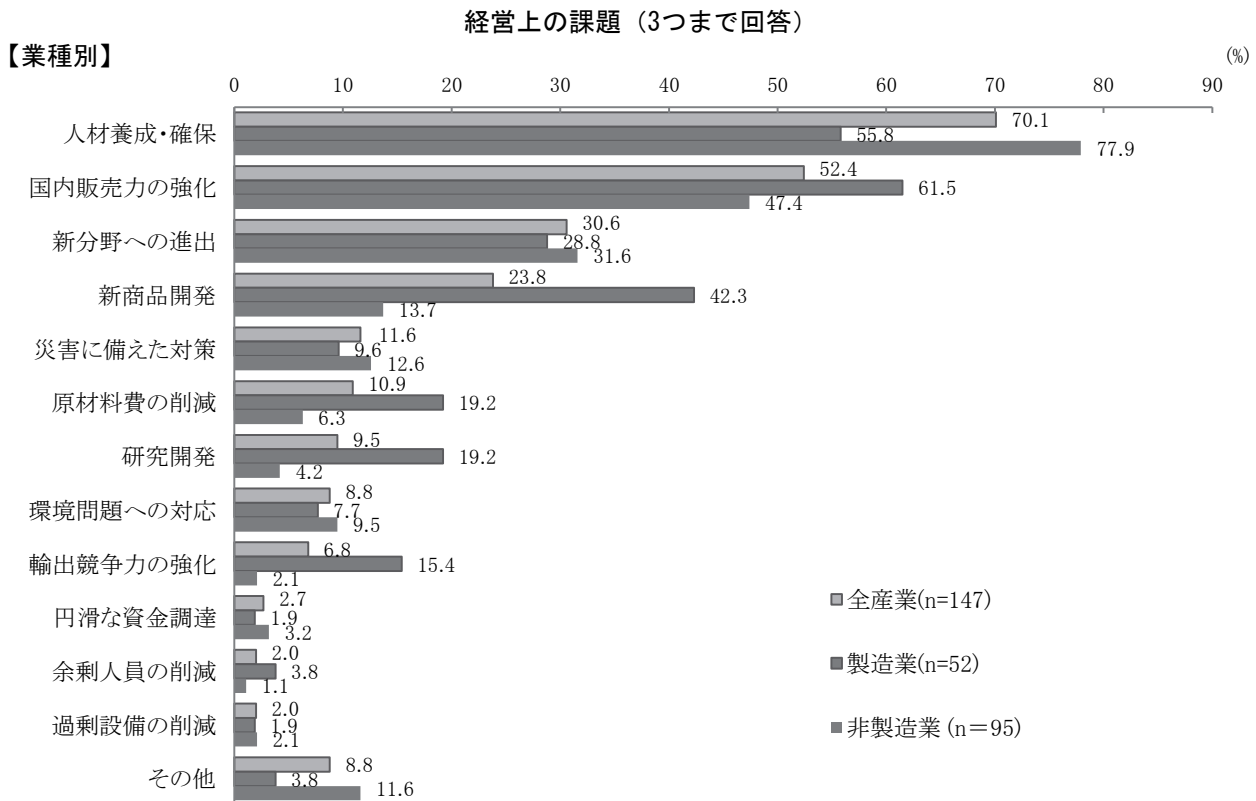
現在の貴社の業績水準についてどう思われますか。



II 業績

Q.4

貴社にとっての経営上の課題は、どのような点でしょうか。(3つまで回答可)



◎その他の具体的な回答

・省力化と効率化

・原子力発電所の再稼働

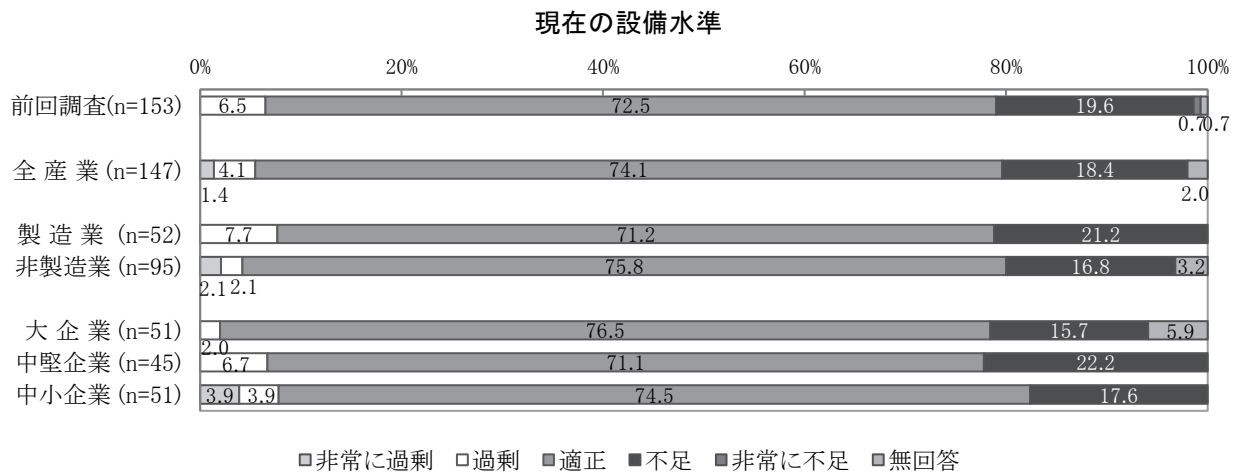
・新型コロナウイルスへの対応

・市場金利の低迷

III 設備投資

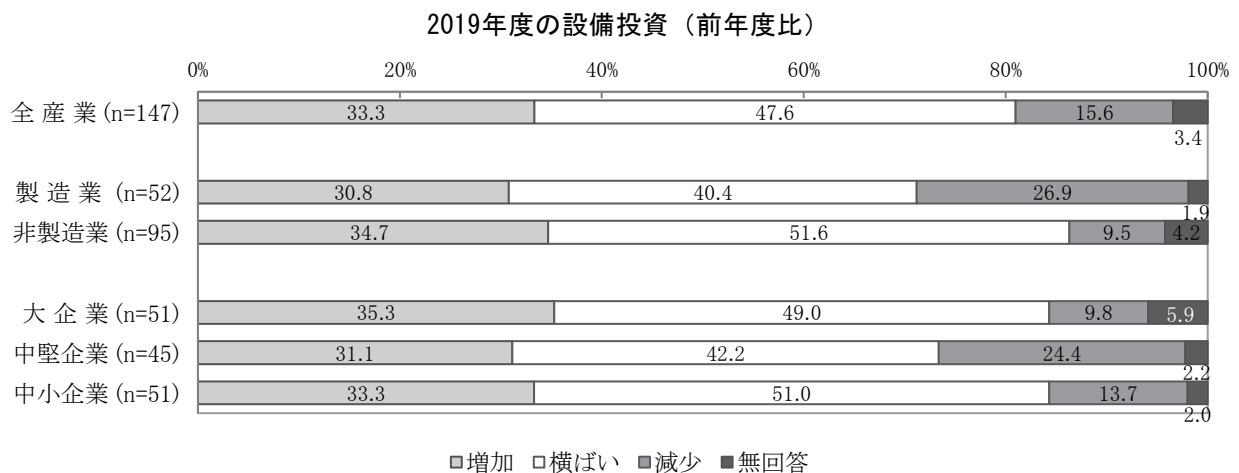
Q.1

貴社の現在の設備水準はどうか。



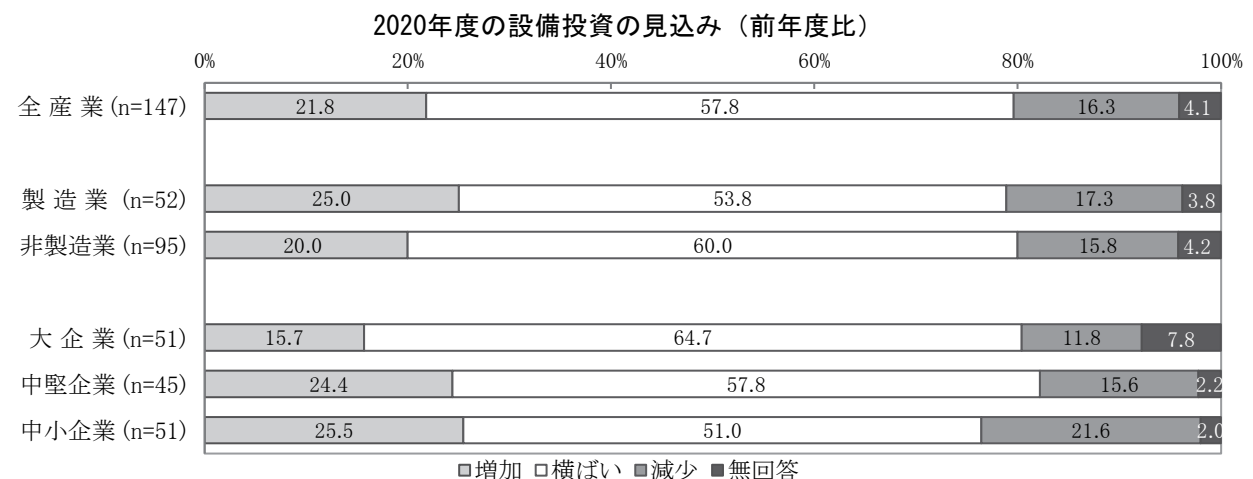
Q.2

貴社の2019年度の設備投資は2018年度に比べ、増加しましたか、減少しましたか。



Q.3

貴社の2020年度の設備投資は2019年度に比べ、増加する見込みですか、減少する見込みですか。

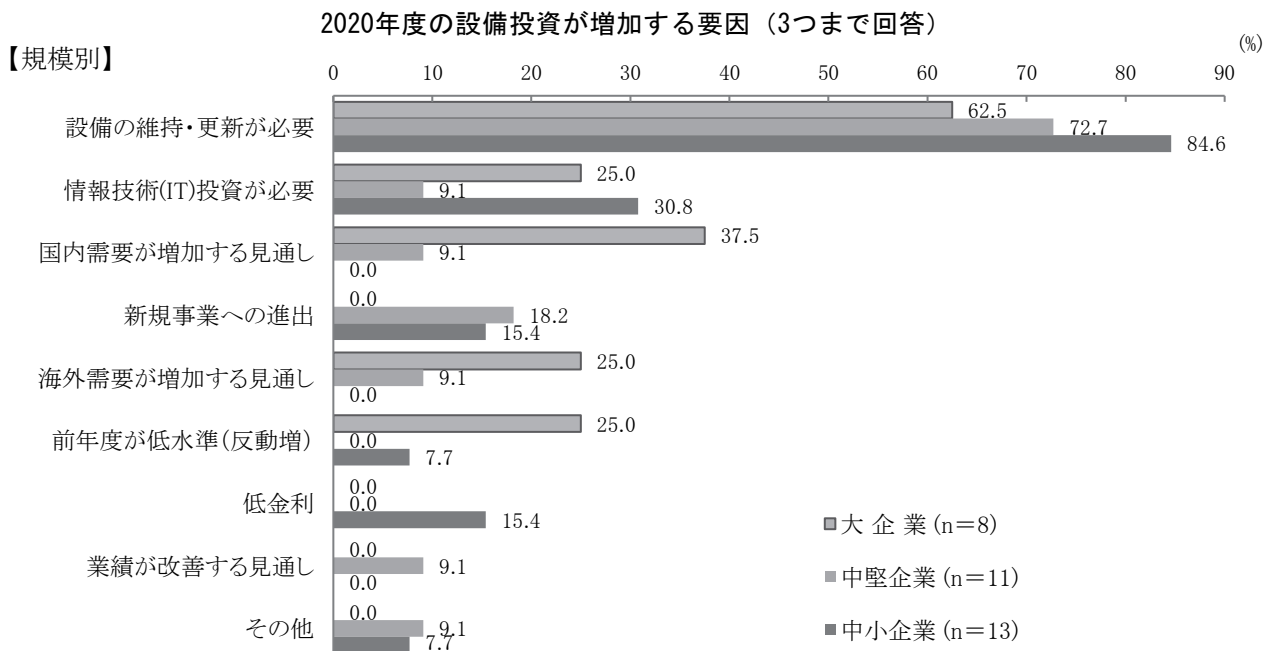
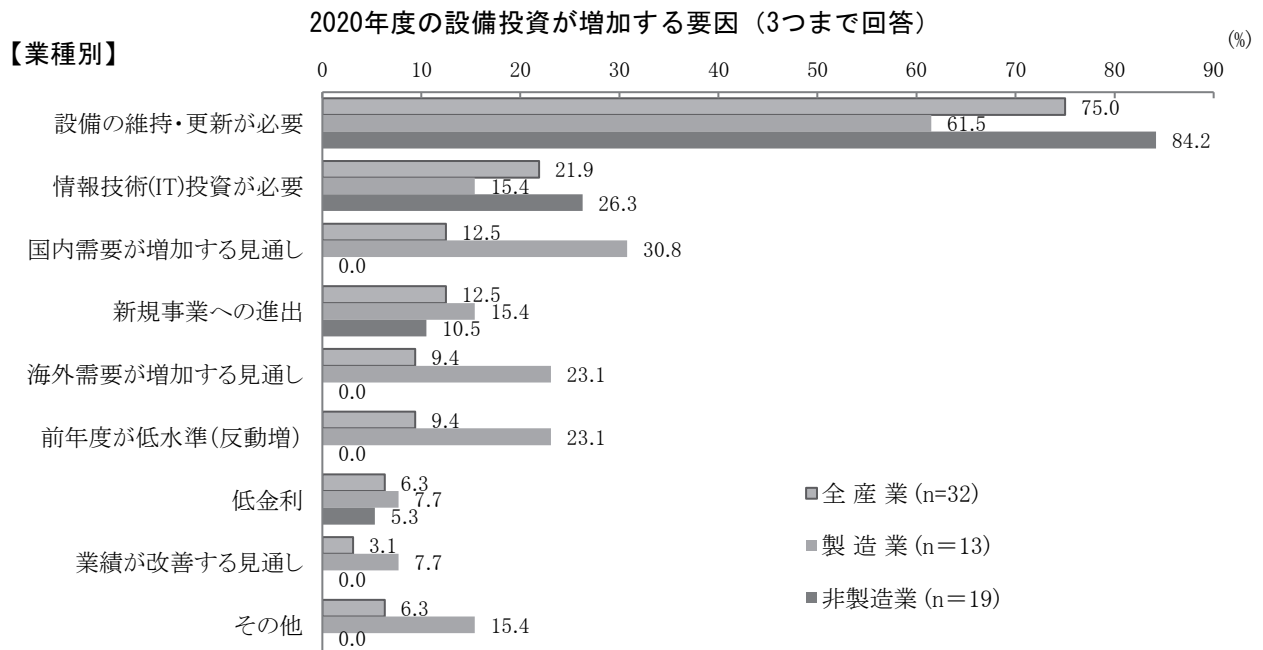


III 設備投資

Q.4

Q.3で「増加する」と回答された方へ

2020年度の設備投資が、2019年度と比較して増加する要因をお答えください。(3つまで回答可)



◎その他の具体的な回答
・継続的な投資が必要

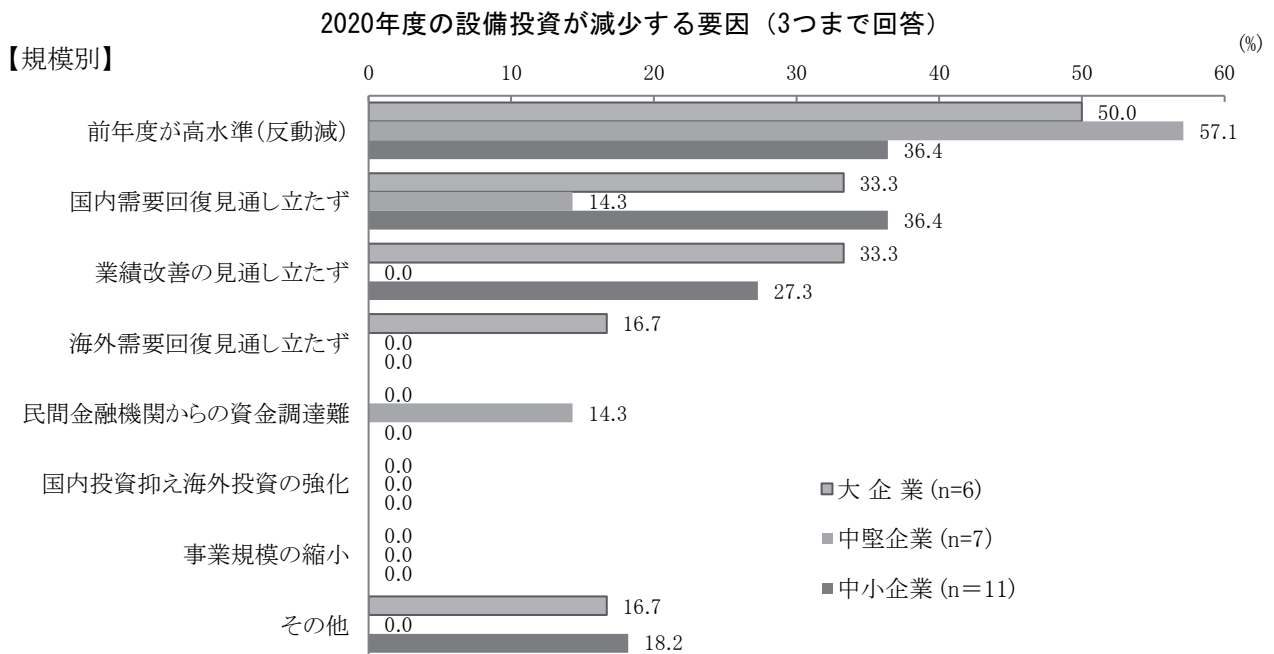
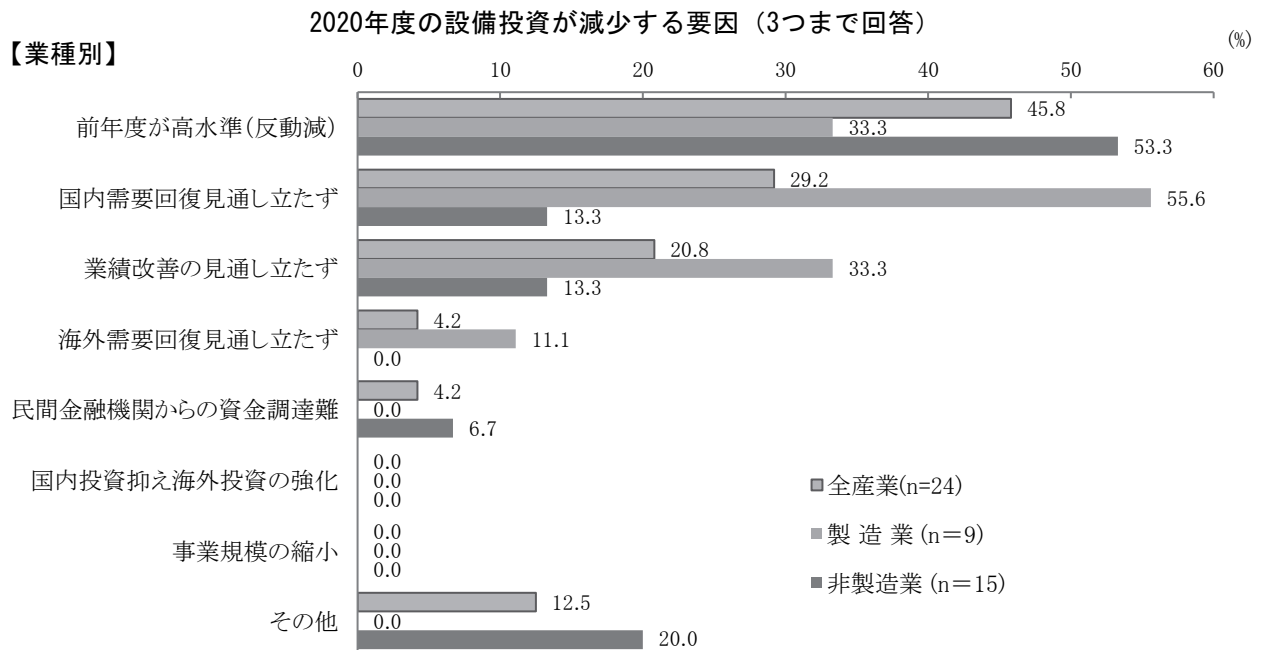
・研究棟の建設

III 設備投資

Q.5

Q.3で「減少する」と回答された方へ

2020年度の設備投資が、2019年度と比較して減少する要因をお答えください。(3つまで回答可)



◎その他の具体的な回答

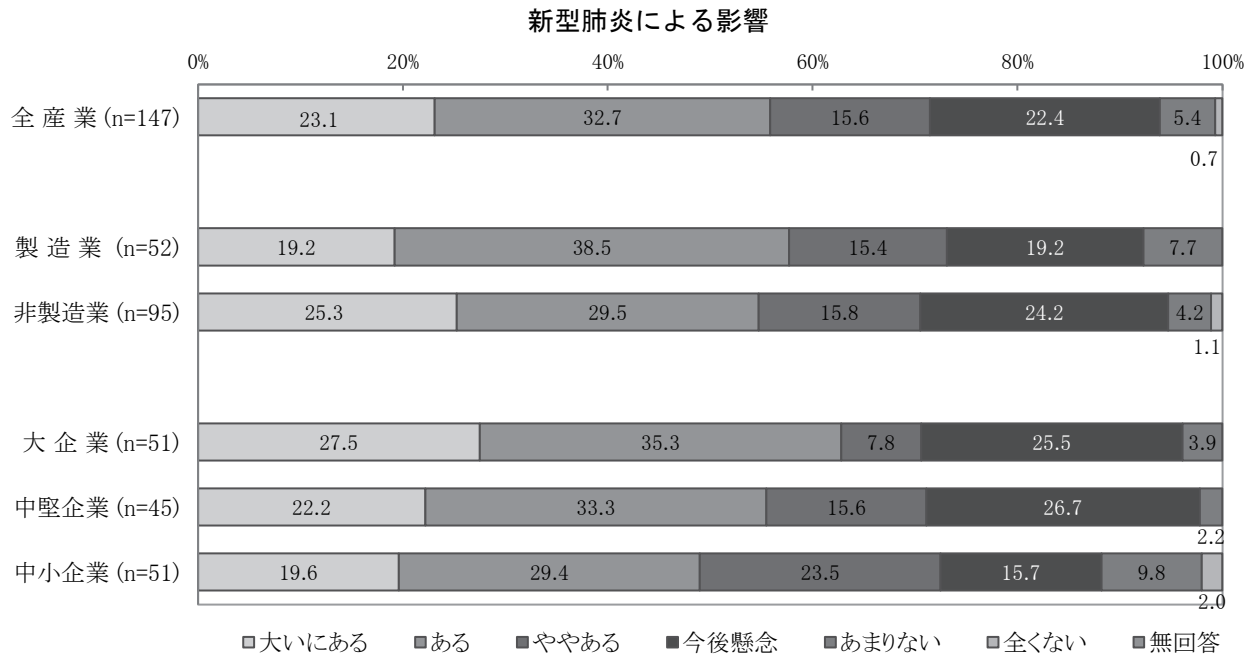
・必要がないため。

IV その他

1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響についてお聞きします。

Q.1

貴社において現在、新型肺炎による企業活動での影響はございますか。



IV その他

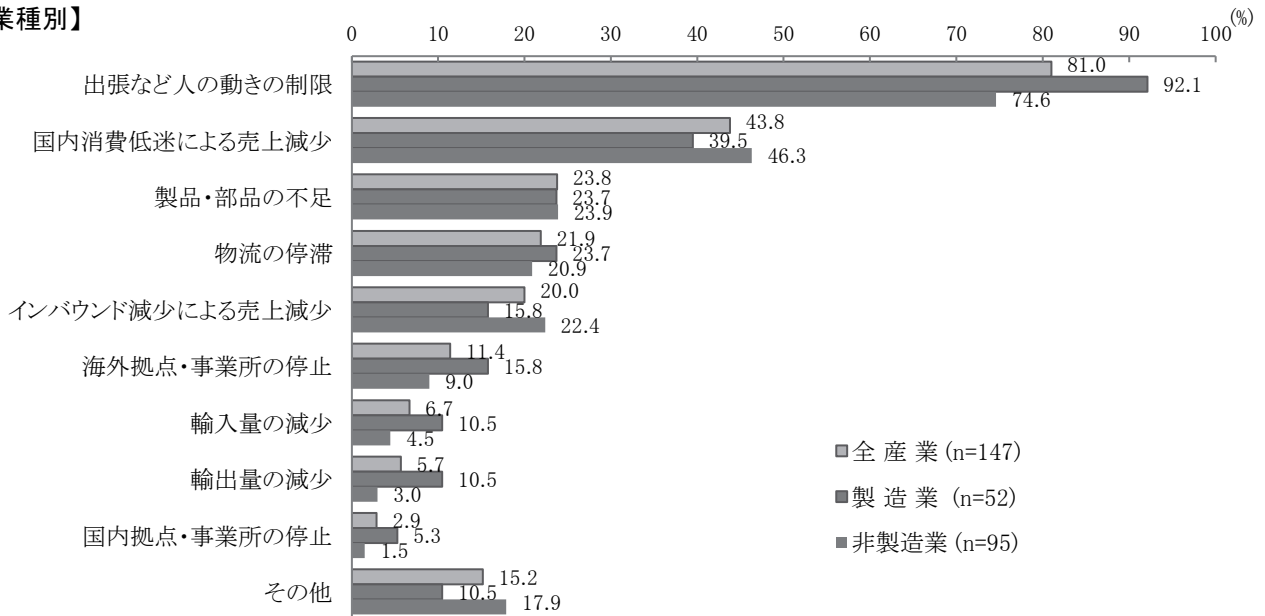
1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響についてお聞きします。

Q. 2

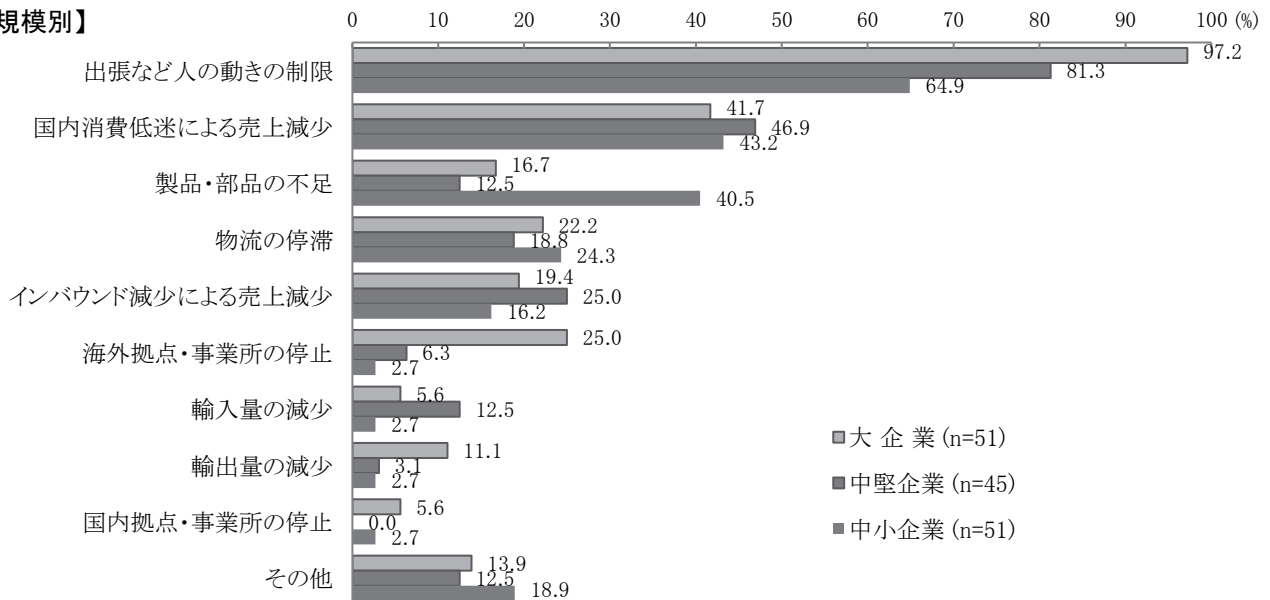
Q.1で「影響がある」と回答された方へ
現在、具体的にどのような影響がありましたか。

現在の新型肺炎による具体的な影響（複数回答）

【業種別】



【規模別】



◎その他の具体的な回答

- ・イベント行事の中止
- ・営業活動への影響、自粛
- ・海外拠点・事業所の生産減少
- ・海外と関わりのある顧客の低迷
- ・工事中止、工期への影響
- ・株式相場下落
- ・求人活動への影響
- ・テレワークの増加等のプラス影響
- ・協力工場の稼働停止

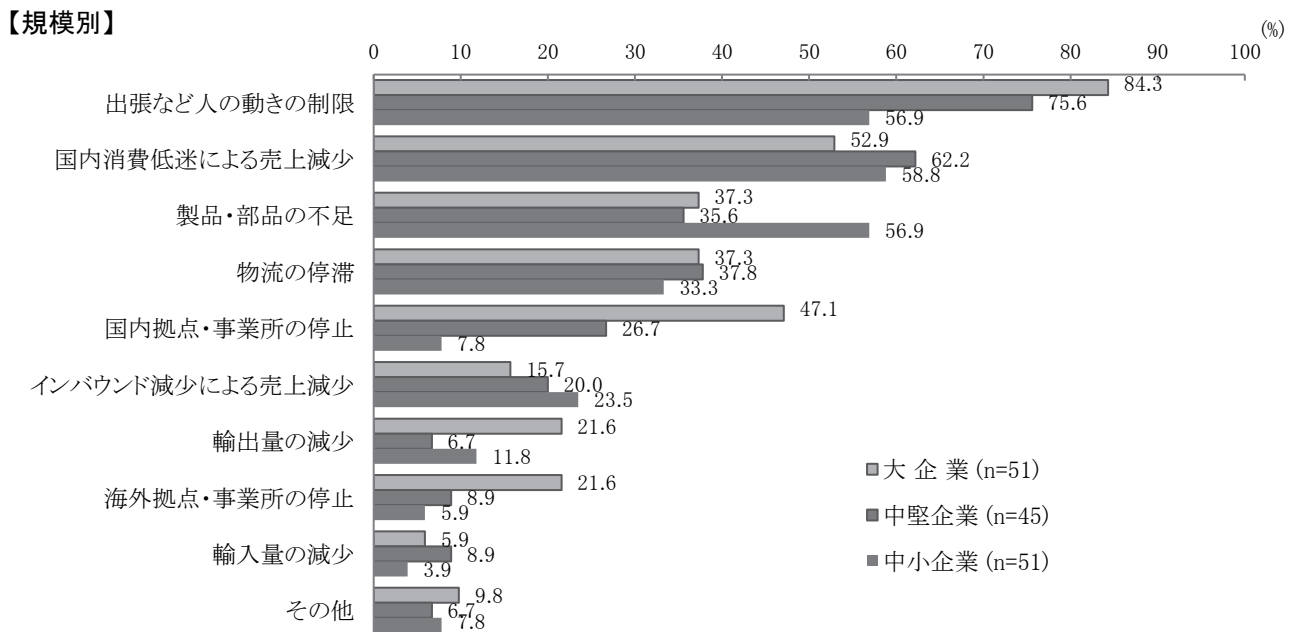
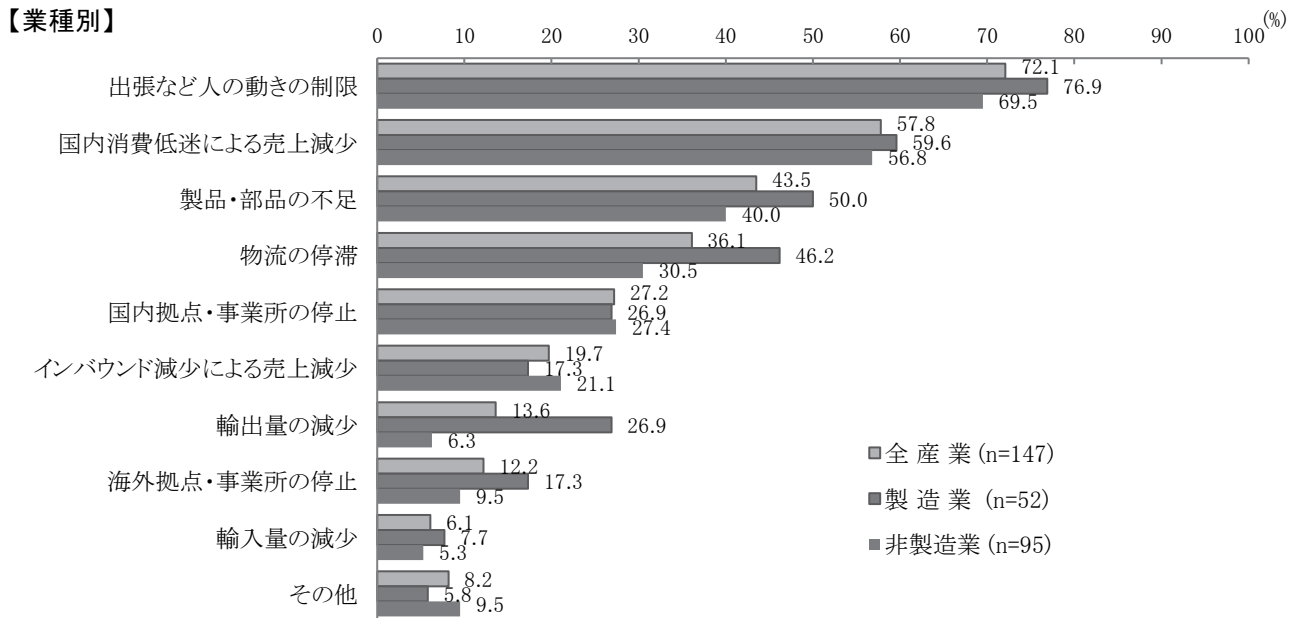
IV その他

1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響についてお聞きします。

Q.3

今後、新型肺炎の感染が継続、拡大した場合、どのような事態が想定されますか。

今後、感染が継続・拡大した場合、想定される事態（複数回答）



◎その他の具体的な回答

- ・営業活動への影響、自粛
- ・株価下落による収益低下
- ・国内イベント減少による影響
- ・多大なキャンセルの発生
- ・求人活動への影響
- ・資金相談の増加
- ・対応社員の人数減少

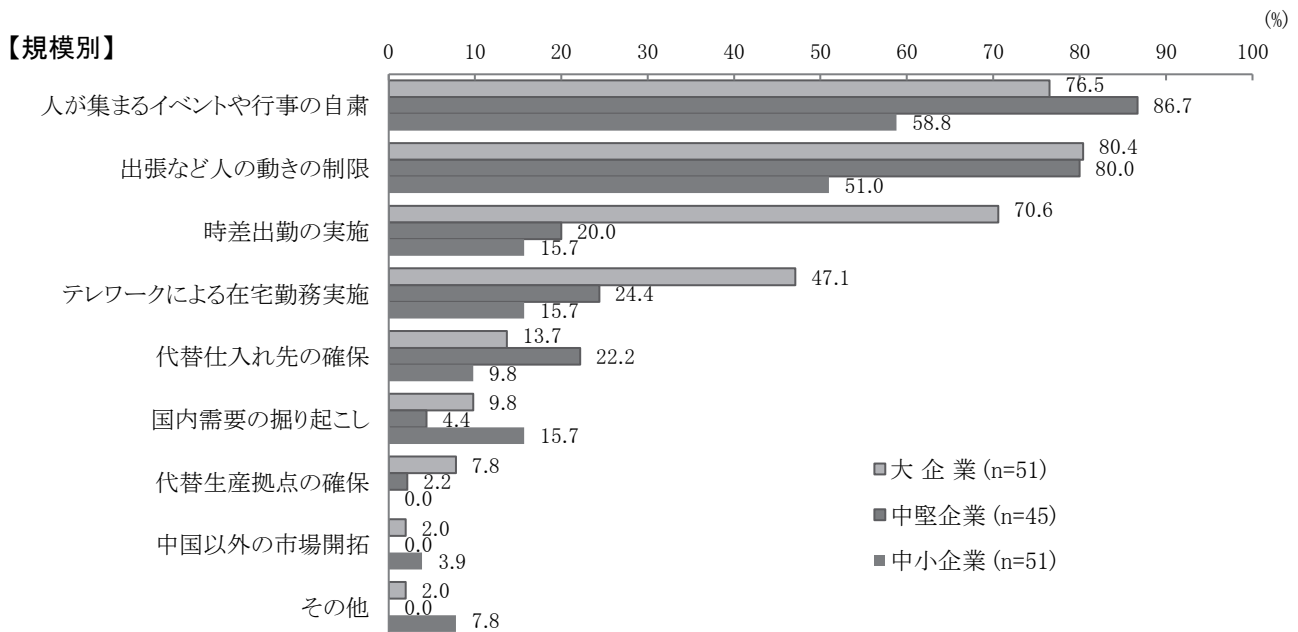
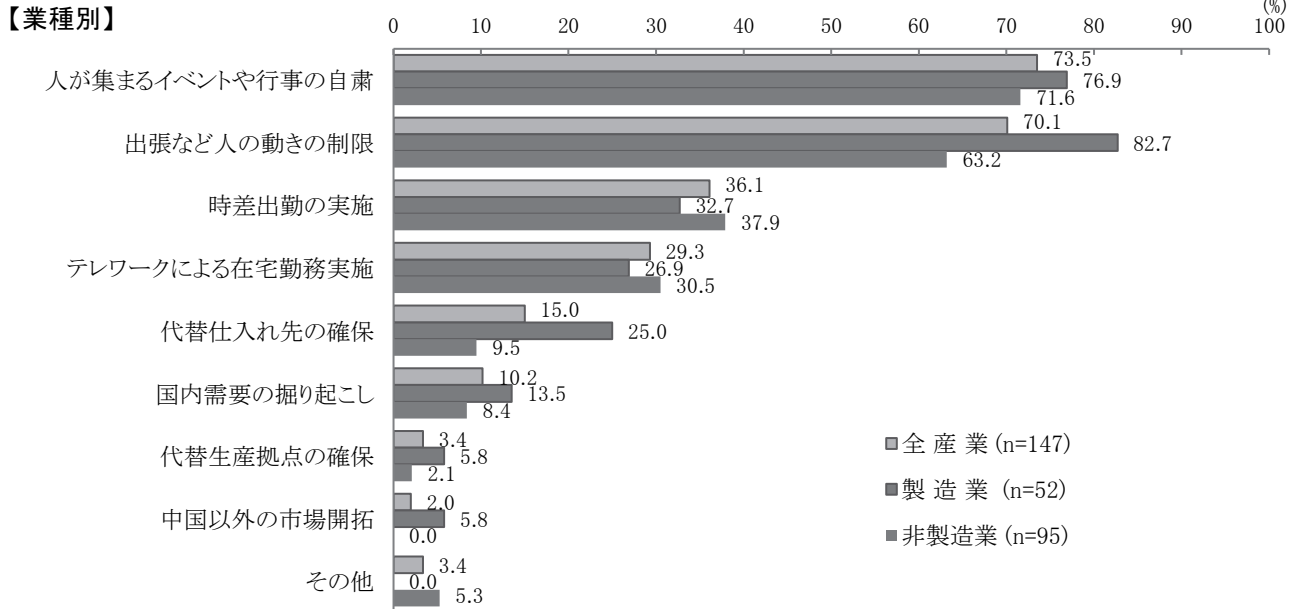
IV その他

1. 新型コロナウイルス肺炎による企業活動の影響についてお聞きします。

Q.4

今後、新型肺炎の感染が拡大した場合に備えどのような対策を実施、検討していますか。

今後、感染が拡大した場合に備えた対策（複数回答）



◎その他の具体的な回答

- ・感染防止のための自己管理の徹底
- ・製品の販売単価の増額
- ・必要な業務を最優先して実施

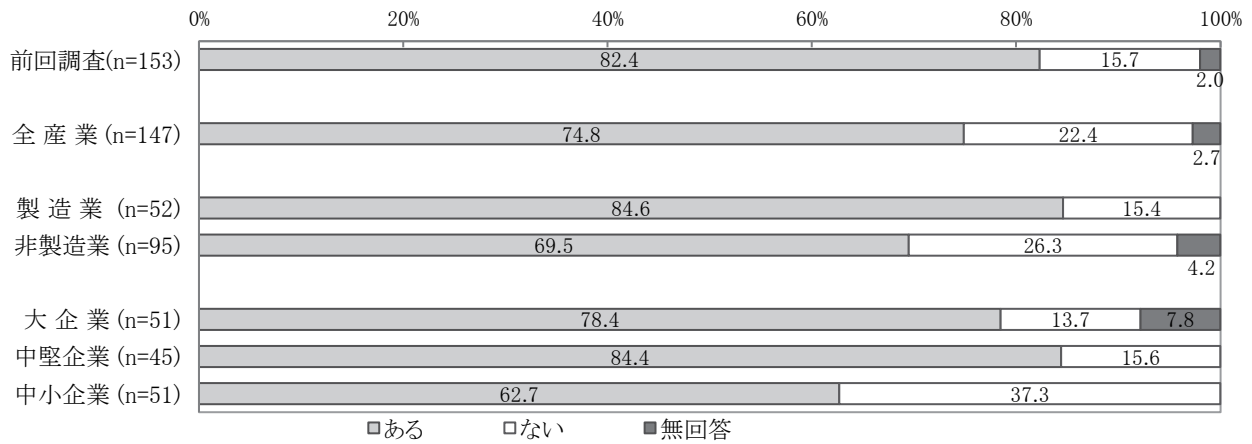
IV その他

1. 貴社の採用活動についてお聞きします。

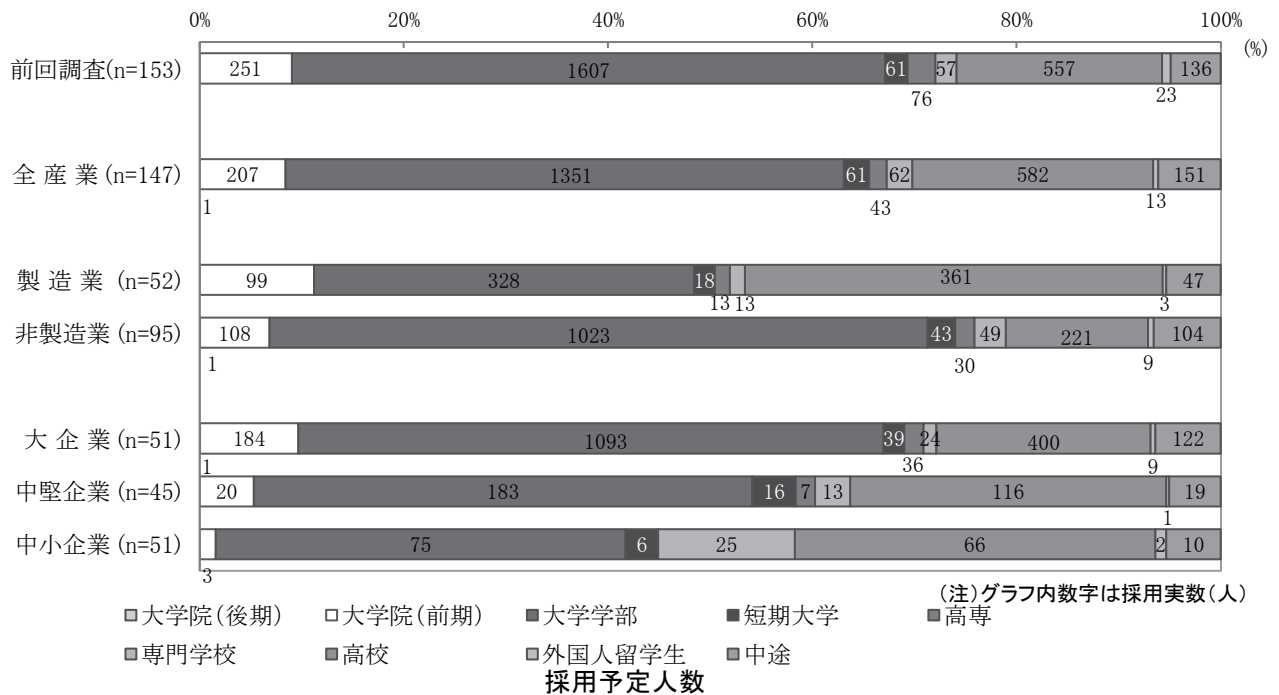
Q.1

2019年度（2020年4月新卒者等）の採用はございましたか。またその構成及び人数をお聞かせください。

2019年度の採用



採用者の構成及び人数



【採用人数】	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	短期大学	高専	専門学校	高校	外国人留学生	中途	計
全産業	1	207	1351	61	43	62	582	13	151	2470
製造業	0	99	328	18	13	13	361	3	47	882
非製造業	1	108	1023	43	30	49	221	9	104	1587
大企業	1	184	1093	39	36	24	400	9	122	1907
中堅企業	0	20	183	16	7	13	116	1	19	375
中小企業	0	3	75	6	0	25	66	2	10	187

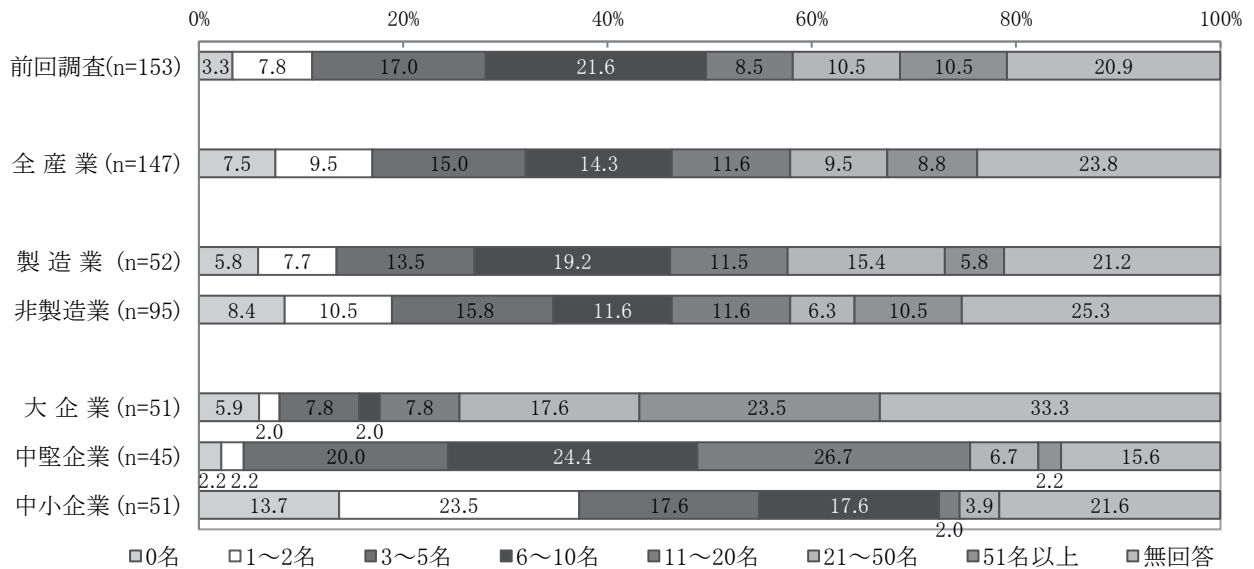
IV その他

1. 貴社の採用活動に関してお聞きします。

Q.2

2019年度の採用予定(目標)人数は何名でしたか。また充足率をお聞かせください

2019年度新卒者の採用目標



充足率

	9%以下	10%台	20%台	30%台	40%台	50%台	60%台	70%台	80%台	90%超
前回調査(n=113)	5.3	0.0	1.8	3.5	1.8	8.8	6.2	8.8	8.0	55.8
全産業(n=99)	5.1	0.0	2.0	2.0	6.1	5.1	3.0	9.1	16.2	51.5
製造業(n=37)	8.1	0.0	2.7	0.0	0.0	5.4	2.7	8.1	16.2	56.8
非製造業(n=62)	3.2	0.0	1.6	3.2	9.7	4.8	3.2	9.7	16.1	48.4
大企業(n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	10.7	17.9	67.9
中堅企業(n=37)	5.4	0.0	2.7	5.4	8.1	2.7	0.0	10.8	16.2	48.6
中小企業(n=34)	8.8	0.0	2.9	0.0	8.8	11.8	5.9	5.9	14.7	41.2

単位: %

IV その他

1. 貴社の採用活動についてお聞きます。

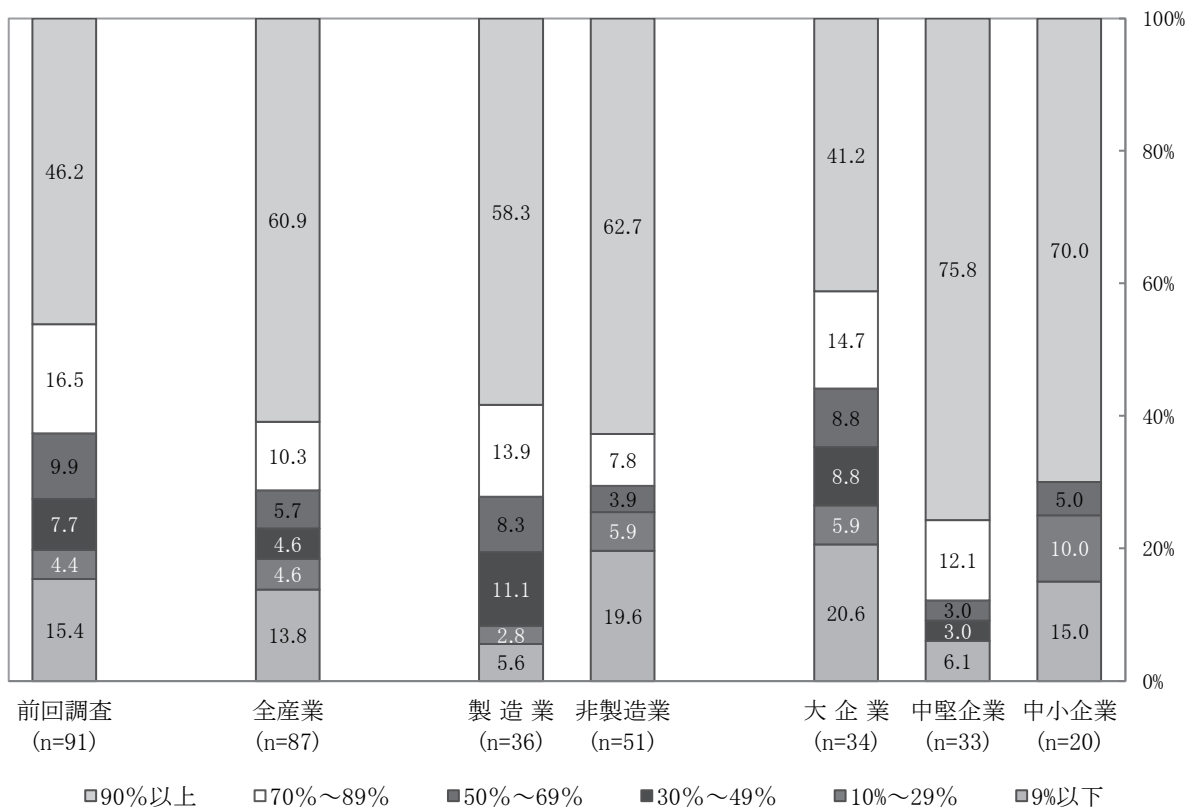
Q.3

Q1のうち北陸出身者（富山、石川、福井県別）の採用予定人数は何名ですか。

採用予定人数（北陸出身者）

【採用人数】	富山県出身				石川県出身				福井県出身				計			
	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計
全産業	5	33	219	257	3	43	263	309	2	14	163	179	10	90	645	745
製造業	0	16	67	83	0	35	104	139	1	10	38	49	1	61	209	271
非製造業	5	17	152	174	3	8	159	170	1	4	125	130	9	29	436	474
大企業	5	26	124	155	3	35	168	206	1	14	136	151	9	75	428	512
中堅企業	0	6	65	71	0	8	74	82	1	0	24	25	1	14	163	178
中小企業	0	1	30	31	0	0	21	21	0	0	3	3	0	1	54	55

北陸出身者比率



IV その他

1. 貴社の採用活動に関してお聞きます。

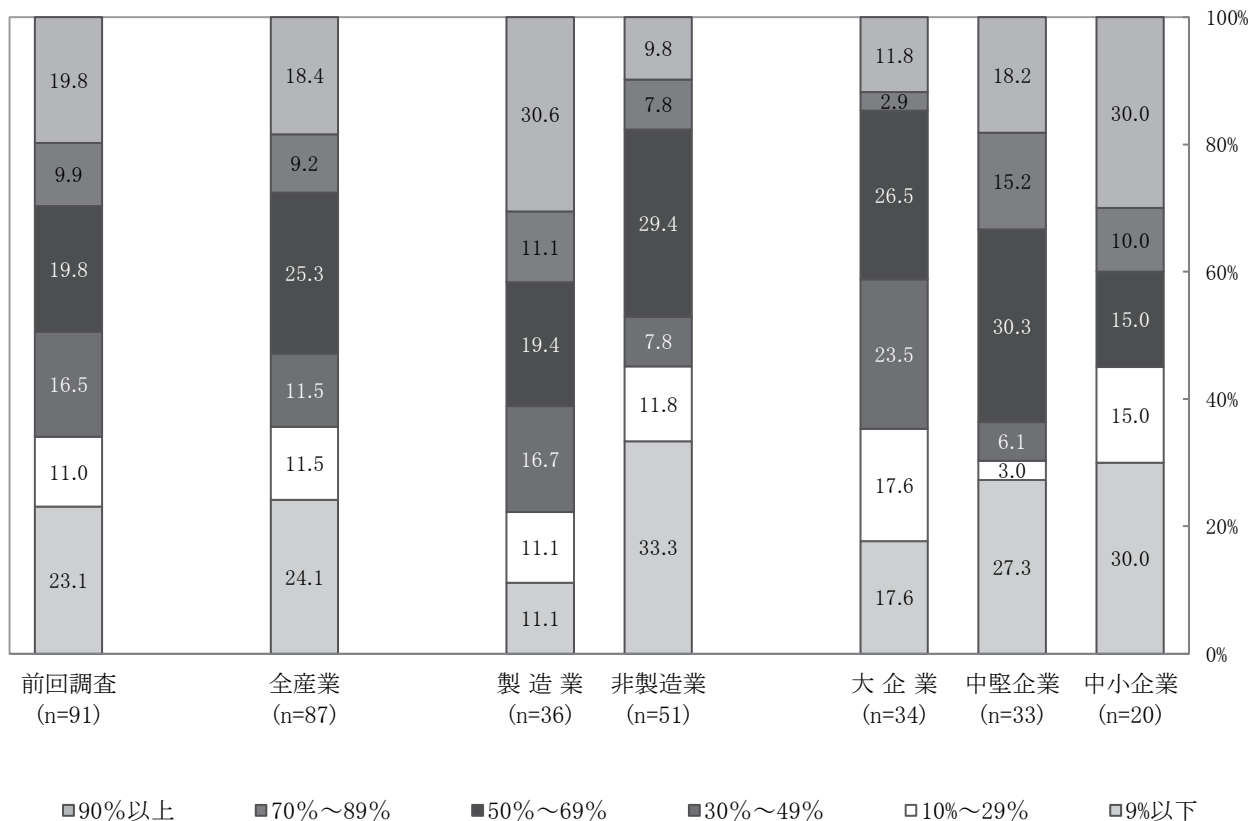
Q.4

Q1のうち北陸地域大学出身者（富山、石川、福井県別）の採用予定人数は何名ですか。

採用予定人数（北陸地域大学出身者）

【採用人数】	富山県内大学				石川県内大学				福井県内大学				計			
	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計	大学院(後期)	大学院(前期)	大学学部	計
全産業	4	37	156	197	2	34	164	200	0	9	70	79	6	80	390	476
製造業	2	31	73	106	0	29	55	84	0	7	29	36	2	67	157	226
非製造業	2	6	83	91	2	5	109	116	0	2	41	43	4	13	233	250
大企業	4	27	104	135	2	27	92	121	0	7	53	60	6	61	249	316
中堅企業	0	8	31	39	0	7	60	67	0	2	13	15	0	17	104	121
中小企業	0	2	21	23	0	0	12	12	0	0	4	4	0	2	37	39

北陸地域大学出身者比率

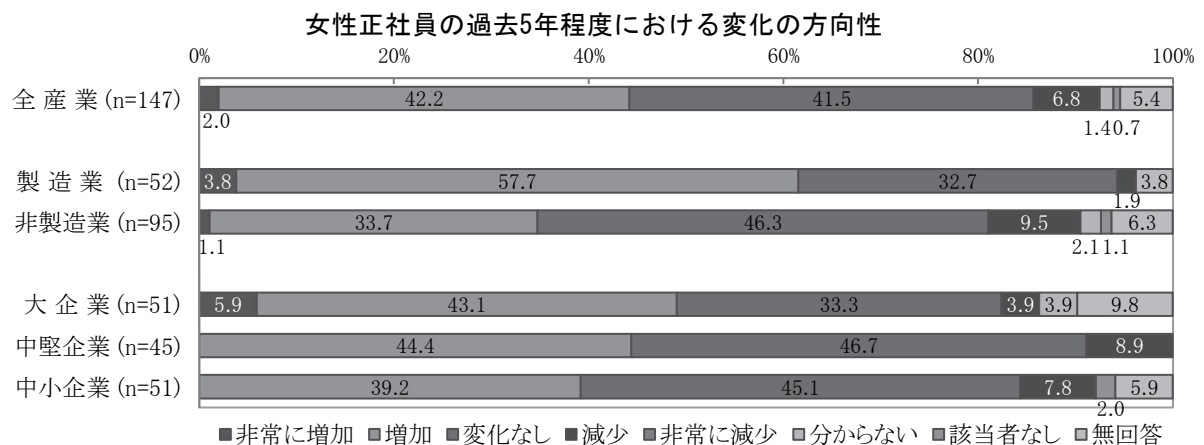
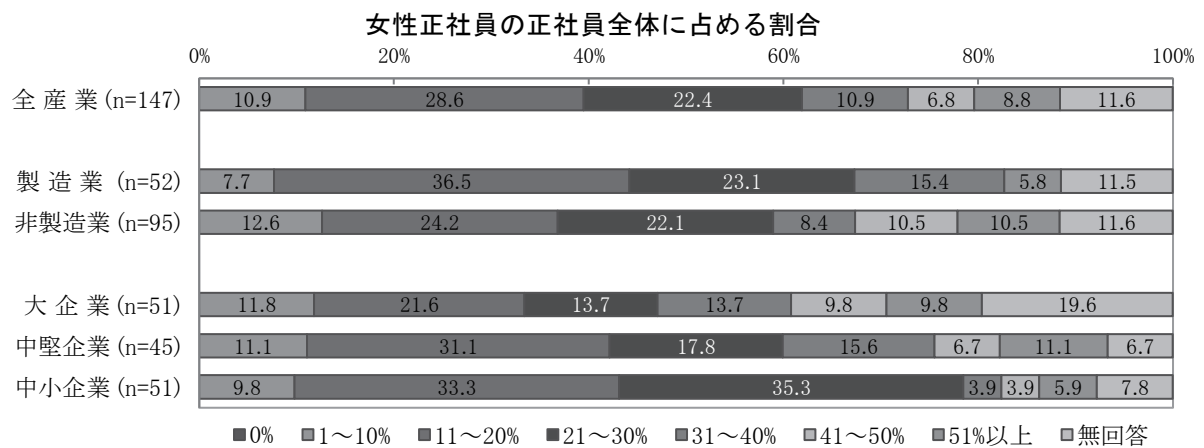
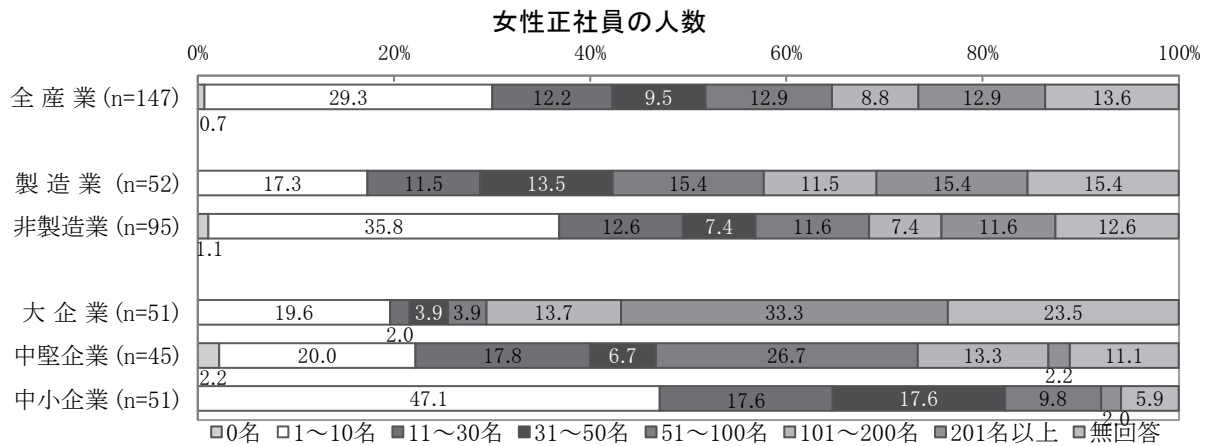


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

Q.1

貴社における女性正社員の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。

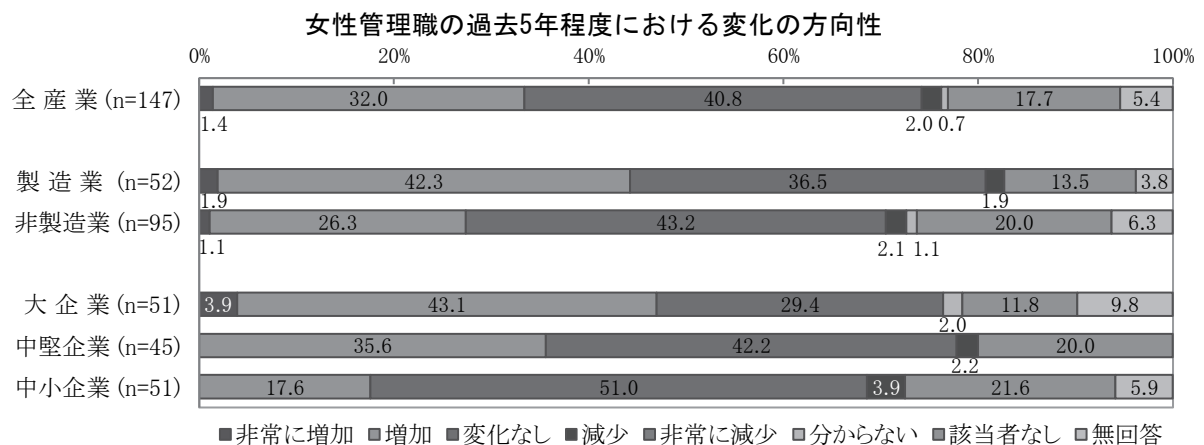
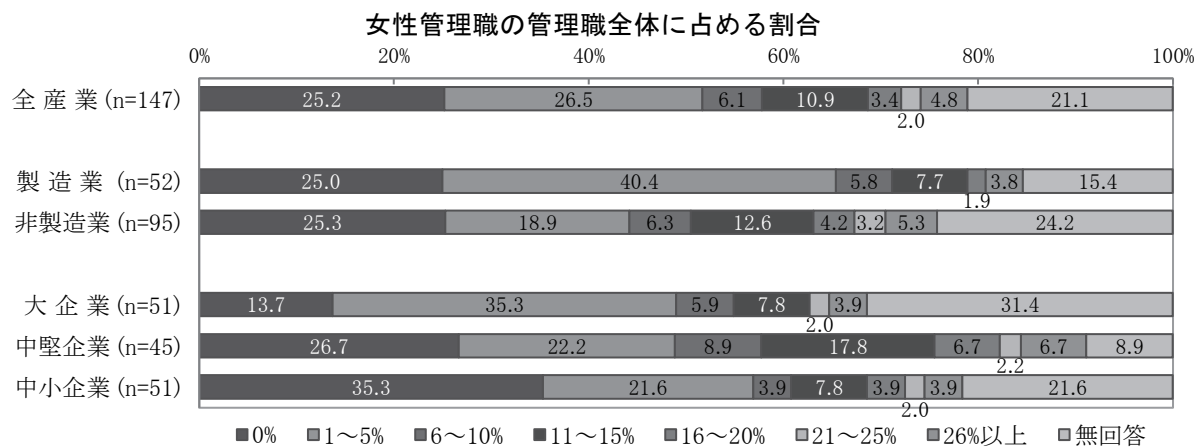
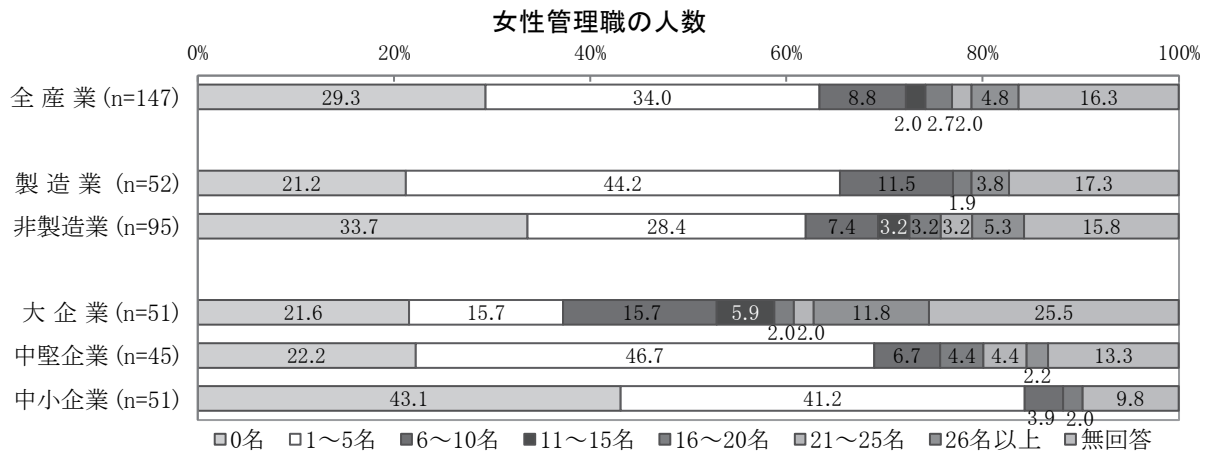


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q. 2

貴社における女性管理職の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。

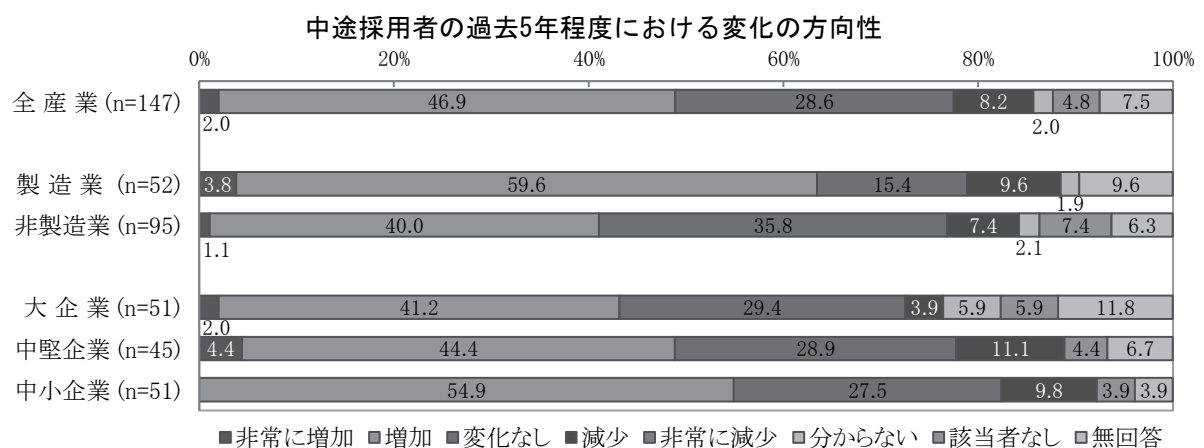
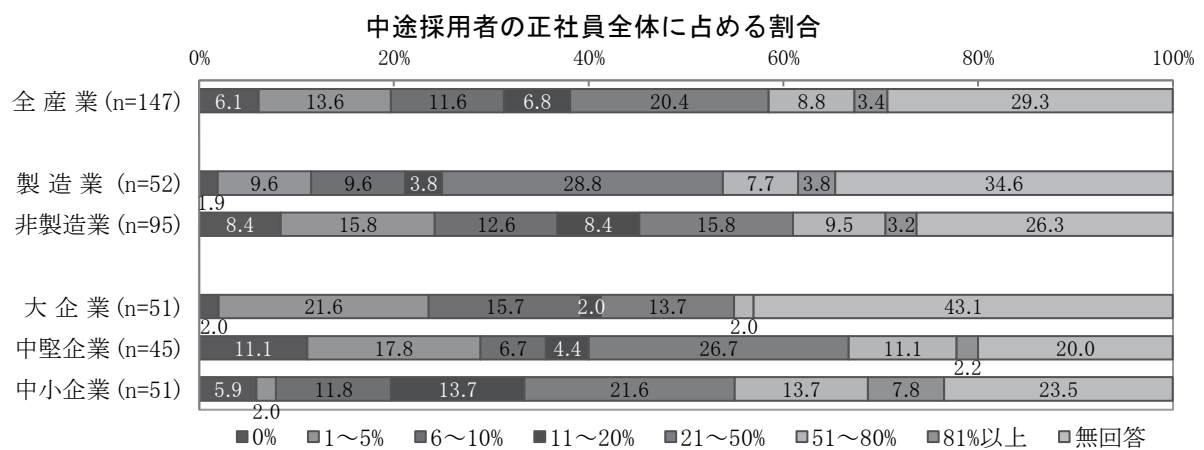
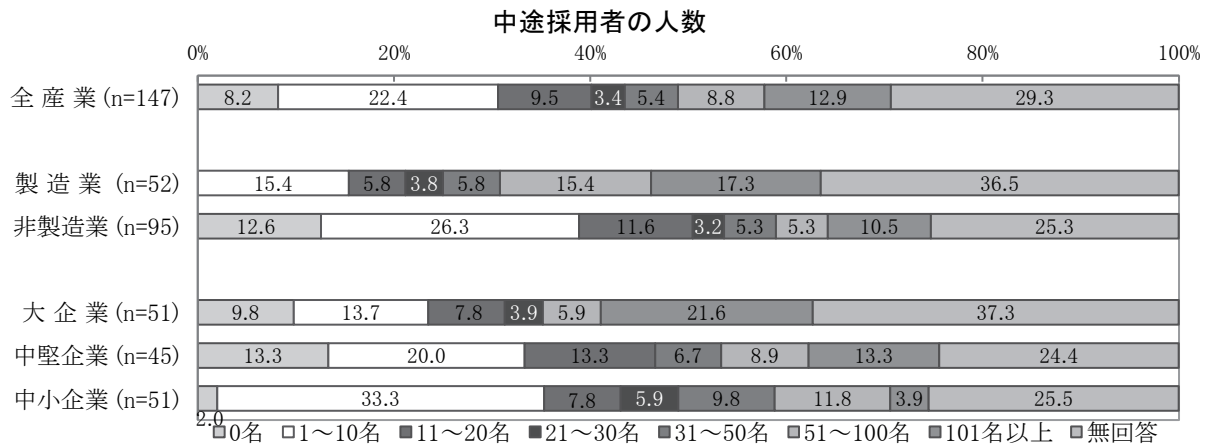


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q.3

貴社における中途採用者の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。

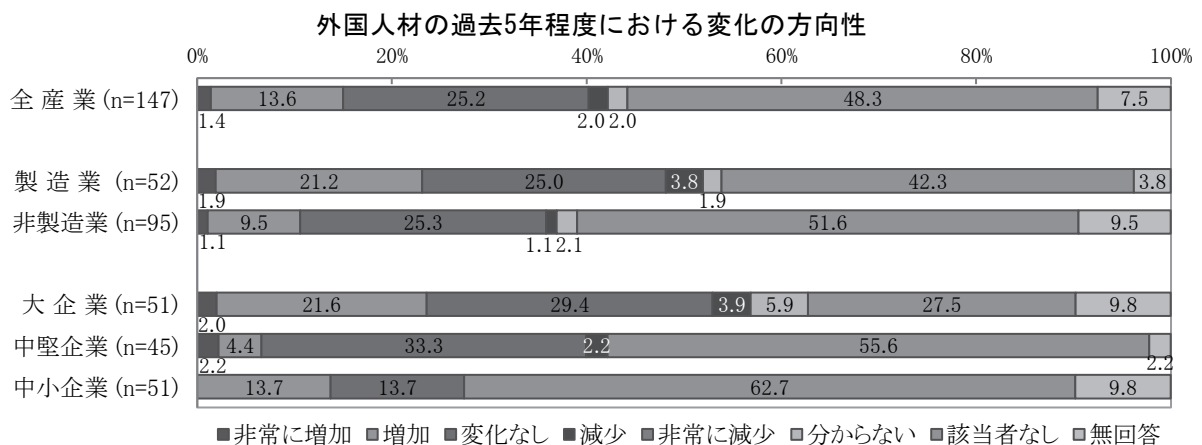
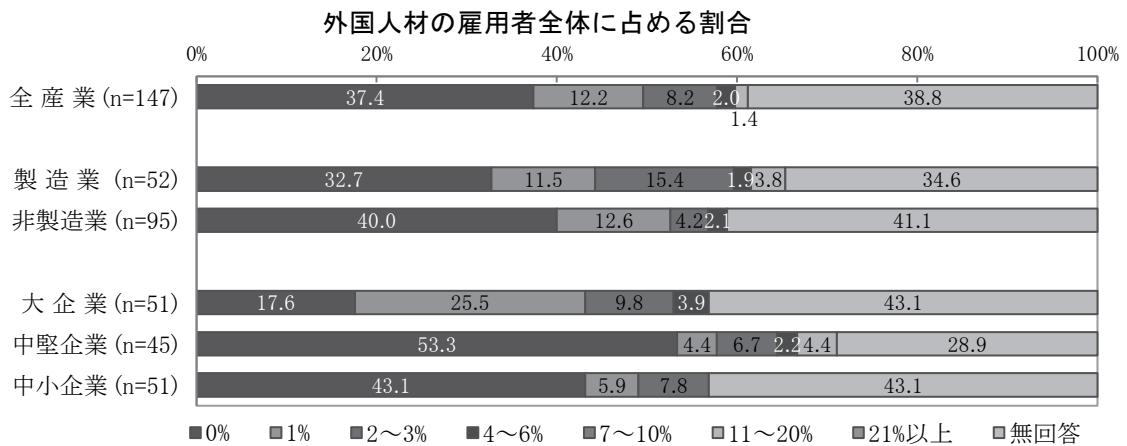
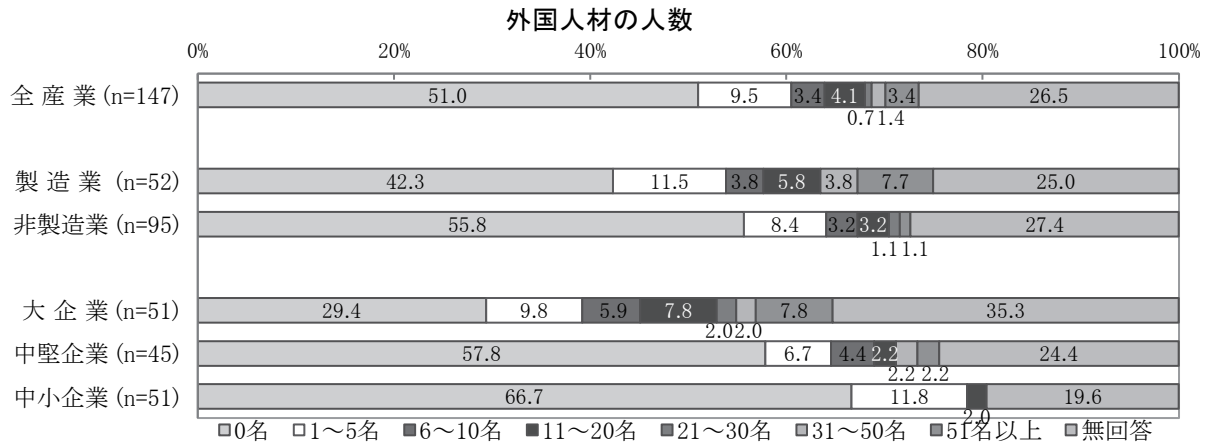


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q.4

貴社における外国人材の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。

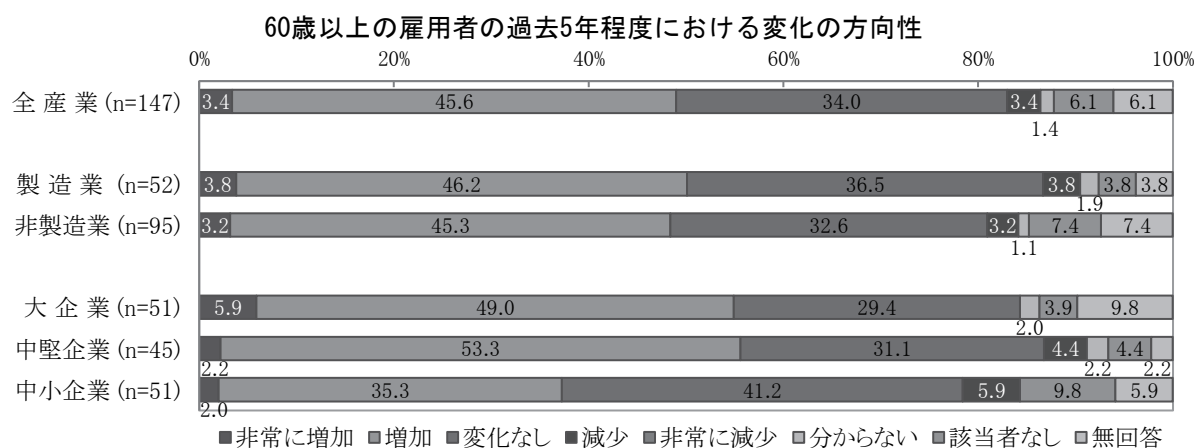
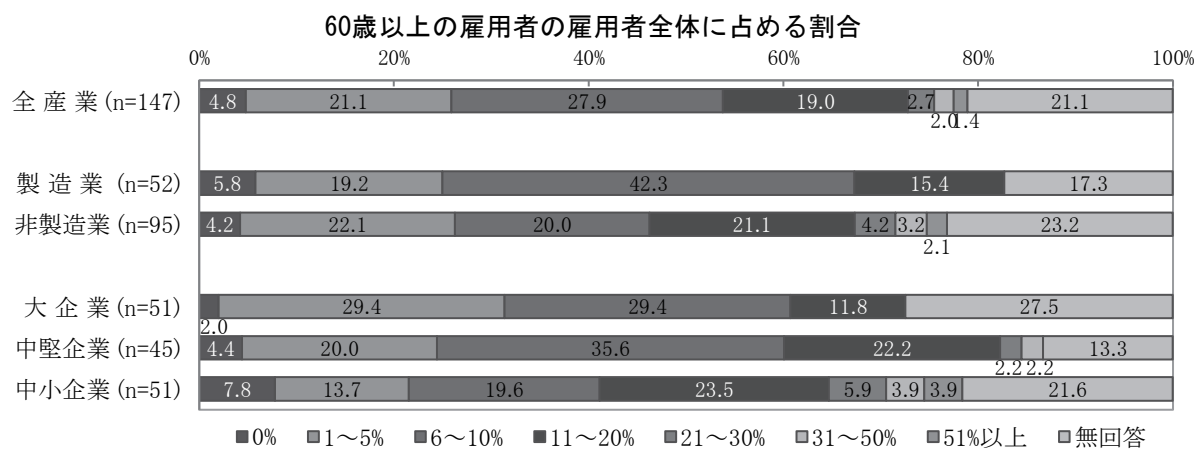
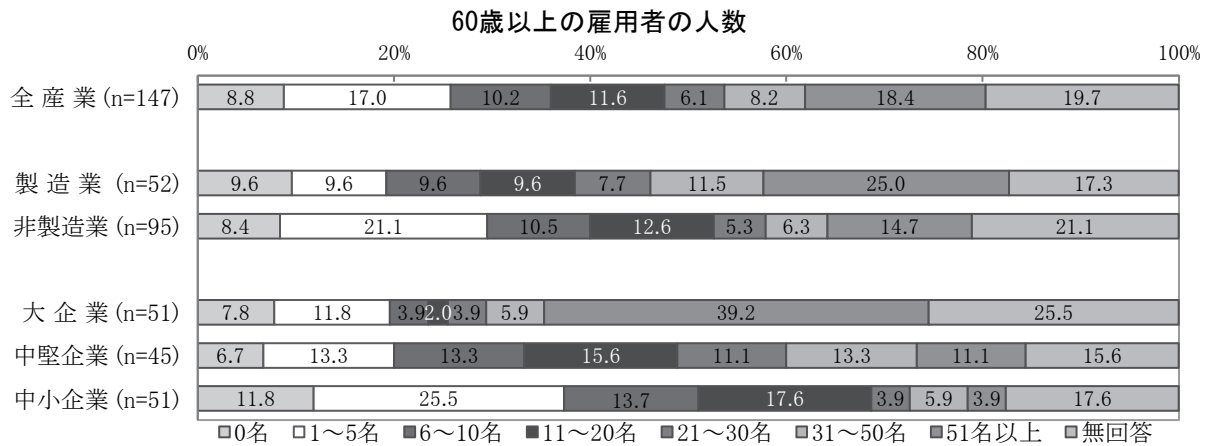


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

Q.5

貴社における60歳以上の雇用者の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。

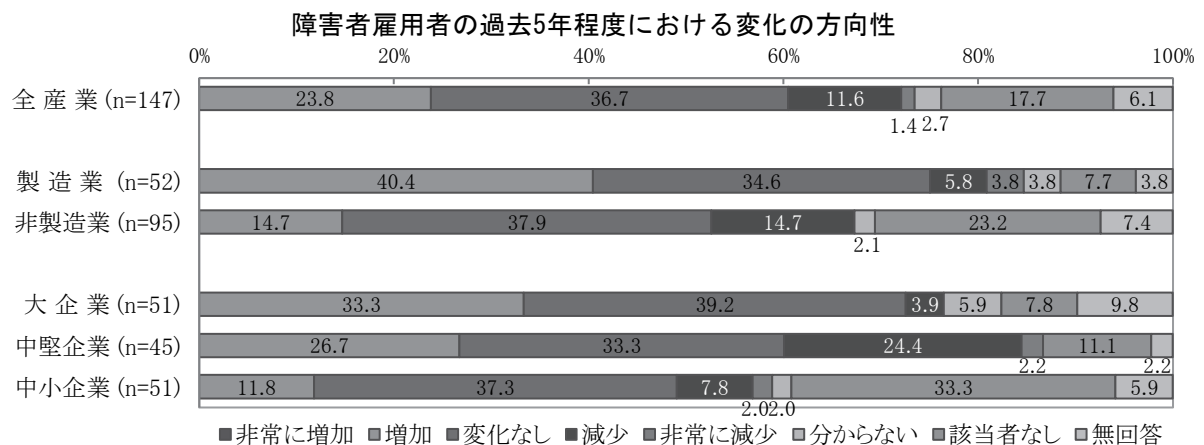
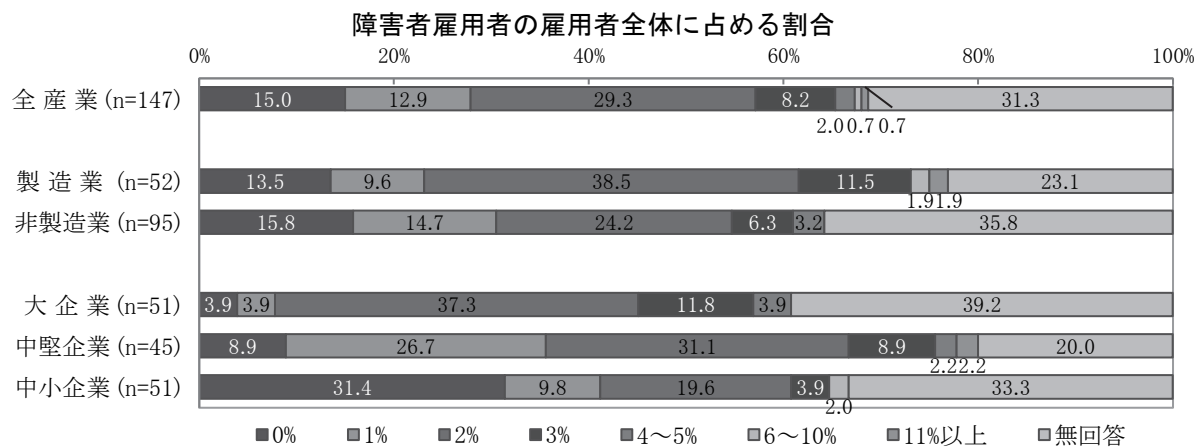
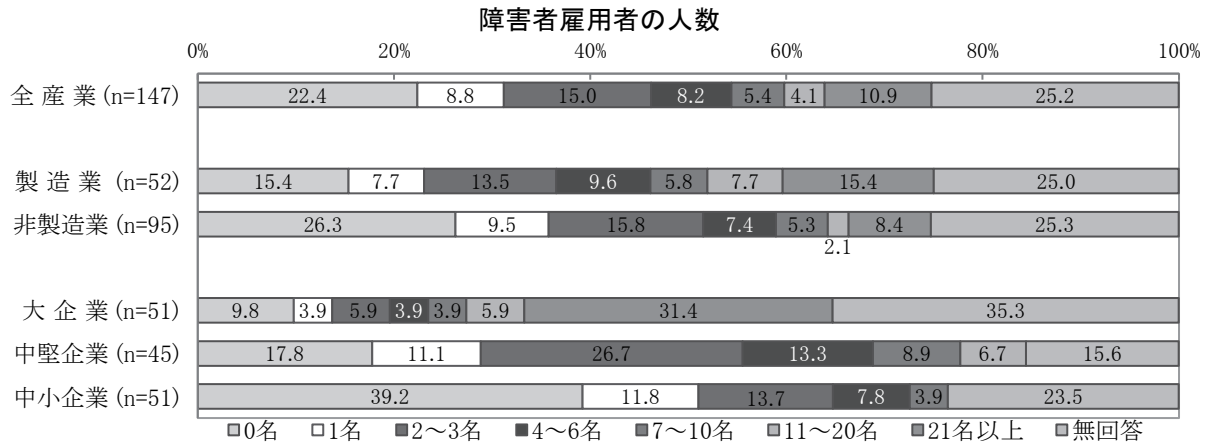


IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q.6

貴社における障害者雇用者の人数と占める割合、過去5年程度における変化の方向性を教えてください。



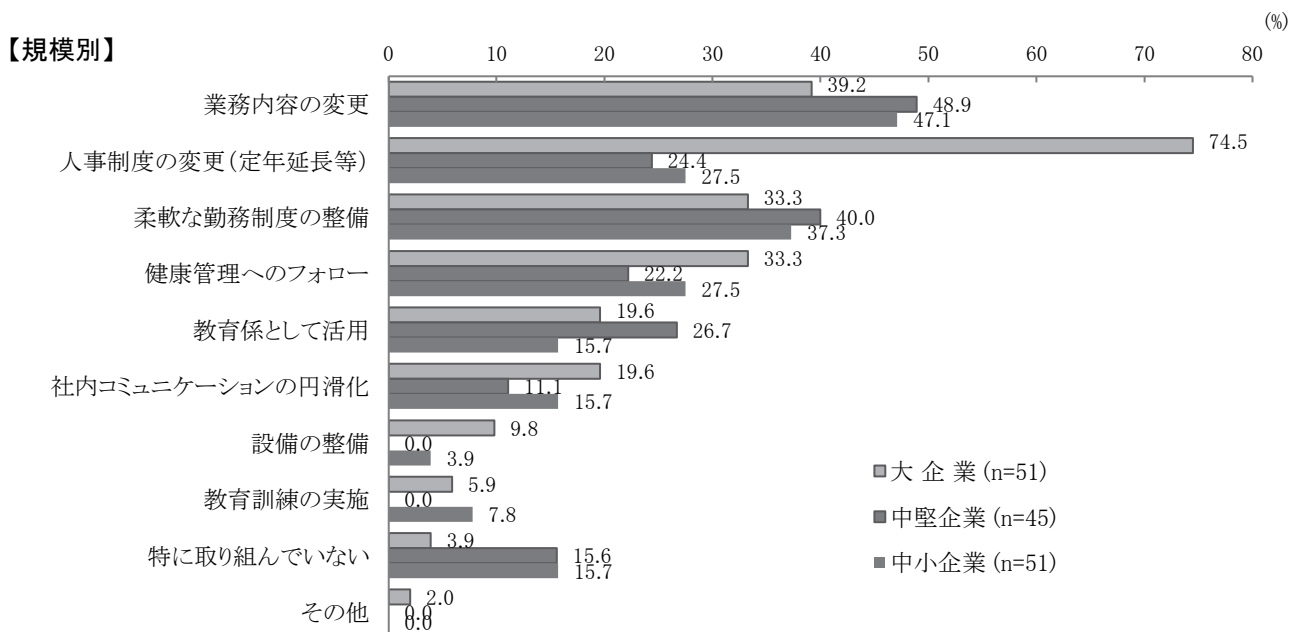
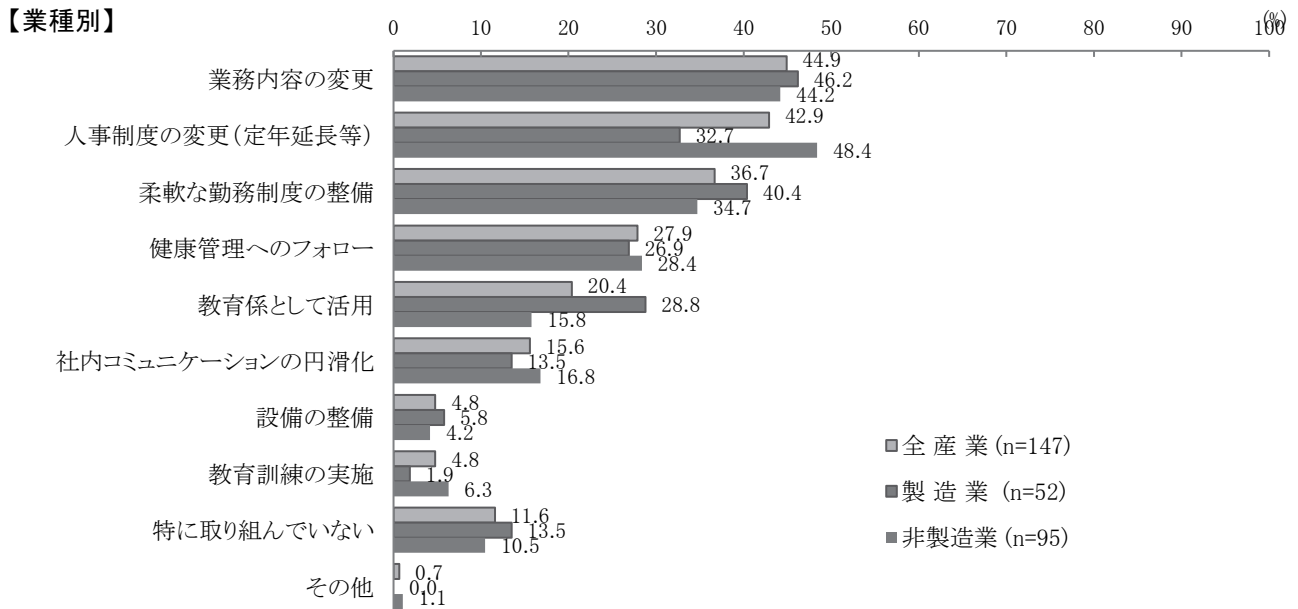
IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

Q.7

高齢者の活躍のために実施している取り組みを教えてください。

高齢者の活躍のために実施している取り組み（複数回答）



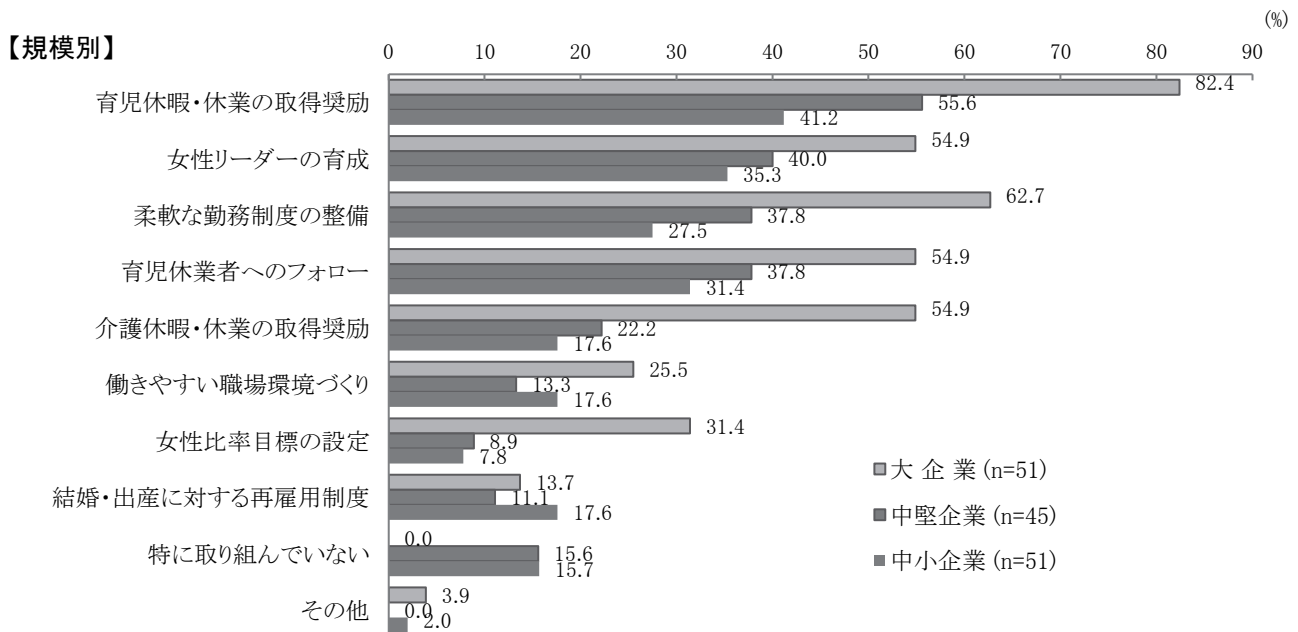
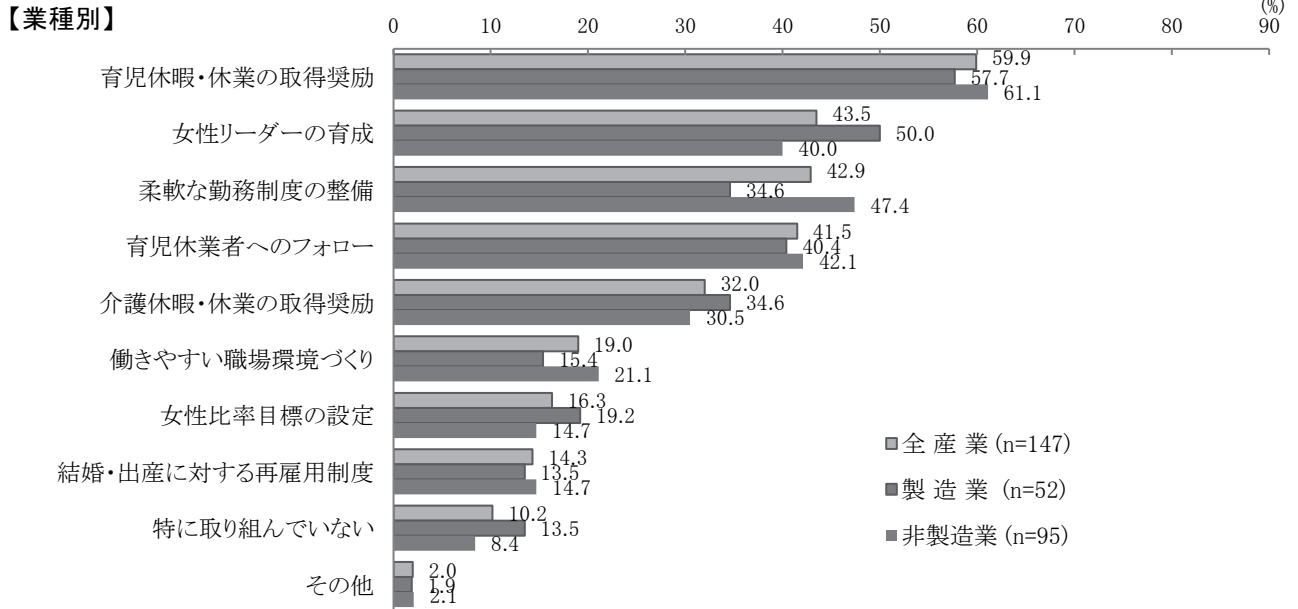
IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

Q.7

女性の活躍のために実施している取り組みを教えてください。

女性の活躍のために実施している取り組み（複数回答）



◎その他の具体的な回答

・正社員登用制度を増やす

・産休・育休者との三者面談とワークショップの開催

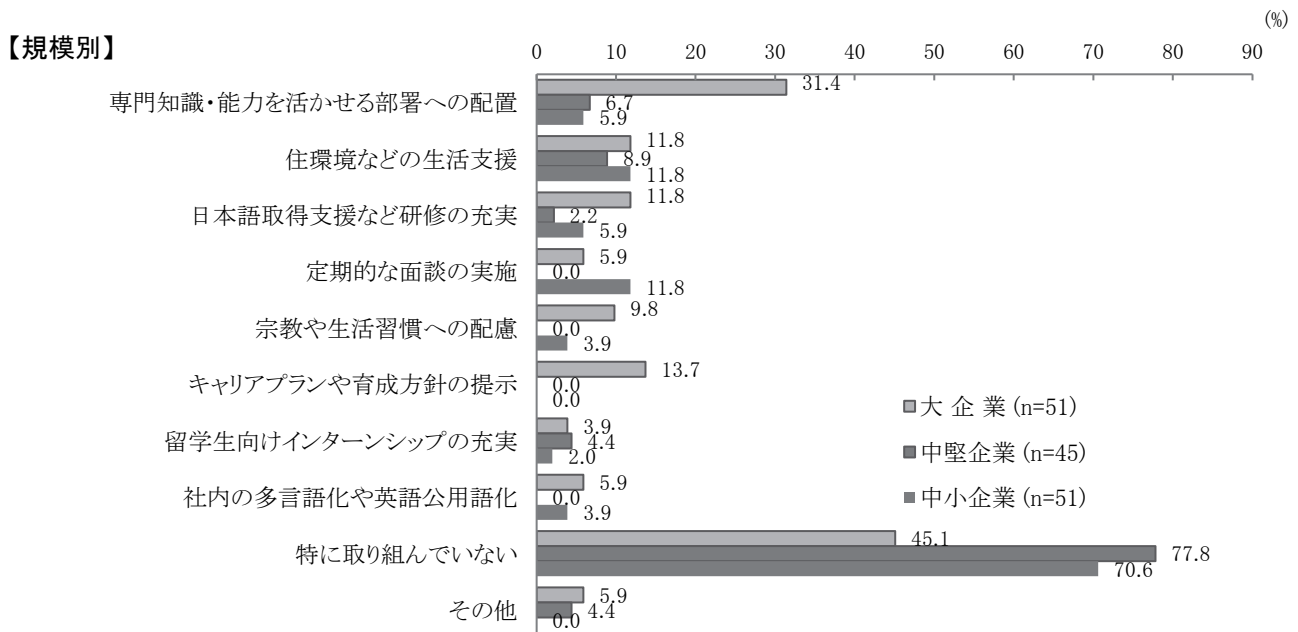
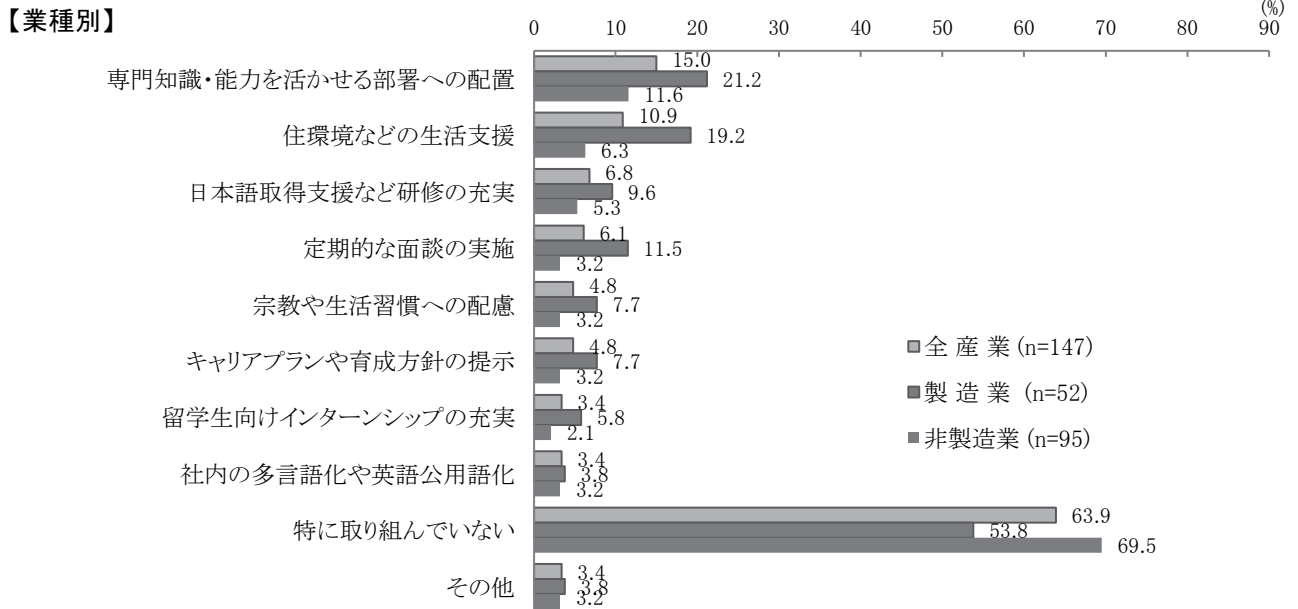
IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q.8

外国人材の活躍のために実施している取り組みを教えてください。

外国人材の活躍のために実施している取り組み（複数回答）



◎その他の具体的な回答
 ・職場に外国人材がない

・日本人と同様

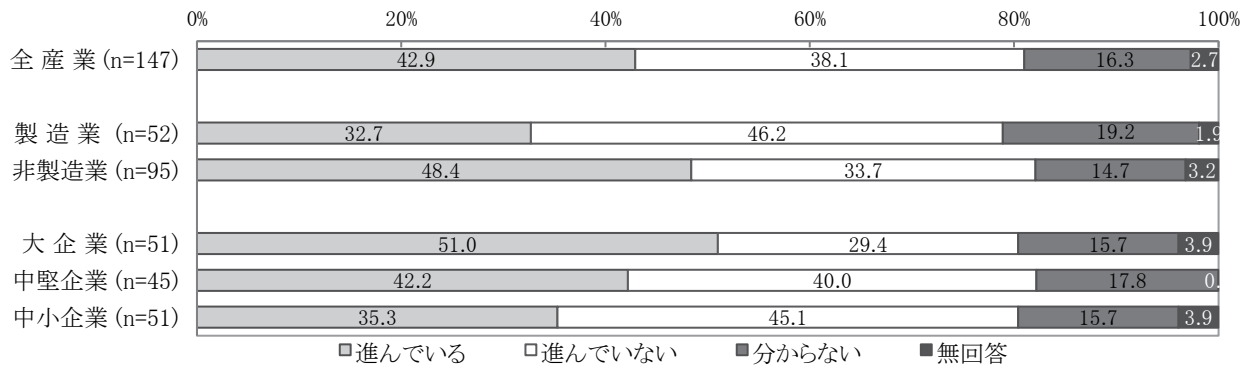
IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

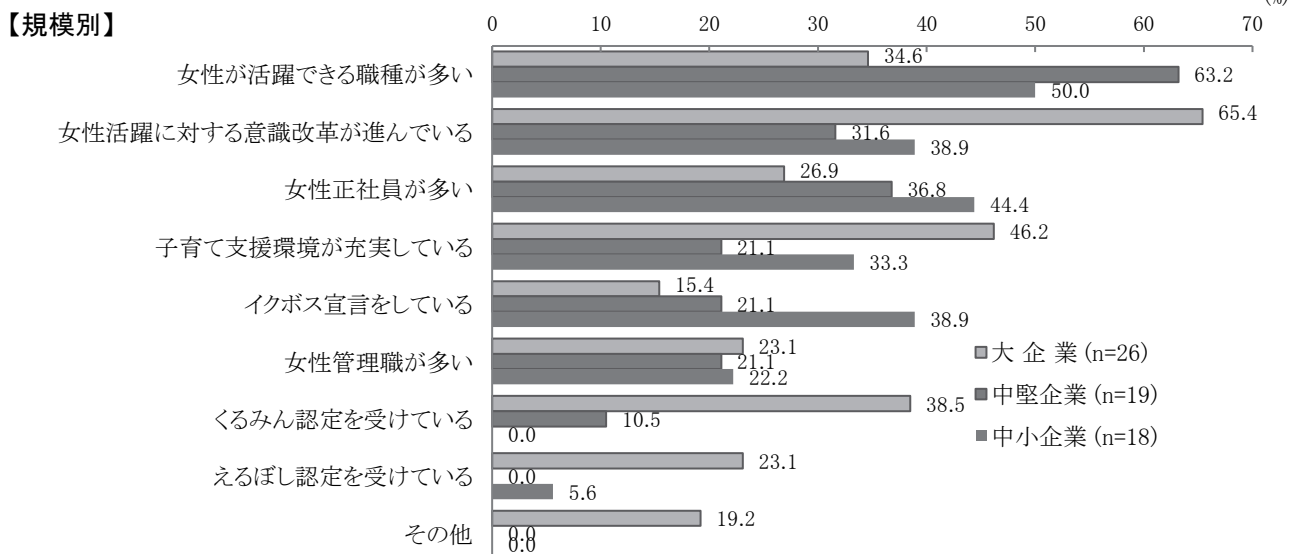
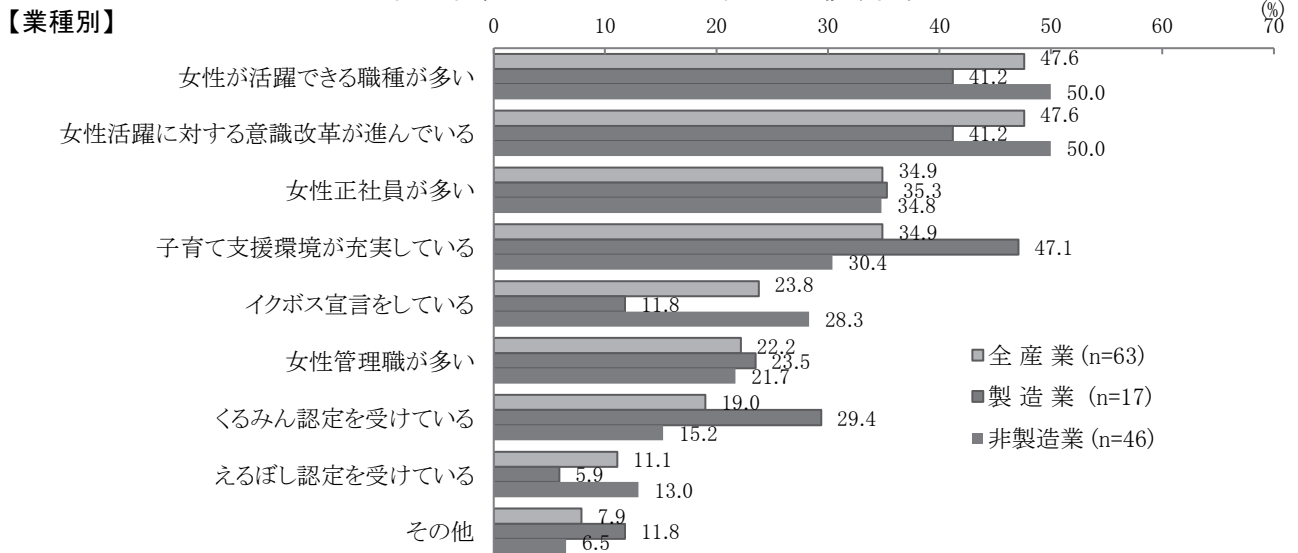
Q.9

貴社において女性の活躍は進んでいると思いますか。

貴社において女性の活躍が進んでいるか



女性の活躍が進んでいると思う理由（複数回答）



◎その他の具体的な回答

・施策を推進中

・イクメンサポーター宣言をしている

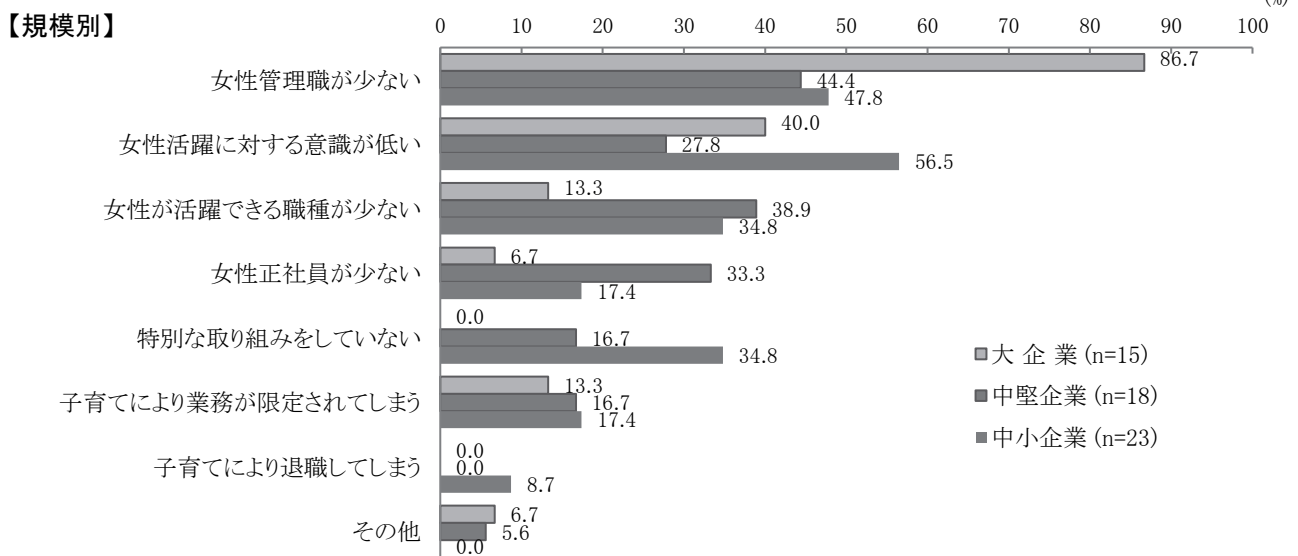
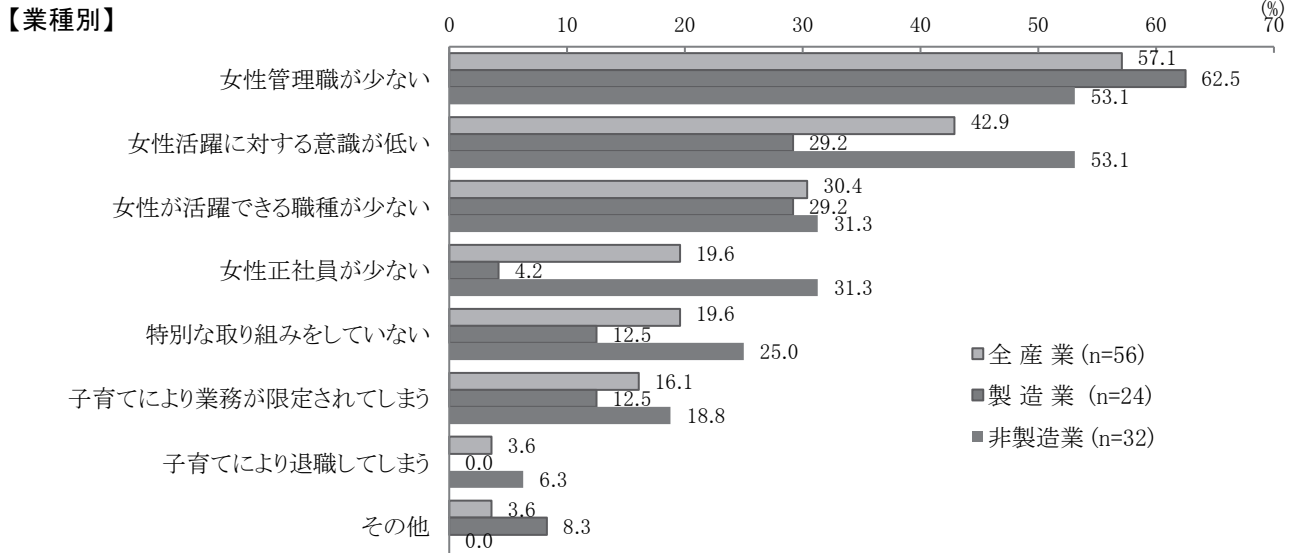
IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きます。

Q.9

貴社において女性の活躍は進んでいると思いますか。

女性の活躍が進んでいないと思う理由（複数回答）



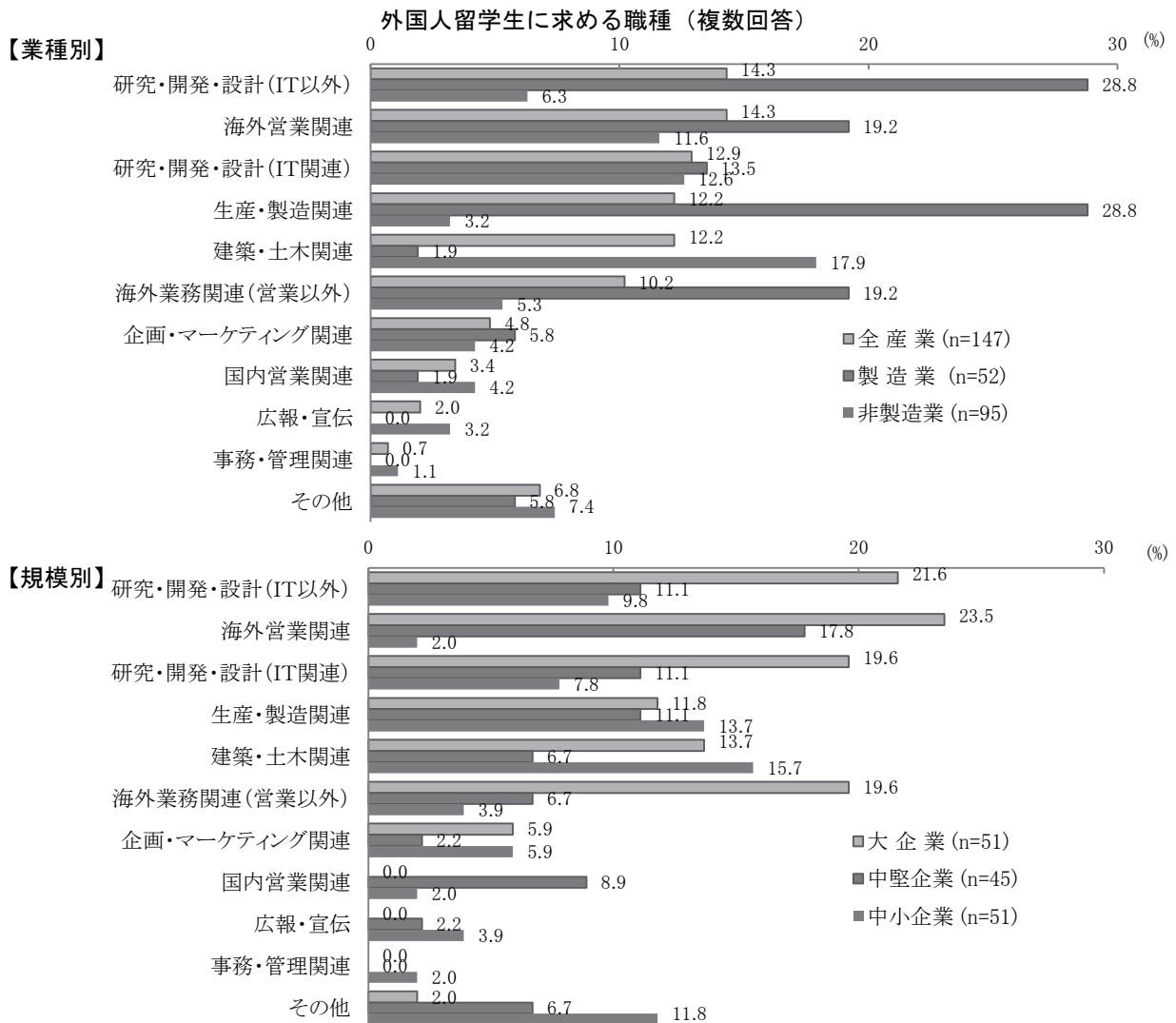
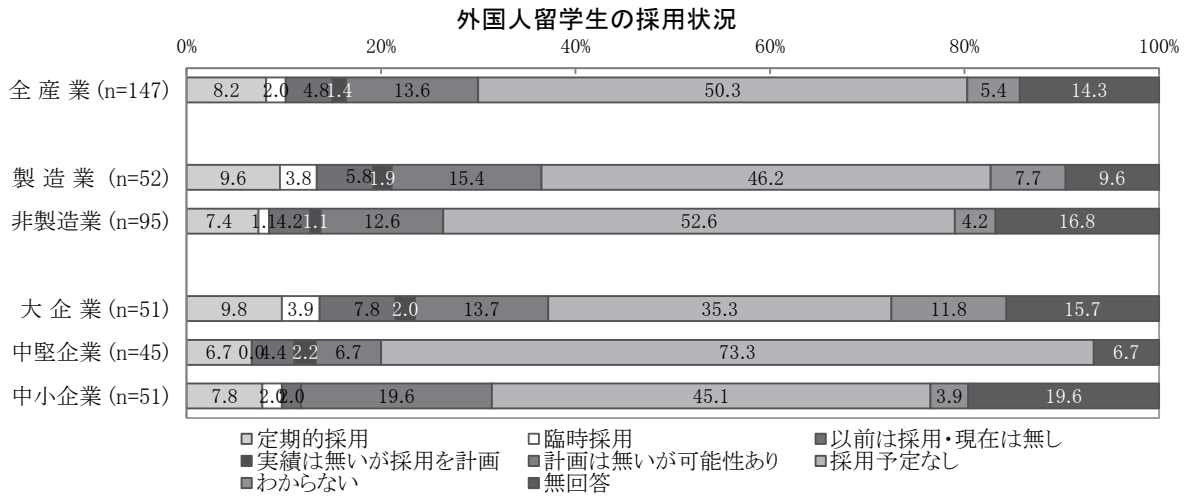
◎その他の具体的な回答

IV その他

3. 貴社における多様な人材の活躍についてお聞きします。

Q.9

外国人留学生の採用状況と外国人留学生に求める職種を教えてください。



◎その他の具体的な回答



ACCESS!
SUCCESS!
HOKURIKU

はじめよう、北陸サクセス。

2020年4月発行

北陸経済連合会

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビルディング4階

TEL : 076-232-0472 FAX : 076-262-8127

e-mail info@hokkeiren.gr.jp

URL <http://www.hokkeiren.gr.jp>

北陸物語 **facebook**

<https://www.facebook.com/hokuriku.monogatari>